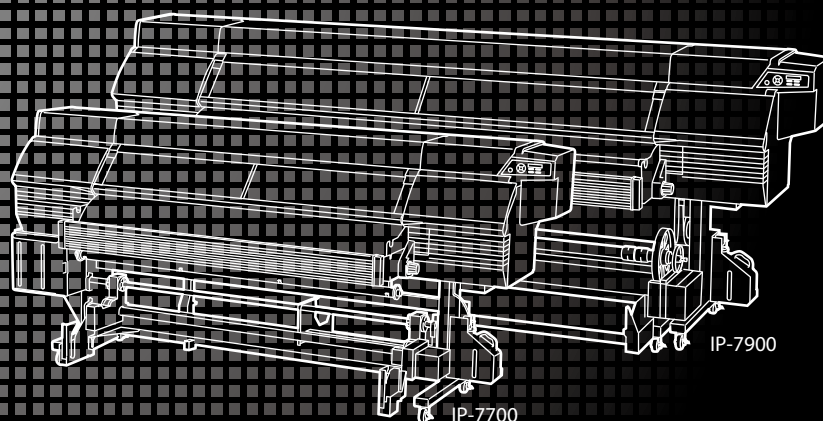
溶剤インク　カラーインクジェットプリンタ

IP-7900-00/7700-00

基本操作ガイド

ご使用の前に、本書をよくお読みの上、正しくお取り扱いください。
また、お読みになった後も、必要なときにすぐに見られるよう、大切に保管してください。

U00117677201

印刷する前に
印刷してみる
メンテナンス
こんなときには
ふろく

株式会社 セイコーアイ・インフォテック

U00117677201　　2010 年 5 月

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

「JISC61000-3-2 適合品」
JISC61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

警　告

紙幣、有価証券などをプリンタで印刷すると、その印刷物の使用如何に拘わらず、法律に違反し、罰せられます。
関係法律
刑法　第 148 条、第 149 条、第 162 条
通貨及証券模造取締法　第 1 条、第 2 条等

はじめに

このたびは、IP-7900-00/7700-00　溶剤インク　カラーインクジェットプリンタ（以後、本機と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機は、USB インタフェースを搭載し、104 インチ幅まで（IP-7700-00 は 74 インチ幅まで）のメディア対応の溶剤インクを採用したカラーインクジェットプリンタです。

本書、**「IP-7900-00/7700-00　溶剤インク　カラーインクジェットプリンタ　基本操作ガイド」**では、本機の特徴や各部の名称など、ご使用の前に知っておいていただきたい情報と電源のオン／オフやメディア・インクのセット方法など基本的な取扱いについて説明しています。

本書に記載の次の事項は、本機を正しく安全にお取り扱いいただくために、本機をご使用になる前に必ずお読みください。

- 安全にお使いいただくために
- 納入品
- マニュアルの表記について

また、本書はお読みいただいた後も、必要なときにすぐ見られるよう、大切に保管してください。

目的別もくじ

基本操作ガイド

本機を初めて使う場合にまずはお読みください。
メディアのセット方法、印刷から印刷物の回収、使用後のメンテナンス方法など、日常的な使用方法を説明しています。

参照ページ

応用操作ガイド

細かい設定や調整など、本機の性能を十分に発揮させ、効果的に本機をご使用いただくための内容を説明しています。

もくじ

安全にお使いいただくために

本書では、本機を安全に正しくお使いいただくため、または機器の損傷を防ぐため、次の記号を使って注意を喚起しています。

これらの記号の意味は次のとおりです。内容をよく理解して、これらの記号が表示されているところの記載事項については、必ずお守りください。

⚠警告	**この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
左の表示例は安全上の**「警告または注意事項」**があることを表しています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
左の表示例は**「分解禁止」**を表しています。

●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。
左の表示例は**「電源プラグをコンセントから抜く」**ことを表しています。

⚠ 警告　必ず、下記の警告事項をお読みになってからお使いください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。

本機をアース接続してください。アース接続されないで使用しますと、万一漏電した場合は火災や感電の原因になります。

電源コードを接続するときは、電源プラグを根元まで押し込んでください。また、電源コードをはずすときは、プラグ部またはコネクタ部を持ってください。コードを引っ張るとコードに傷が付き、火災や感電、故障の原因になります。

変換プラグは使用しないでください。

本機を分解したり、改造したりしないでください。事故や故障の原因になります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工、加熱したりしないでください。また、束ねたり、重い物をのせたり、引っ張ったりしないでください。破損した電源コードを使用し続けると火災や感電、故障の原因となります。破損した場合は新しいものに交換してください。

湿気の異常に多い場所や水分のかかる可能性のある場所では、絶対に使用しないでください。火災や感電や故障の原因になります。

本機の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼさないでください。火災や感電、故障の原因になります。

濡れた手で、電源コードなどを接続したり、はずしたりしないでください。感電の原因になります。

次のような場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、弊社サービス拠点に修理をご依頼ください。異常状態のまま使用すると、事故や火災の原因になります。また、お客様による修理危険ですから絶対にお止めください。

◇異臭がする、発熱した、煙が出た、または異常音が発生したとき

◇本機の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入ったとき

◇サービス拠点で対処する異常が発生したとき

インクパックおよびサブカートリッジは、絶対に火気に近づけないでください。引火した場合は、火災の危険があります。

インク、保管液、洗浄液、キャップクリーニング液ワイプクリーニング液、廃インクは飲んだり、目の中に入らないように注意してください。呼吸困難になったり、目の障害の原因となります。

もし目に入った場合は、直ちに大量の清浄な水で洗い流した後、医師の手当てを受けてください。

また、誤って飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず直ちに医師の手当てを受けてください。

本機をぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因になります。

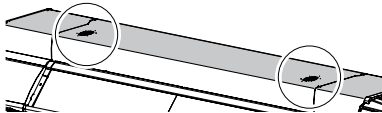
本機のヒータ部は高温になります。やけどに注意してください。

インクパック、サブカートリッジおよび廃インクボトルは、子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意　必ず、下記の注意事項をお読みになってからお使いください

手がはさまれたり、巻き込まれたりする可動部の周辺では、注意して作業してください。

作業場所は換気をしてください。換気しないとインクの臭いで気分が悪くなる恐れがあります。気分が悪くなったときは、風通しの良い場所で安静にしてください。

ロールメディアは重いので、取り扱うときは台車などの運搬器具を使って、落としたりしないように注意してください。足の上に落としたりすると、けがをする恐れがあります。

インクが肌や衣服に触れないように注意してください。インクが肌に付着した場合は、直ちに石鹸と水ですぐに洗い流してください。

このほか、各項で示す警告、注意事項についてもお守りください。

電源についての注意

1. 本機はコンセント近傍に設置し、緊急時に電源プラグを抜くために、そのコンセントへは容易に手が届くようにしておいてください。
2. モータなどのノイズ発生源となる機器と同じ系路から、電源をとらないでください。
3. ご使用電源は、本機やオプションの仕様に合わせてお使いください。
4. 一ヶ月に一度は本機の電源を切り、次のような点検をしてください。
   ①電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていること
   ②電源プラグの端子やコンセントに細かい埃がついていないこと。埃は乾いた布で除去してください。

プリンタ本体についての注意

1. 本機の上に物を置いたり肘をついたりしないでください。特に図の排気口をふさがないように注意してください。

2. 無理な力をかけたり衝撃を加えないよう丁寧に扱ってください。
3. 印刷中は、フロントカバーを開けたり、加圧操作ノブを開放しないでください。印刷が終了してしまいます。
4. カバーの表面をベンジン、シンナーなどで拭かないでください。塗装がはげたり変質することがあります。また、カバーの汚れは柔らかい布などで軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に浸した布でよく絞ってから拭き取ってください。そのまま放置すると、装置の表面塗装がとれてしまう場合があります。
5. 弊社指定外の付属品、オプションの使用は、画質等に影響を与えるばかりでなく、故障の原因になり、保守ができなくなりますので使用しないでください。

本機のメンテナンスについての注意

溶剤インクの性質上、定期点検保守を必ず行ってください。

1. 毎日、キャッピングユニット、ワイパーブレードのクリーニングを行ってください。
2. ワイプクリーニング液が規定量入っていることを毎日確認してください。
3. 2 ヶ月毎にヘッドクリーニングキット IP7-125 を使って、プリントヘッドのクリーニングを行ってください。
4. 本機を長時間（2 週間以上）電源断状態で放置する場合は、サービスクリーンを行ってください。
5. サービスクリーンを行い、本機が放置され、再びプリントする場合には、必ずヘッドウォッシュとインク充填を行ってください。

消耗品についての注意

1. 指定のインクを使用してください。指定のインク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担となります。
2. インク、保管液、洗浄液には、品質確保のため有効期限が設定されています。それぞれの消耗品については有効期限内にお使いください。有効期限を過ぎた消耗品を使用すると、故障の原因となります。
3. 使用後のインクパックおよび廃インクは、産業廃棄物として処理してください。また条例などで処理方法に規制がある場合は、その規則に従って処理してください。
4. インクは、冷暗所に未開封の状態で保管してください。絶対に高温や直射日光のあたる場所には保管しないでください。印刷品質が低下する場合があります。
5. インクパックおよびサブカートリッジは分解・改造は行わないでください。故障の原因になります。
6. インクパックおよびサブカートリッジを落としたり、強く叩いたりしないでください。インクが漏れる場合があります。

メディアについて

■ メディアの種類

以下に示す種類の溶剤インク用市販メディアをご使用いただけます。ただし、設置環境やメディアのロットなどにより、印刷条件が変わる場合があります。事前に印刷テストをすることをお勧めします。
詳しくは、弊社営業所または、代理店にお問い合わせください。

- 塩ビ
- ターポリン
- メッシュターポリン
- 電飾ターポリン（FF）
- ソルベント用コート紙

■ メディア保管上の注意

- メディアを保管する際は、開封前／開封後に関わらず、直射日光や水濡れを避け、ほこり等が付かないよう梱包箱（袋）に入れて冷暗所にて保管してください。
- 急激な温湿度変化を避け、結露しないように保管してください。
- 立てた状態で保管すると、ロールの自重によって巻きずれが起こったり、メディア端部が傷つく場合がありますので、ご注意ください。
- ロールを積み重ねないでください。

■ メディアを廃棄する際の注意

- メディアおよび印刷物を廃棄する際は、廃棄地域の実態に合わせて、分別、回収、廃棄処理してください。また条例などで処理方法に規制がある場合は、その規則に従ってください。

■ メディアを使用する際の注意

- 開封した状態での温度湿度変動は避けてください。使用環境に 3 時間以上馴染ませてから、セットしてください。またエアコンのオン／オフによる湿度の変動にもご注意ください。
- メディアの特性上、低湿下ではカールが、高湿下ではシワが発生しやすくなります。常温常湿（23℃ 50% RH 付近）にてご使用ください。
- メディアに傷、シワ、めくれ、あるいはゴミの付着がある場合は、その部分を使用しないでください。特にメディアのエッジ（両端部）はメディア搬送上重要なので、傷んだメディアは使用しないでください。また、落下させたり、水などに濡らしたりしないでください。画質等に影響を与えるばかりでなく、故障の原因になる場合があります。
- 印刷面に手を触れず、余白部を持つようにしてください。手の皮脂や汗などの付着により画質が劣化する場合があります。
- セット時に、ロールに巻きずれが生じることがあります。ずれを修正してから使用してください。

■ 印刷物を取り扱う際の注意

- インクが乾燥するまでは印刷面に触れないでください。取り扱い時は余白部を持つようにしてください。印刷後、24 時間以内は特にご注意ください。
- 印刷面をこすると色落ち、色移りします。また印刷面同士を重ねると色移りする場合がありますので重ねないでください。
- コピーやレーザープリンタなどの印刷物と重ねないでください。インクまたはトナーなどにより貼り付く場合があります。
- 表面を強くこすったり、引っ掻いたりした場合や、メディアを折った場合は、印刷面が剥がれることがあります。
- 水に濡れた状態でこすったり、放置したりすると、印刷がにじんだり、落ちたりすることがあります。

■ その他の注意

- メディアは古くなるにつれ色褪せ、変質します。メディアの状態を確認し、状態のよいものをお使いください。
- メディアを切断すると紙粉などが発生し、ラミネート浮きの原因になる場合がありますので、ご注意ください。
- 糊付きのメディアを使用した際に、プラテン等に粘着剤（糊）が付着することがあります。その場合は、中性洗剤を湿らせた柔らかい布できれいに拭き取ってください。粘着剤がつくと、ジャムの原因になる場合があります。

■ メディアの印刷可能領域

メディアの印刷可能領域（主走査方向）は、メディア幅とメディアエッジガードの有無、カラーストライプの有無で決まります。通常はエッジガード有・カラーストライプ有の条件で左端から 10.0mm 内側・右端から 34.9mm 内側が印刷可能領域です。ただし、オプションのメッシュ印刷キット装着時あるいはプラテンシート添付の幅広エッジガード装着時は印刷可能領域が変わります。

・オプション未装着時

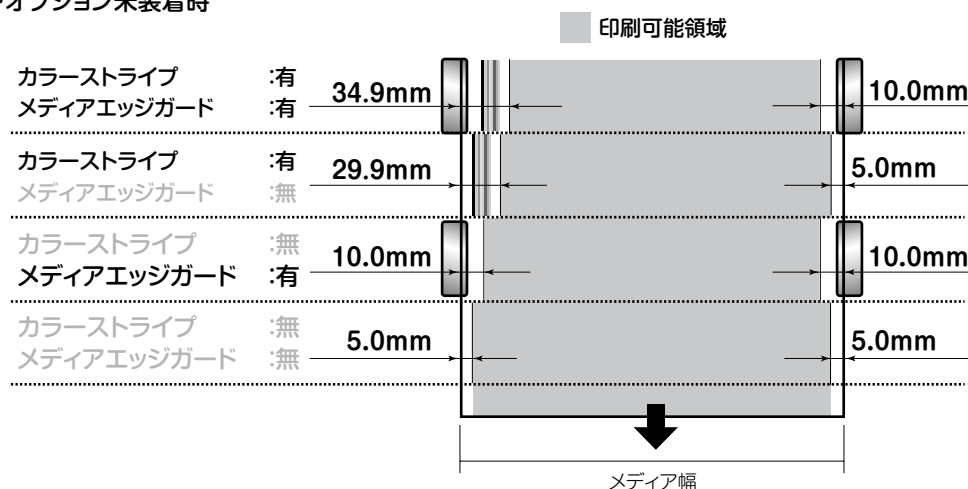
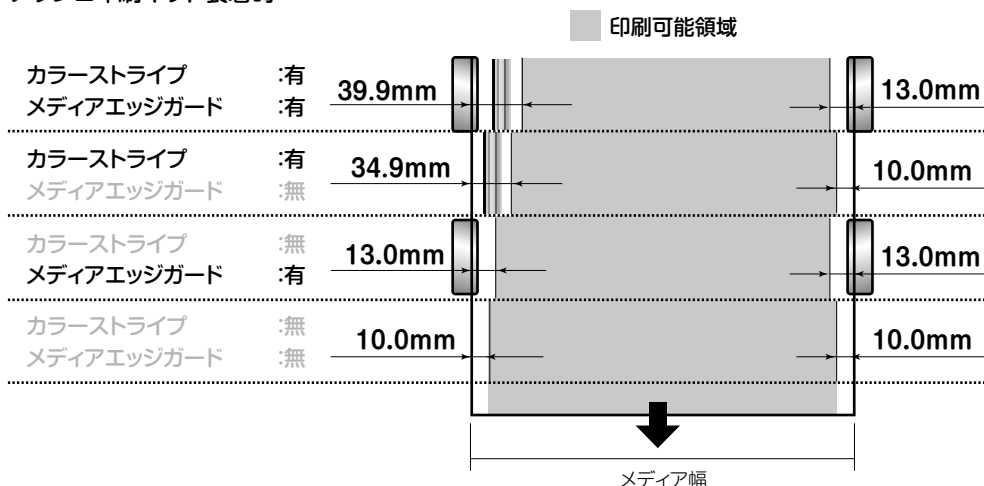
印刷可能領域

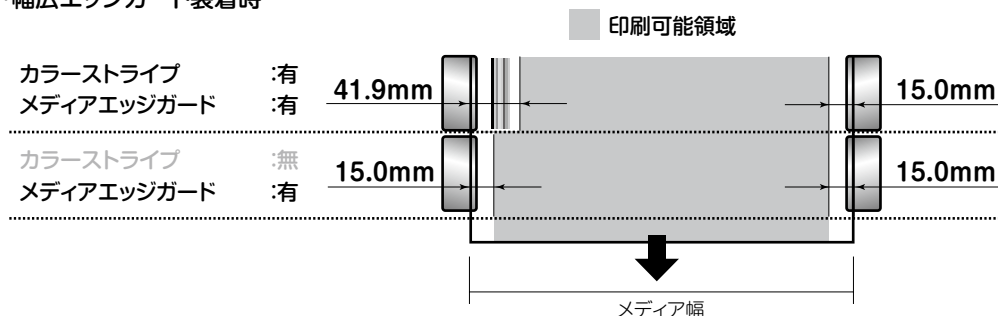
カラーストライプ :有
メディアエッジガード :有
34.9mm
10.0mm

カラーストライプ :有
メディアエッジガード :無
29.9mm
5.0mm

カラーストライプ :無
メディアエッジガード :有
10.0mm
10.0mm

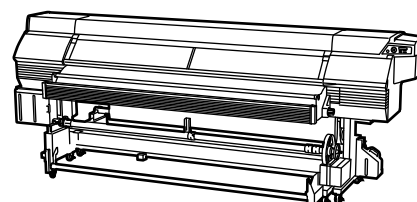
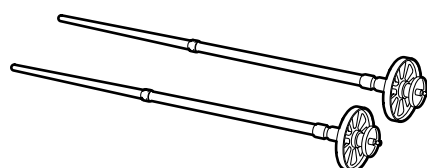
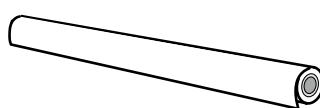
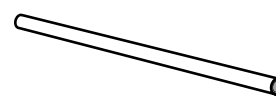
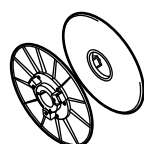
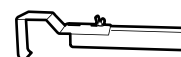
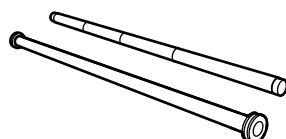
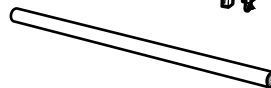
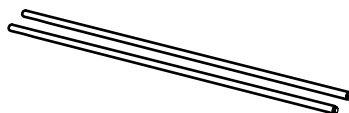
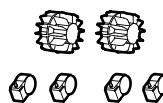
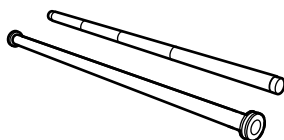
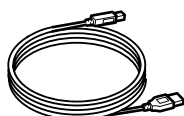
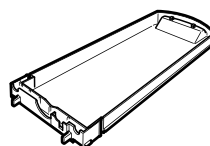
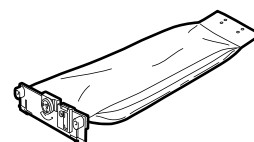
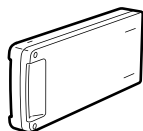
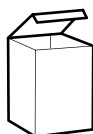
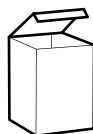
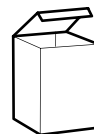
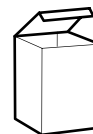
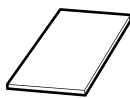
カラーストライプ :無
メディアエッジガード :無
5.0mm
5.0mm

メディア幅

・メッシュ印刷キット装着時

・幅広エッジガード装着時

納入品

本機の種々構成品は、オプションを含め本機の据え付け時に、全て本機に取り付けられます。次のものが納入されますので確認してください。
万一、不足品や破損品があった場合は、お買い上げになった販売店または最寄りのサービス拠点にお問い合わせください。

H-74s
IP-7700

■ 基本構成品

プリンタ本体 <1台>
・USB インタフェース搭載
・給紙装置、巻き取り装置付き

■ 同梱品

- スクローラフランジ <4個>
- 設置（調整用）メディア <1本>
- 紙管64"（巻き取り装置用） <1本>
- フランジスペーサ <1個>
- スクローラシャフト <2本>
- ロールスペーサー <2個>（固定具4個付き）
- フランジシャフト固定具 <4個>
- テンションバー（ギヤ付き 1本）（ギヤなし S:2本、ML:1本、L:1本） <2本>
- テンションバー用フランジ <2個>
- 固定リング <2個>
- テンションバー用フランジ（ねじ付き） <1組>
- 廃インクボトルIP6-109 <1個>
- フランジ押さえ ・キャップ側<1個> ・ワイプ側<1個>
- +ドライバー

■ 付属品

マニュアルの表記について

本書で説明に使用する、マーク、キー／ LCD ／ LED などの表記ルールを以下に示します。

マーク表記について

⚠警告

◆「安全にお使いいただくために」における「警告」に相当する内容を説明しています。

⚠注意

◆「安全にお使いいただくために」における「注意」に相当する内容を説明しています。

参考文

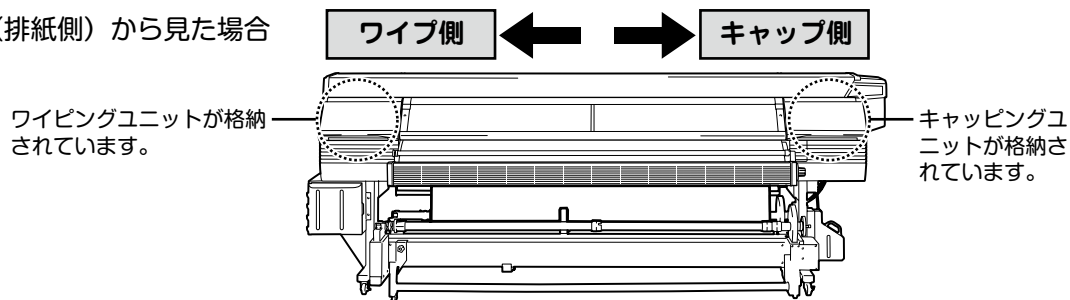
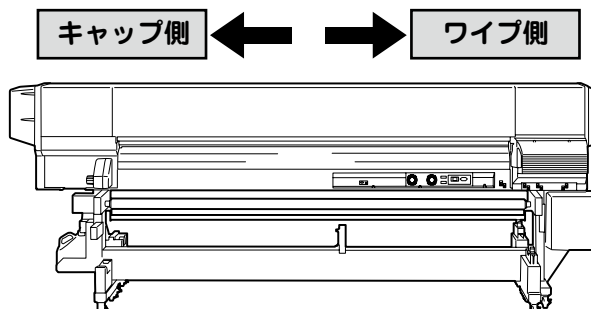
◆ 知っておくと便利なこと、操作などの補足事項を記載しています。

📖「参照」マークです。
このマークの後に、参照項や参照ページを示しています。

H-104s IP-7900 または H-104s IP-7900 ：IP-7900-00 固有の操作を記載しています。

H-74s IP-7700 または H-74s IP-7700 ：IP-7700-00 固有の操作を記載しています。

「キャップ側」、「ワイプ側」について

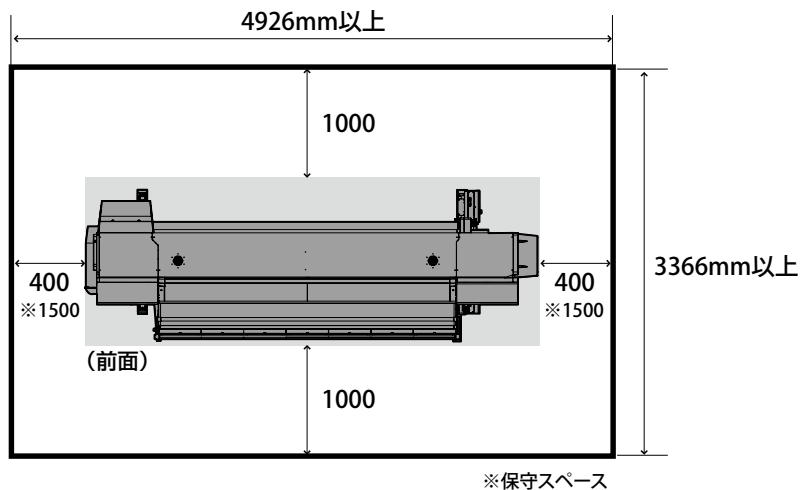
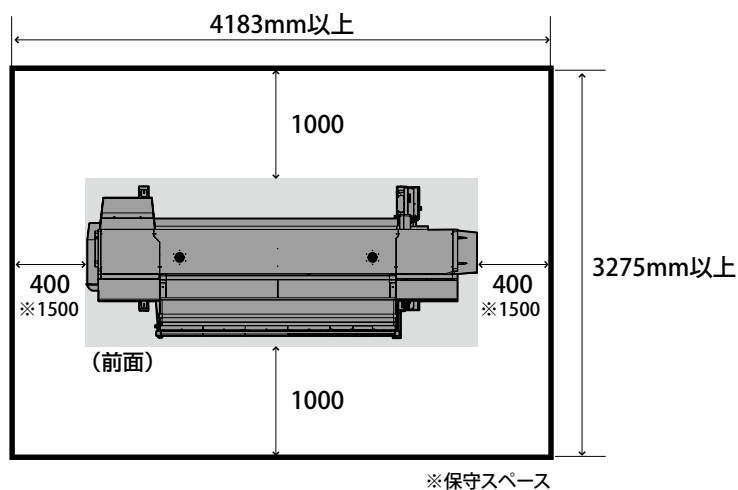
本書では、本機の左右方向を下図のように表記しています。

サンプルページ

操作パネルのLCDをあらわします。
インク
トウロク
メディア
オクリ
OK
◆ キャッピングユニットの
注意
◆ キャッピングユニットからキャリッジを離した状態で、放置しないでください。5分以内に作業を終了させてプリントヘッドをキャッピングしてください。プリントヘッドが乾燥して故障の原因となります。
クリーニングスティックにクリーニングローラを取り付ける
プリンタをオフラインにして、MENU キーを押す
キーを押す
OK キーを押す
キー操作を行うことでLCD画面が矢印方向に変わることをあらわします。
キー操作なしにLCD画面が矢印方向に自動的に変わることをあらわします。
フロントカバーを開けてから、キャップカバーを開ける
メンテナンス
サイドインデックスです。
表紙のインデックスと連動しています。
（右ページのみ）

使用条件

◆設置スペース／保守スペース

本機の前後左右には、消耗品の交換や出力物を処理するためのスペース、換気のためのスペースなど、通常運転時に必要なスペースだけでなく、故障の修理で部品を交換するためのスペースが必要となります。下図に示すスペースを確保してください。

H-104s IP-7900

H-74s IP-7700

高さ方向：2200
（単位：mm）

◆使用環境

■ 使用温湿度範囲

本機は、下記の温湿度範囲内でお使いください。

温度：15℃～ 30℃
湿度：30%～ 70%

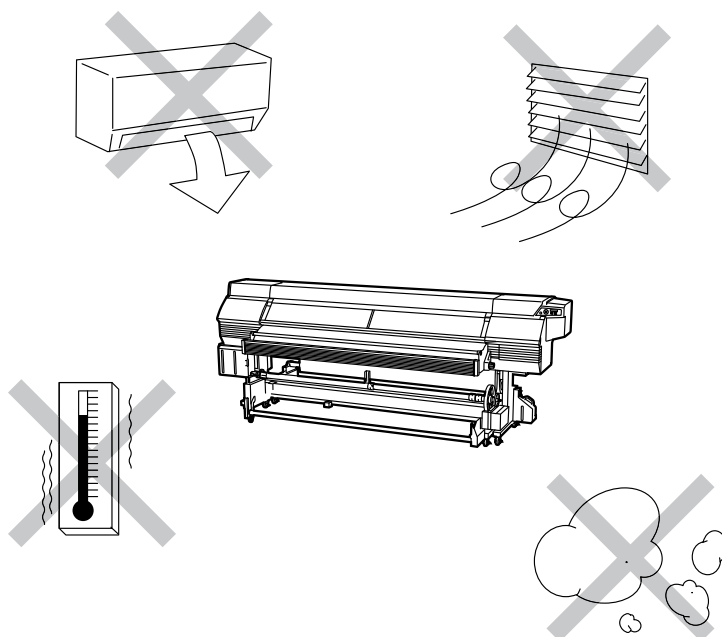
- より良い画質を得たい場合は、20 ～ 25℃の範囲でお使いいただくことを推奨いたします。
- 安定した印刷品質を得るために、プリントヘッドの温度が 40℃を超えた場合は、印刷速度を落として印刷します。

注　意

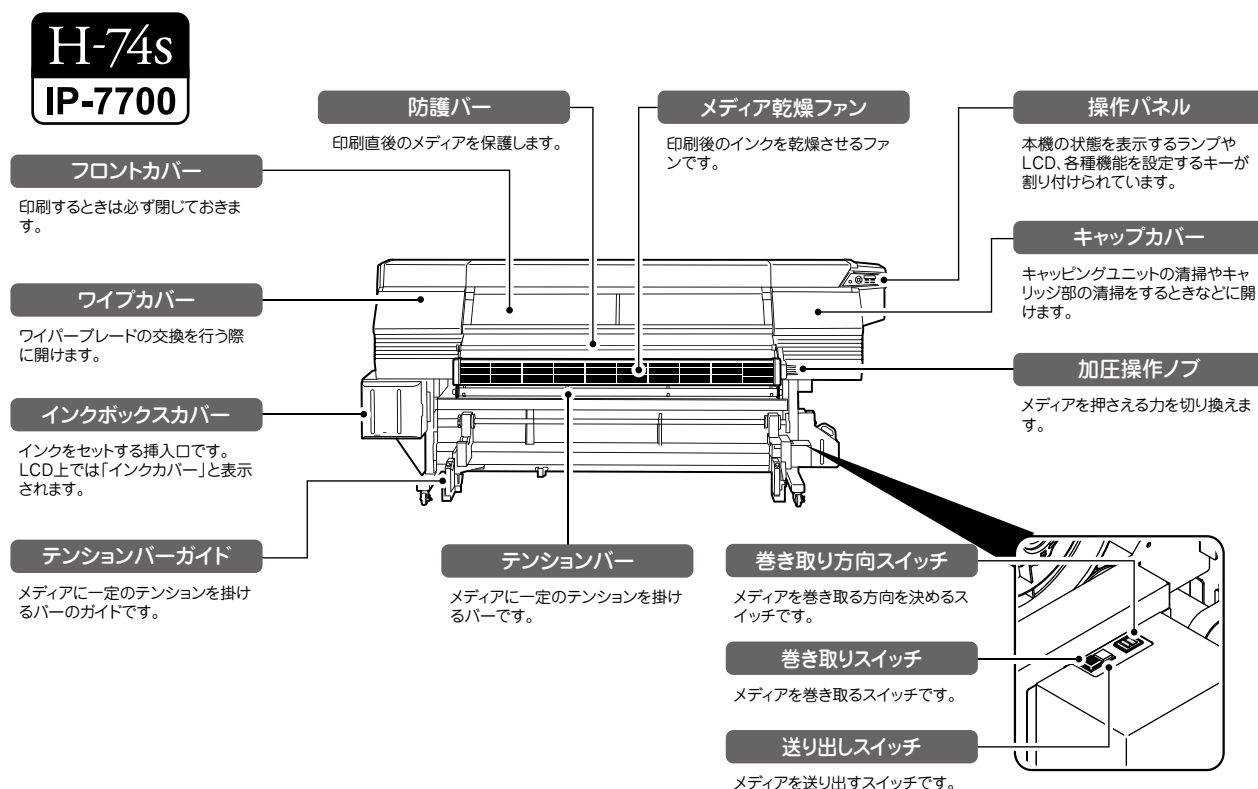
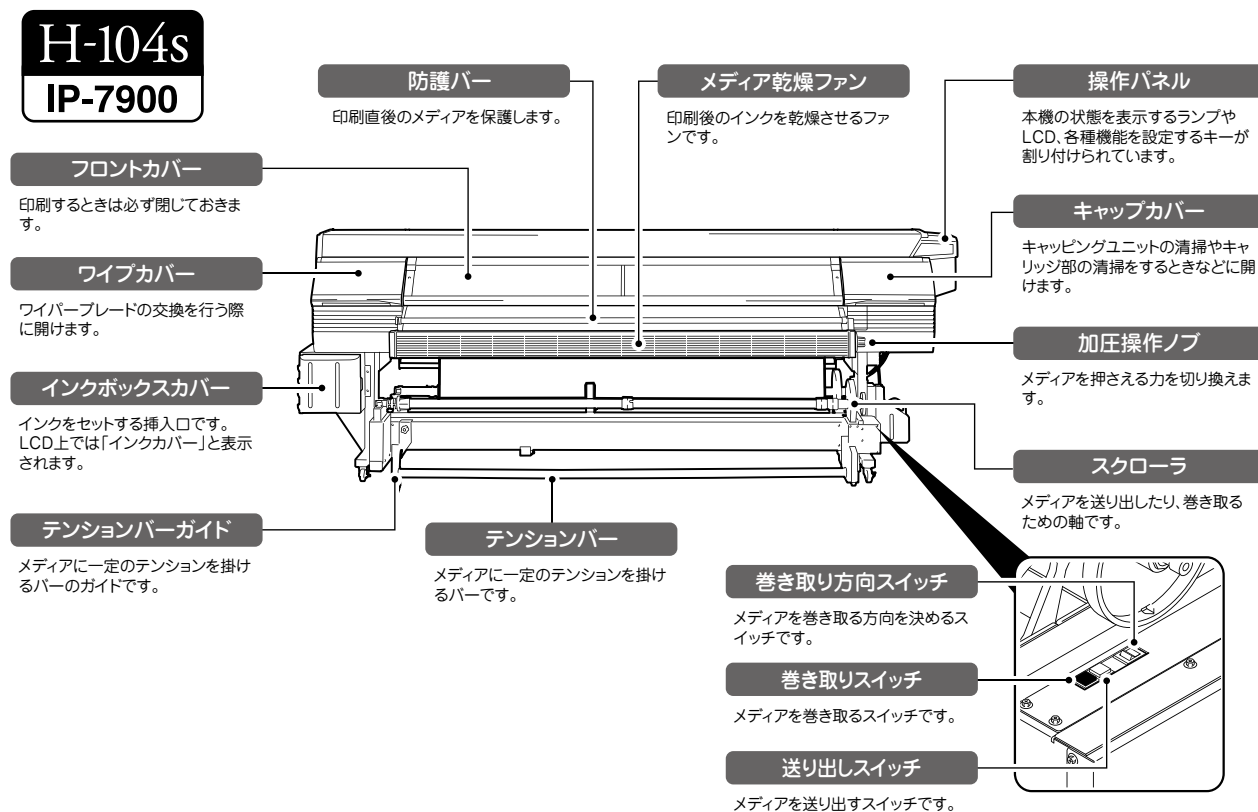
◆ 使用温湿度範囲外で使用した場合、印刷が停止したり、画質が乱れることがあります。

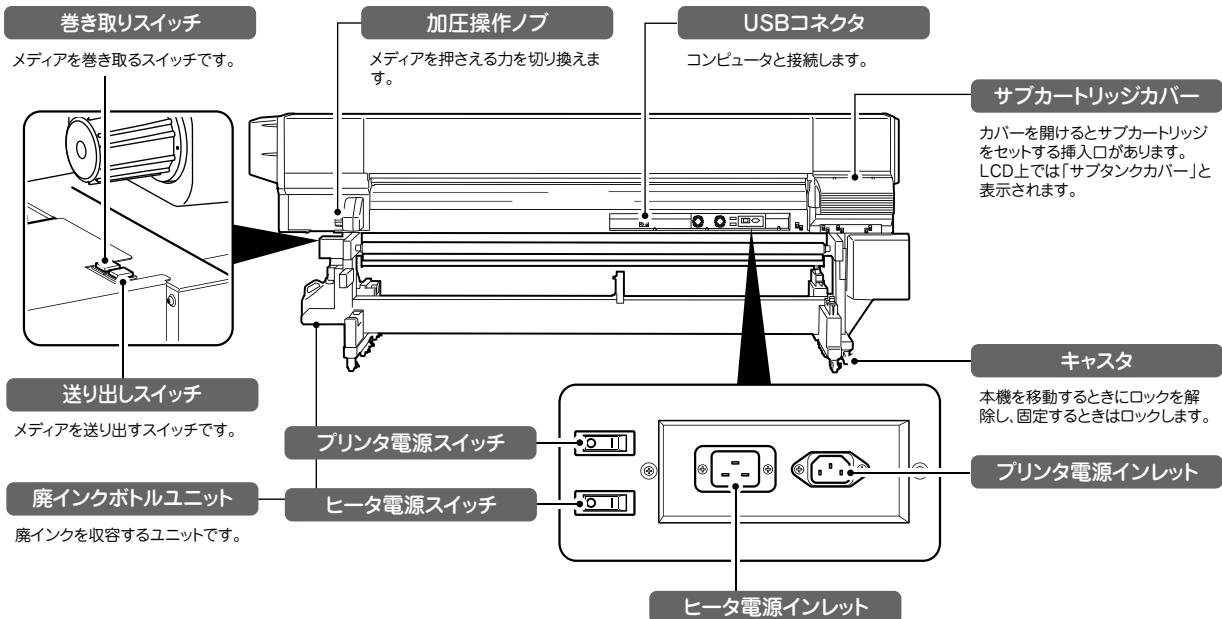
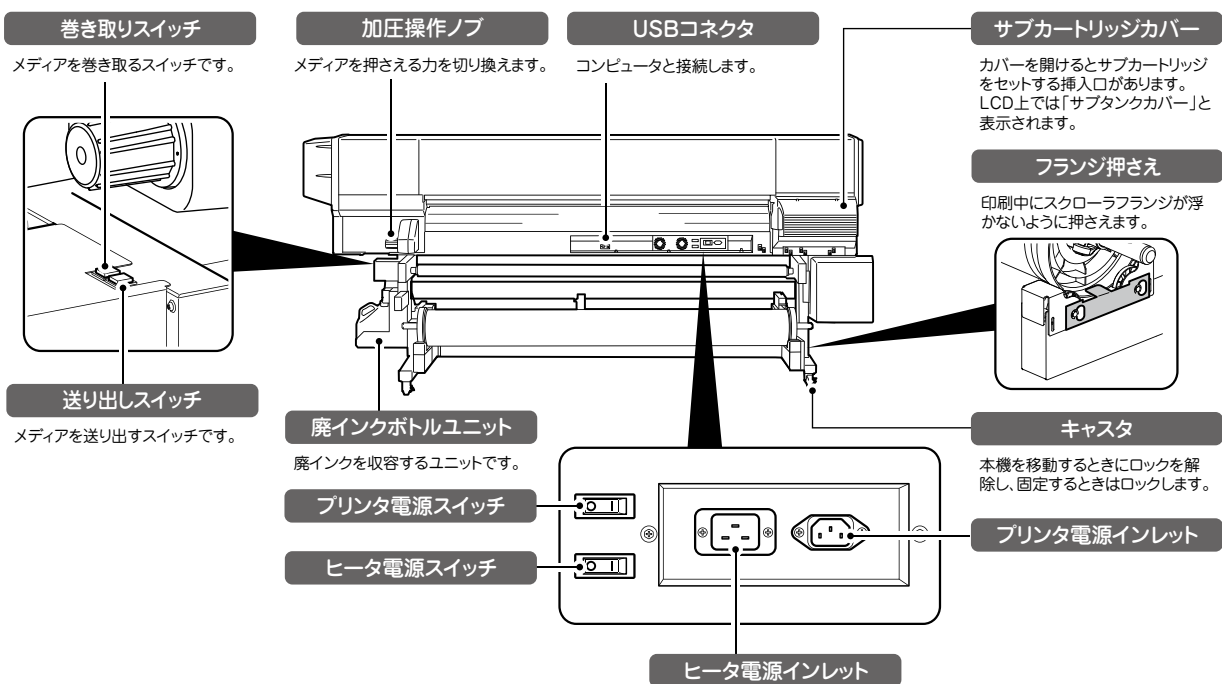
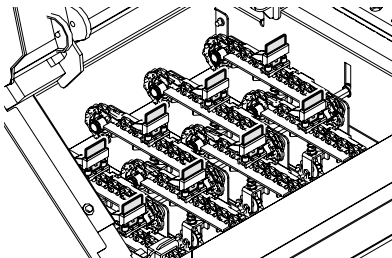
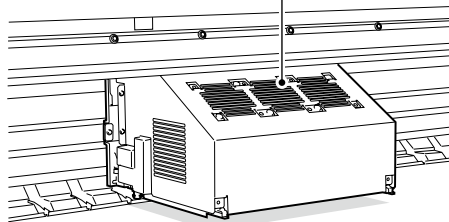
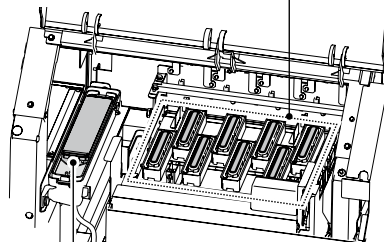
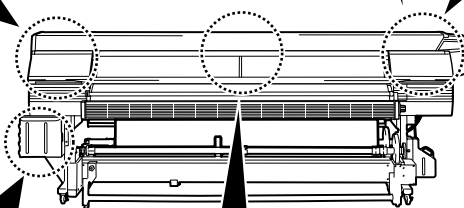
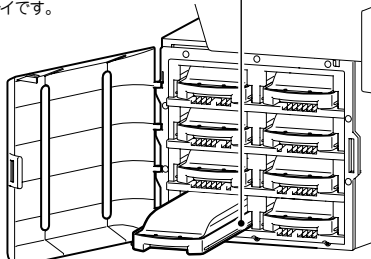
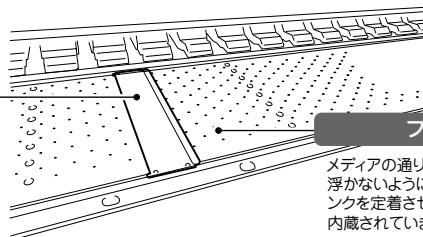
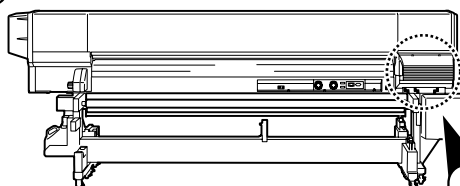
■ 設置禁止環境

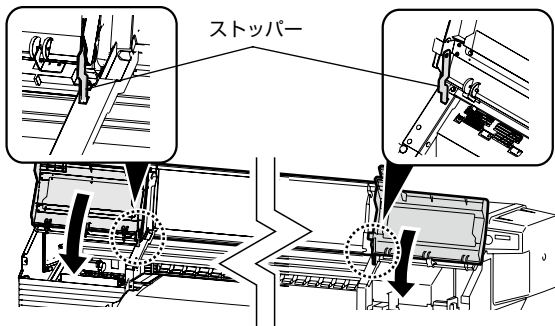
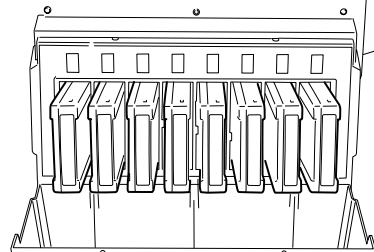
次のような場所には設置しないでください。

- 火の近くの場所
- 直射日光があたる場所
- 振動のある場所
- ホコリの多い場所
- 温度、湿度の変化の激しい場所
- 冷暖房機器の近く
- 水のかかる可能性のある場所
- 通風口などからの風が当たる場所
- ジアゾ複写機などから発生するアンモニアガスの影響が強い場所
- 換気の悪い場所
- 不安定な場所

印刷する前に

各部の名称とはたらき

◆本機前面（排紙側）

◆本機背面（給紙側）

H-104s
IP-7900

H-74s
IP-7700

◆本機内部

⚠注意

ワイプカバー、キャップカバーを閉める時は、必ずストッパーを外してから閉めてください。

◆操作パネル

本機の操作パネルには、キー，LED，LCD が下図のようにレイアウトされています。なお、エラー時や無効キー入力時には、ブザーで通知する機能もついています。

電源スイッチ
本機の電源をオン／オフする電源スイッチとして使用します。

ブザー
エラー発生時、無効キー入力の警告、および日常メンテナンスなどでプリントヘッドがキャップされていない状態の警告時に鳴動します。

LCD
本機の状態やメニュー画面などを表示します。（20桁、2行）

MENU ONLINE HEATER CANCEL OK

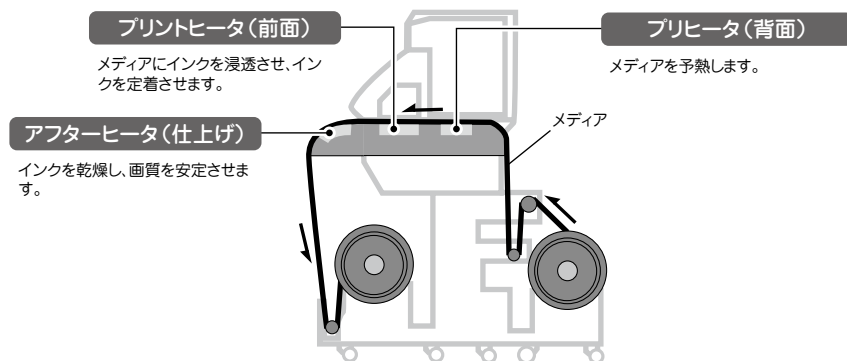
キー
本機のメニュー操作などに使用します。

キー	説明
ONLINE	本機のオンライン／オフラインの切り換えに使用します。
MENU	パラメータの入力補助（メニューの階層表示の切り換え）キーとして使用します。
CANCEL	入力したパラメータをキャンセルするときに使用します。
OK	メニューの確定、パラメータの確定に使用します。
HEATER	ヒータコントロールメニューに入るときに使用します。
∧ ∨ ＞ ＜	メニューグループの選択、メニューの切り換え（選択、数値のアップ／ダウン）などに使用します。

LED
点灯、点滅、消灯によって、本機の状態を表示します。

LED	説明
データLED（緑）	データの受信状態を表示します。 ・点滅：コンピュータからのデータ受信中 ・消灯：コンピュータからの受信データなし
エラーLED（オレンジ）	エラーの有／無を表示します。 ・点灯：エラーあり ・点滅：ワーニングあり ・消灯：正常（エラーなし）
インクLED（緑）	インクの有／無を表示します。 ・点灯：すべてのインクあり ・点滅：インクの残量が少ない ・消灯：インクなし
メディアLED（緑）	メディアの有／無を表示します。 ・点灯：メディアあり（ロールあるいはカットメディアどちらかが装着されている） ・点滅：巻き取りタイムアウト ・消灯：メディアなし（ロール、カットメディアがどちらもない）
ONLINE オンライン（緑）	本機のオンライン／オフライン状態を表示します。 ・点灯：オンライン ・点滅：プリントポーズモード ・消灯：オフライン

◆ヒータ

本機には、印刷メディアへのインクの定着・画質の安定化のために 3 つのヒータを搭載しています。

＊ 3 つのヒータは各々独立にコントロールされます。
ヒータ温度はパネルおよびソフト RIP からコントロールできます。

警告

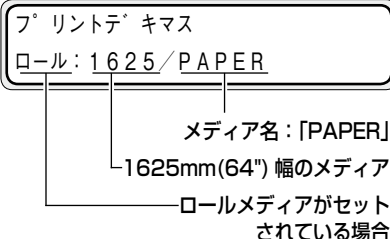
◆ 各ヒータ面は熱くなりますので、決して触らないでください。火傷をするおそれがあります。

オンラインとオフライン

本機はオンライン／オフラインを切り替えて使います。
　オンライン : コンピュータ（ソフト RIP）からの印刷が可能
　オフライン : 操作パネルからメニュー操作が可能

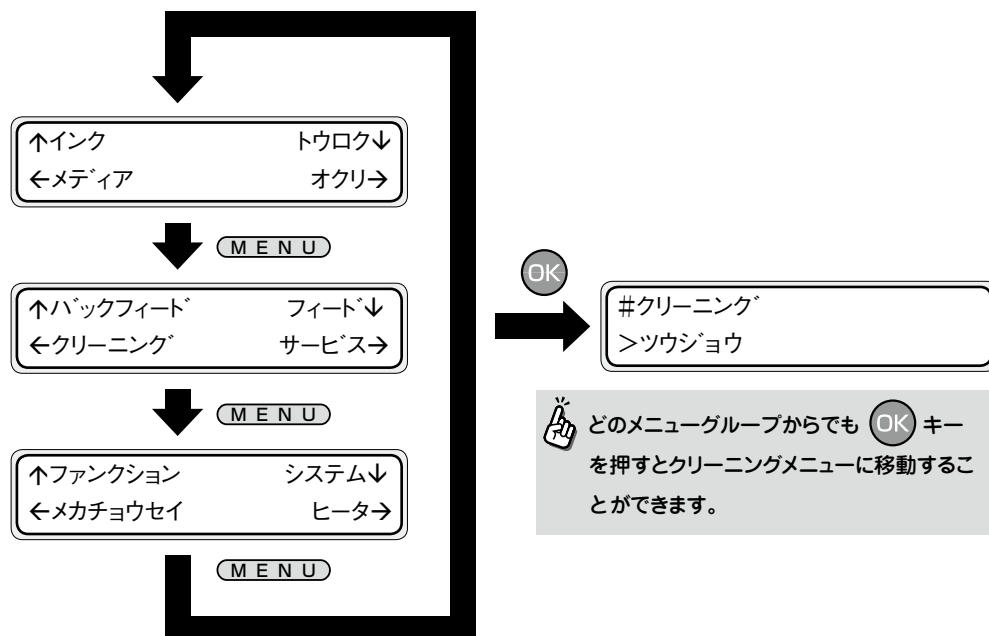
(ONLINE) キーを押すとオンライン／オフラインを切り替えることができます。

◆オンライン

オンライン LED が点灯しているとオンラインです。

◆オフライン

オンライン LED が消灯しているとオフラインです。

LCD にメニューグループが表示され、メニュー操作が可能な状態です。
メディアの登録や日常メンテナンス、プリントヘッドの調整など、本機のさまざまな設定ができます。

どのメニューグループからでも (OK) キーを押すとクリーニングメニューに移動することができます。

オペレーターコールエラーが表示されているときは…

◆ オペレーターコールエラー（88 ページ）が表示されている場合でも、(ONLINE) キーを押すとオフラインになり、メニュー操作が可能です。
※ (ONLINE) キーを押しても操作できない状態もあります。

印刷できるメディアの特徴

◆塩ビ

表面が塩化ビニール素材のメディアです。一般的には裏面に糊がついていて、剥離紙をはがしてそのまま貼ることができます。表面の光沢により、光沢塩ビ（ツヤ有り）・光沢なし塩ビ（ツヤ消し）・半光沢塩ビなどの種類があります。
また糊にも、透明糊の他に重ね貼りで下地が見えないようにできる「グレー糊」などがあります。表面の塩ビ素材が透明や半透明なタイプのものもあり、電飾看板などに使用されています。

◆ターポリン

ポリエステル系繊維の織物を表裏両面から塩化ビニールなどの合成樹脂フィルムでコーティングしたシートです。防水性があり、引き裂きにも強いので、主にテント生地や建築用養生材に使われており、インクジェット用のメディアとしてバナー広告などにも使われます。表面の光沢の違いにより、光沢（グロス）･マット･半光沢（セミグロス）などの種類があります。

◆メッシュターポリン

網目状に穴が開いたターポリンのことをさします。開いた穴から風が通り抜けることで、風による引き裂きに強く、強風時でも破損しにくいメディアです。ライナーと呼ばれる、インク吸収用の裏紙が付いているタイプと付いていないタイプがあります。ライナー付きのものは、通常のメディアと同様に印刷できますが、ライナーなしのものはメッシュ印刷用のオプションが必要になります。

◆電飾ターポリン（FF）

FF とはフレキシブルフェイスの略です。一般的に乳白色（半透明）のターポリンのことをさします。透過性があるので、主に内照式の電飾看板に使用されています。アクリル看板と比べて、軽量なので取り付け易く、風に対する引き裂き強度も高く、風圧により割れることもないので安全性が高いのが特徴です。

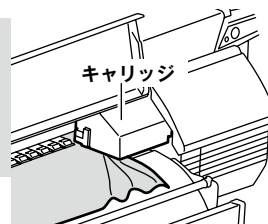
◆ソルベント用コート紙

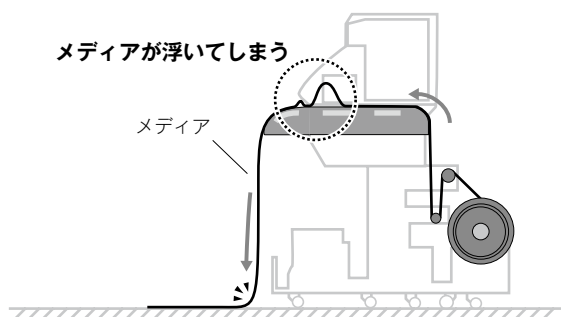
紙をベースに、ソルベントインクが鮮やかに定着するよう、印刷面にコーティングを施した用紙です。
製品によって様々な厚みのものがあります。また、重ね貼り（経師貼り）した際に下地が透けないように、
裏面が着色されているもの（ブルーバックペーパー）もあります。

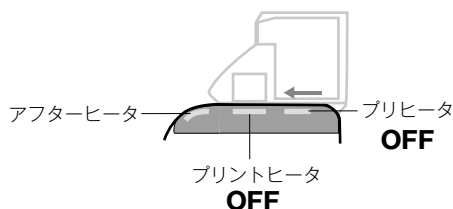
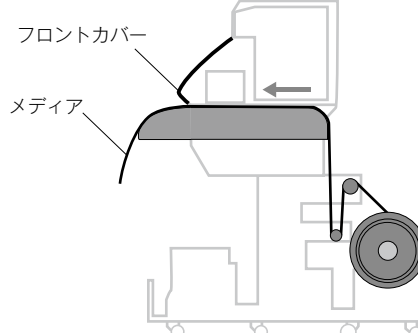
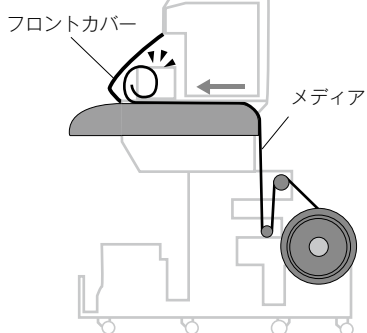
メディア実績の詳細は

◆ 弊社 Web サイト（http://www.seiko-i.co.jp）にも印刷実績のあるメディアのリストを公開しています。

メディアジャム注意点

メディアが浮いてしまうと､移動中のキャリッジがメディアの浮いた部分に衝突し、プリンタを破損してしまう恐れがあります。

メディアを巻き取らないで印刷する場合

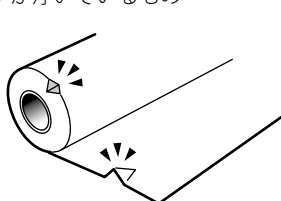
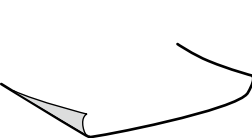
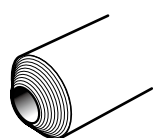
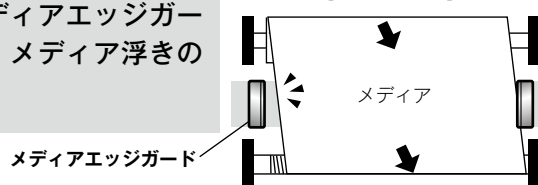
印刷中にメディアが床につき、プラテン上のメディアが浮いてしまう恐れがあります。

紙系メディアで印刷する場合

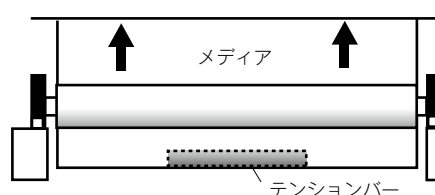
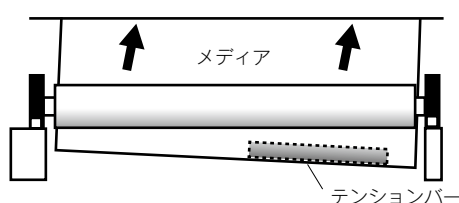
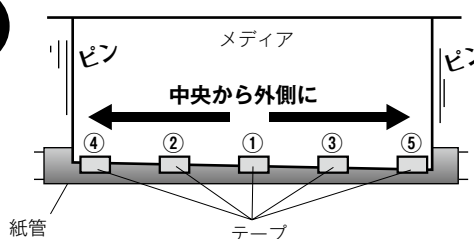
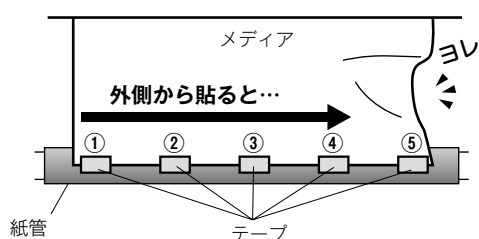
アフターヒータ以外に熱を加えるとシワになりやすいので、プリヒータとプリントヒータはOFFにして印刷してください。

メディアをセットする際、メディアの先端がフロントカバーより前に出るようにセットする

メディアの仕立て／管理にご注意ください

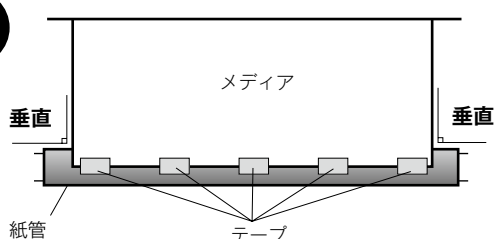
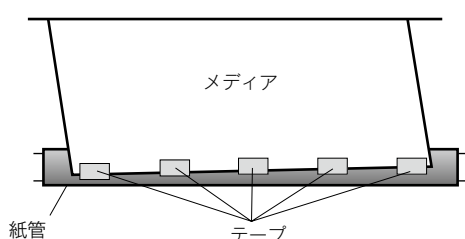
以下のようなメディアはメディア浮きやスキューの原因となります。

・タケノコ状に巻かれているもの

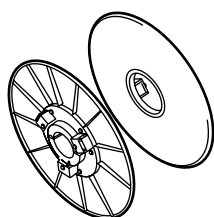
・左右のエッジがカールしているもの

・メディア端をぶつけるなどして、拡げるとエッジが浮いているもの

メディアがスキューすると、メディアエッジガードからメディアが外れてしまい、メディア浮きの原因となります。

テンションバーはメディアの中央にセットする

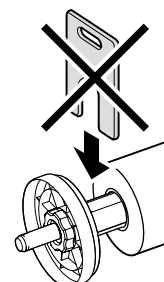
給紙側テンションバーは、メディアの中央にセットしてください。

巻き取り紙管にメディアを貼り付ける際は、中央から外側に向かってテープを貼る

巻き取り紙管にメディアを垂直に貼り付ける

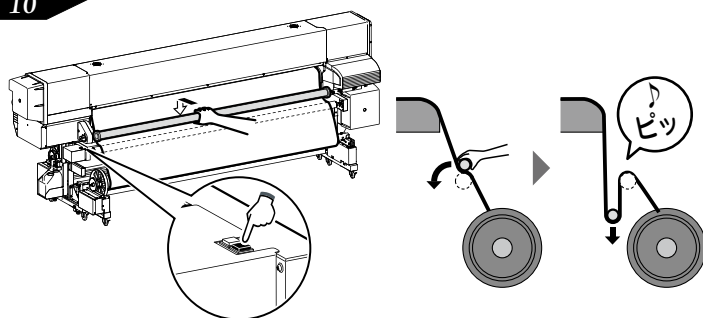
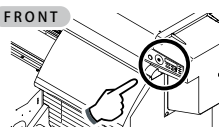
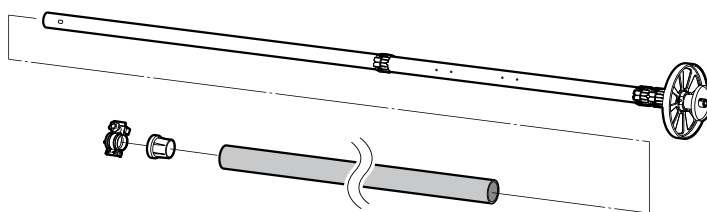
紙管に対して垂直にメディアを貼らないと、巻き取りが曲がっていき、プラテン上のメディアが浮いてしまう恐れがあります。

メディアを「たるみ巻き」で巻き取る場合

【IP-7900 をご使用の場合】

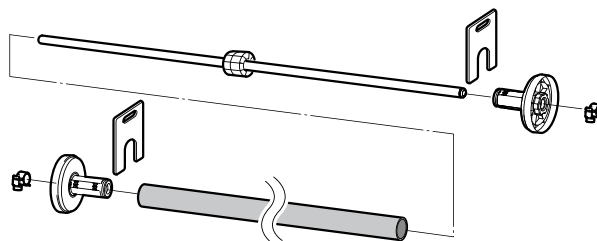
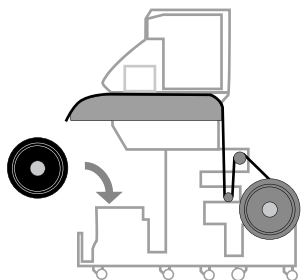
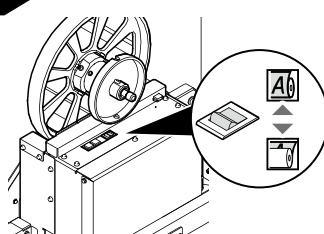
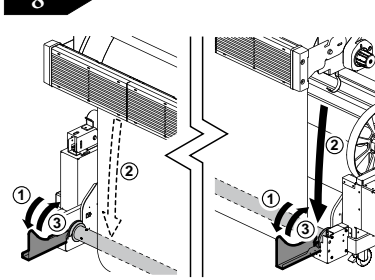
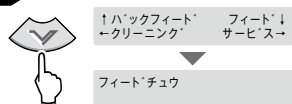
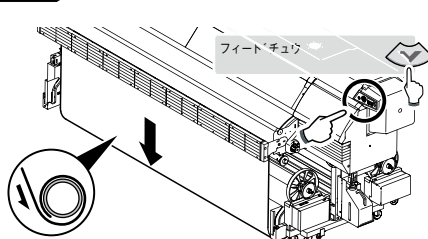
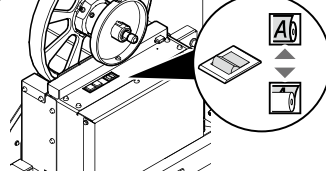
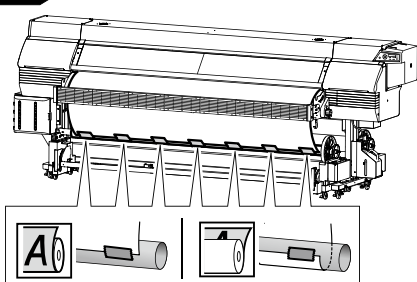
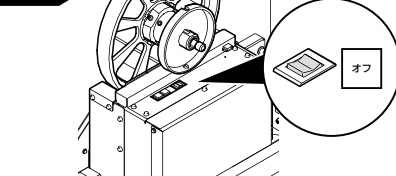
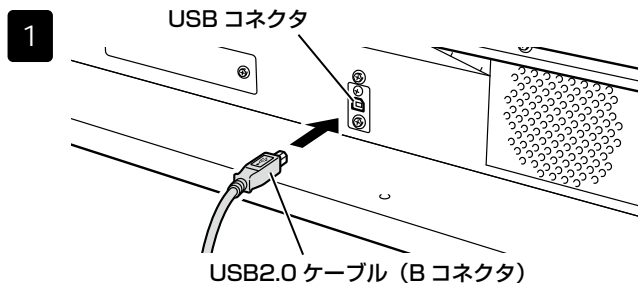
必ず紙管フランジを使用してメディアを巻き取ってください。
紙管フランジを使用しない場合、巻きズレが発生してメディアジャムにつながる恐れがあります。

【IP-7700 をご使用の場合】

メディアにスクローラフランジを取り付ける際、フランジスペーサーは使わずに、そのまま奥まで押し込んで取り付けてください。（給紙側／巻き取り側とも）

フランジスペーサー

印刷までの基本操作

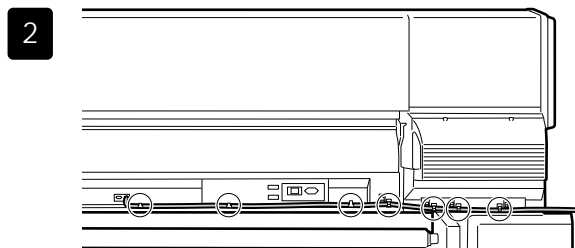
◆印刷のながれ

10
11
FRONT
メテ゛ィアセット
＊OK?
メテ゛ィアセットチュウ
シハ゛ラクオマチクタ゛サイ
1
FRONT
H-104s IP-7900
H-74s IP-7700
2
5
8
3
↑ハ゛ックフィート゛　フィート゛↓
←クリーニンク゛　サーヒ゛ス→
フィート゛チュウ
6
フィート゛チュウ
9
4
7
オフ

● USBケーブルを続接する

1

本機背面にある USB コネクタに専用ケーブルを接続する

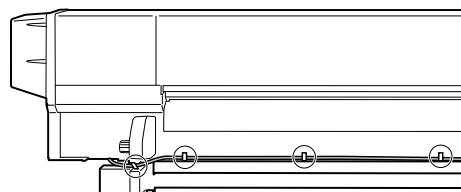
下記のものをお使いください

- ◆ 接続ケーブルは、USB2.0 ケーブルを使用してください。
- ◆ USB ハブを使用する場合は、USB2.0 対応の製品を使用してください。
- ◆ USB 接続に用いるケーブルやハブ、またその系に接続する USB 機器は USB-IF 認証品を使用してください。USB 認証品ではないケーブル、ハブ、その他機器を接続した場合は正常に動作しない可能性があります。
- ◆ 1 本のケーブルの最大長は 5m です。それ以上の距離で使用される場合はハブを使用してください。最長構成はハブの 5 段接続です。ケーブルのみで 5m を越える長さにした場合や、単にケーブルをつなぎ合わせた場合は、正常に動作しない可能性があります。

2

専用ケーブルを本機のワイプ側にクランプする

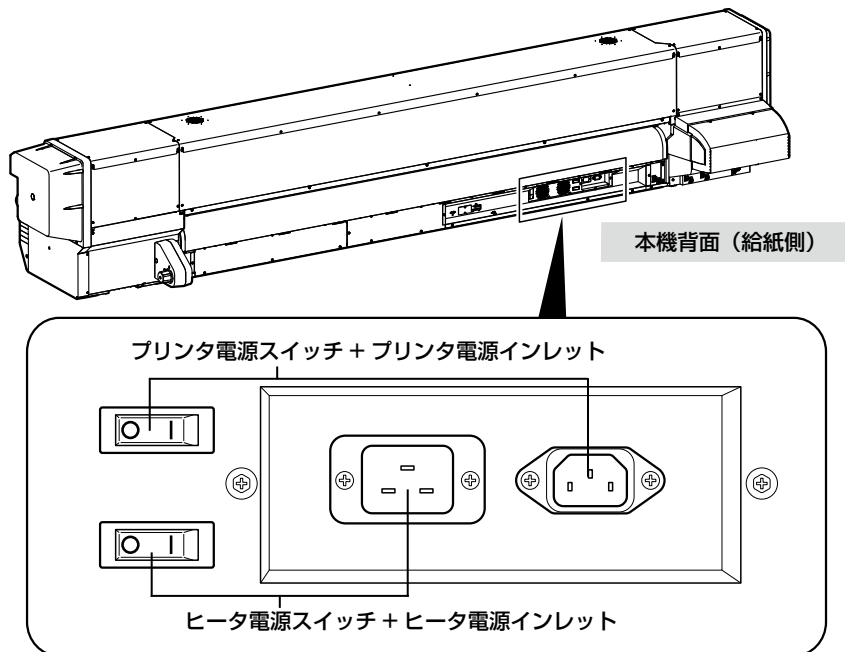
USB コネクタ保護の為、必ず本機にクランプさせてください。

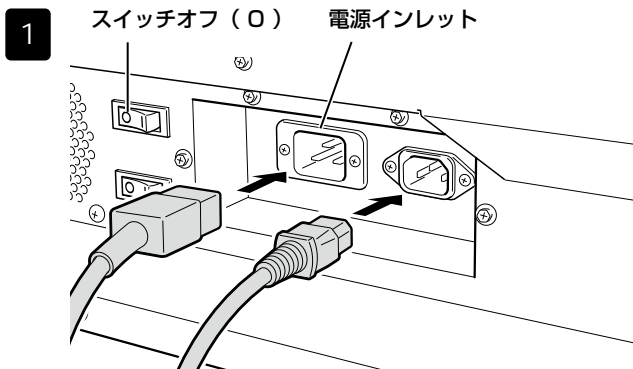
キャップ側にクランプさせたい場合は…

- ◆ 下図のように数カ所テープで止めてください。USB ケーブルが垂れ下がったまま使用すると、給紙センサが誤検出してしまう場合があります。

● 電源をオンする

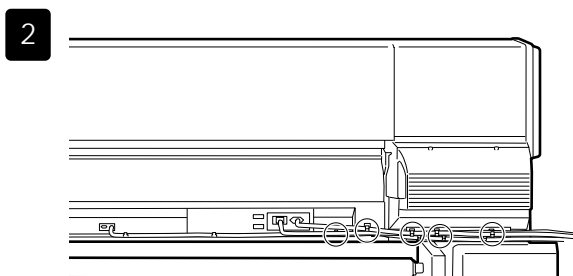
電源は 2 系統ともに 200V です。

⚠注意

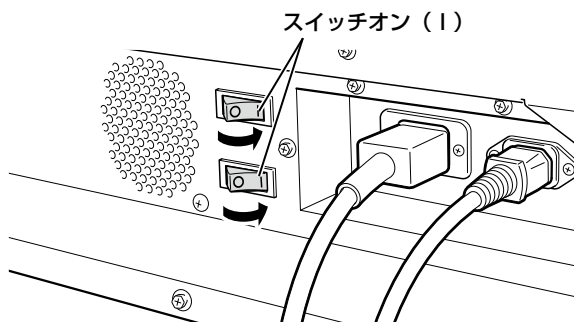
◆ 本機には、付属の電源コード以外は使用しないでください。
◆ 付属の電源コードは、AC200V 専用ケーブルです。プラグの形状が AC100V とは異なりますので、ご注意ください。
◆ 電源コードは必ずクランプに固定してください。固定しないと電源コードがスクローラフランジに巻き込まれて、感電や本機が破損する恐れがあります。

プリンタ電源とヒータ電源スイッチをオンにし、その後のオフ／オンは、本機の操作パネル上の電源スイッチで行います。

1

付属の電源コード２本を本機の電源インレットと電源供給コンセントに差し込む

本機の背面にあるプリンタ電源スイッチとヒータ電源スイッチがオフ（0）になっている状態で差し込みます。

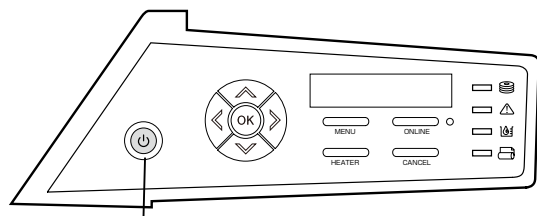
2

電源コード（２本）を本機にクランプする

電源コード保護の為、必ず本機にクランプさせてください。

3

本機背面のプリンタ電源スイッチとヒータ電源スイッチをオン（Ⅰ）にする

4

操作パネル上の電源スイッチを押してオンにする

スイッチをオンにすると電源投入時の自己診断が行われ、次のように操作パネル上にメッセージが表示されます。

```
Booting up...
```

```
ショキカチュウ
シバ゛ラクオマチクタ゛サイ
```

```
メテ゛ィアヲセットシテクタ゛サイ
```

エラーメッセージが表示されたら…

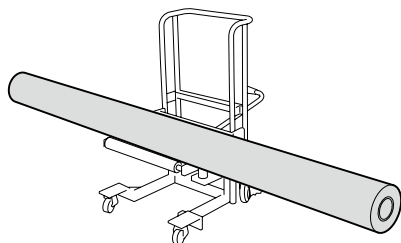
- ◆「こんなときには」を参照し、対処してください。
- ◆ 本機背面のプリンタ電源、ヒータ電源スイッチ、操作パネル上の電源オン／オフスイッチをオンにしても、操作パネルの LED が点灯しない場合は、電源に問題があります。

注意

◆ 緊急時を除いては、電源オフは、“プリントデキマス”が表示されている時に行ってください。“ショキカチュウ”や“クリーニングチュウ”の表示中にむやみに電源をオフにすると、インクのボタ落ちやプリントヘッドの故障の原因になるおそれがあります。また、セーブされていたパラメータが消失する可能性もあります。

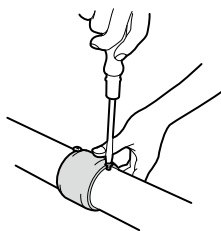
● メディアをプリンタに取り付ける

取り付けメディアはターポリンを例として説明します。また、イラストは主として IP-7900 で説明します。

1

メディアを台の上にのせる

台車をご使用される場合は、弊社の推奨品をご利用頂くことをおすすめします。（詳しくは弊社までお問い合わせください。）

2 スクローラ（スクローラフランジ）をロールメディアに取り付ける

H-74s

IP-7700

フランジスペーサー

「たるみ巻き」で巻き取る場合は使用しません。

スクローラシャフト

スクローラフランジ

ロールスペーサー

フランジシャフト固定具

フランジスペーサー

「たるみ巻き」で巻き取る場合は使用しません。

■ 外巻きメディアの場合

ロールメディア

スクローラフランジ

フランジシャフト固定具

■ 内巻きメディアの場合

ロールメディア

① フランジスペーサーをスクローラフランジとメディアの間に差し込みます。

② スクローラフランジを奥まで押し込み、紙管に固定されるまでハンドルを時計方向に回します。

ハンドル

③ フランジスペーサーを抜きます。

① フランジシャフト固定具をスクローラシャフトに通します。

② ノブを時計方向に回して固定します。

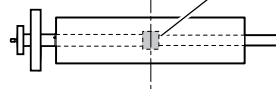
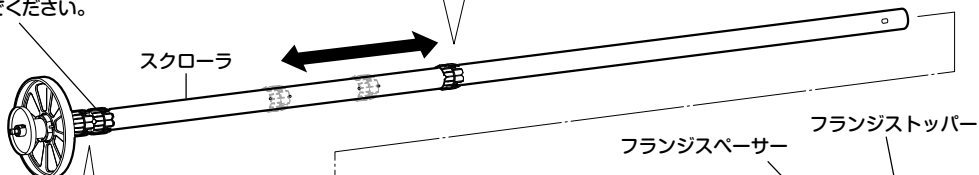
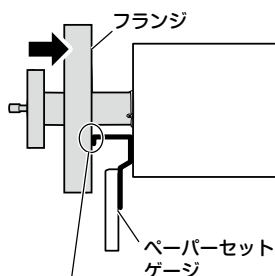
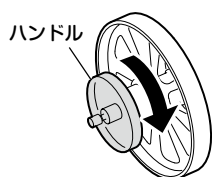
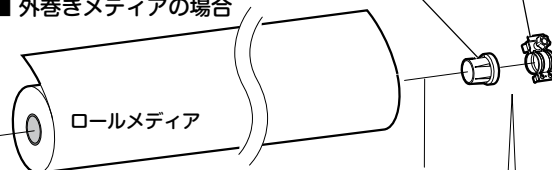
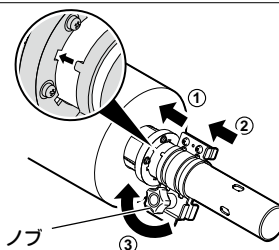
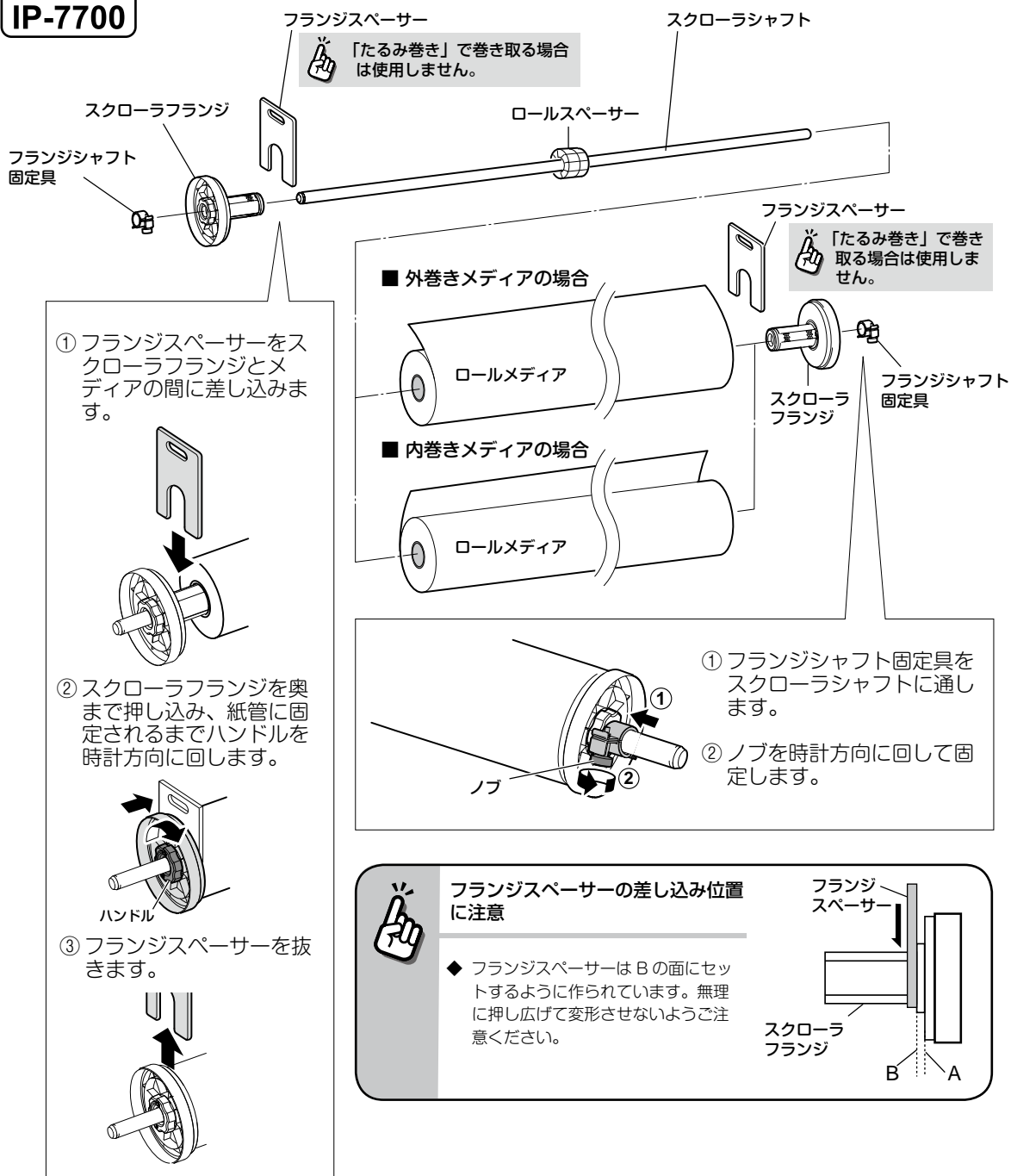
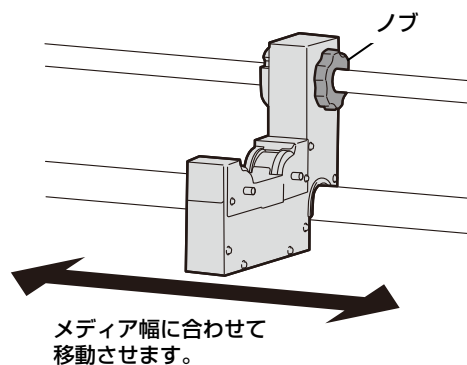
ノブ

フランジスペーサーの差し込み位置に注意

◆ フランジスペーサーは B の面にセットするように作られています。無理に押し広げて変形させないようご注意ください。

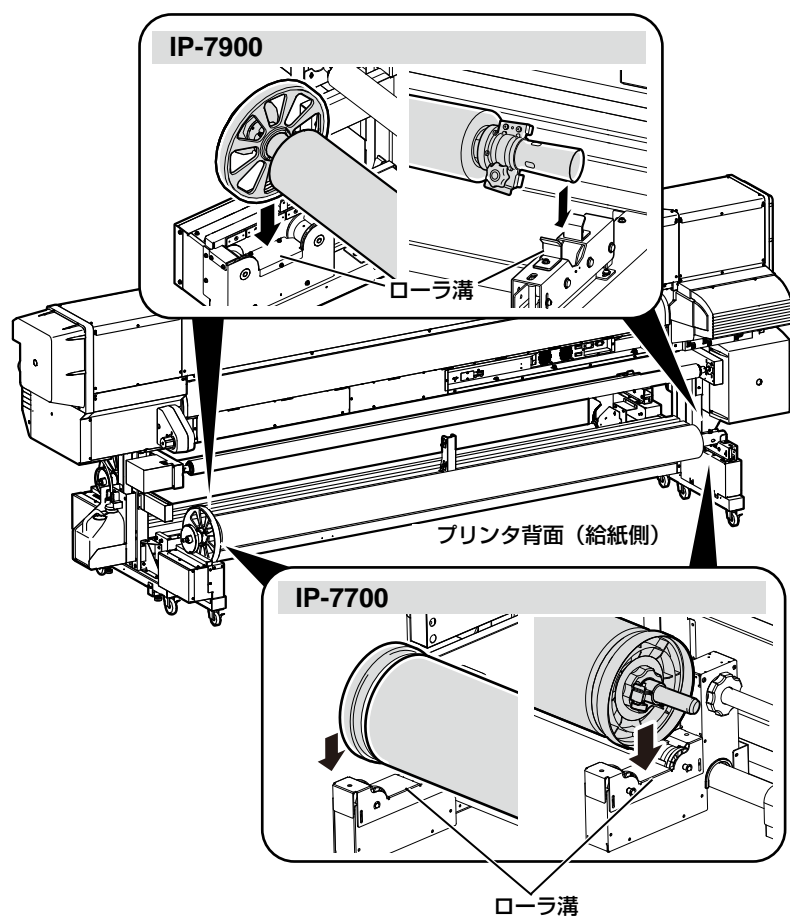
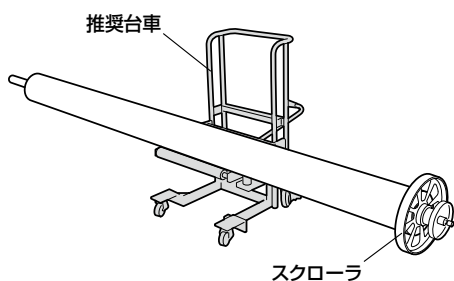
フランジスペーサー

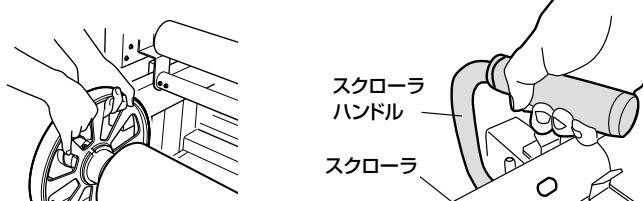
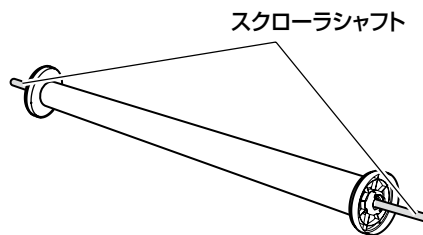
スクローラフランジ

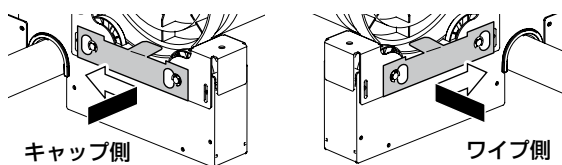
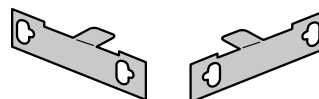
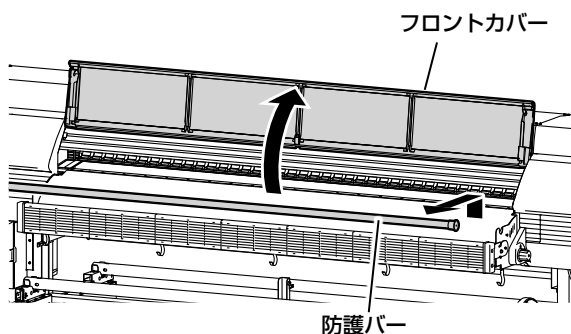
B A

IP-7700 のみ

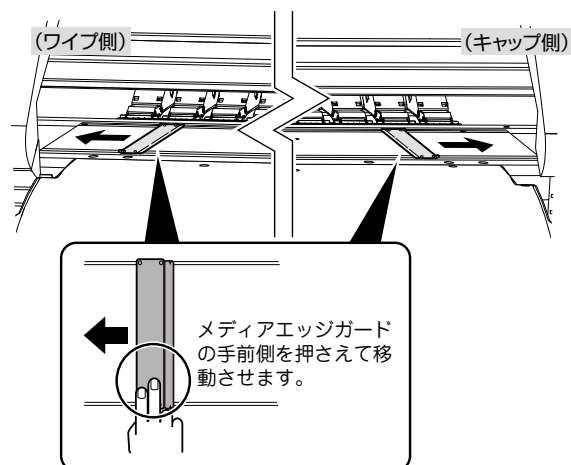
ワイプ側のローラ溝（可動部）を移動させる

① ノブを反時計方向に回して緩めます。
② メディア幅に合わせて移動させます。
③ ノブを時計方向に回して固定します。

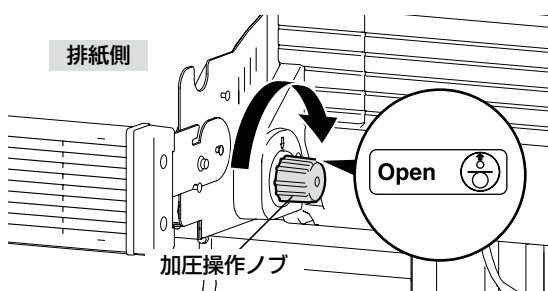
3 メディアをプリンタのローラ溝に合わせて取り付ける

・一人でセットする場合：
推奨台車を使用してください。

・二人で手で持ってセットする場合：

IP-7900:
付属品のスクローラハンドルを使用してください。

IP-7700:
スクローラシャフトを手で持って、十分注意して運んでください。

IP-7700 のみ

フランジ押さえを取り付ける

4

防護バーを取り外し、フロントカバーを開ける

5

メディアエッジガードを両サイドに移動させておく

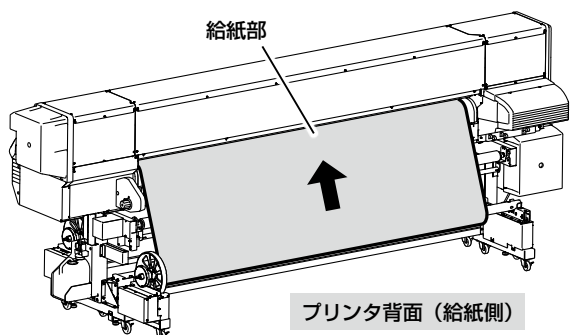
メディアエッジガードがメディアの下にならないようによけておきます。メディアエッジガードの手前側を押さえて移動させてください。

6

加圧操作ノブを回して、「Open」に合わせる

このとき MENU キーを 2 秒押し続けると、メディアをワイプよりにずらしてセットする「オフセットモード」に移ります。
操作パネルに「オフセットモード　カクニン」が表示されたら、オフセットモードで使用する場合は キーを、使用しない場合は CANCEL キーを押してください。

「オフセットモード」には…

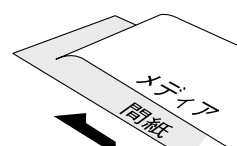
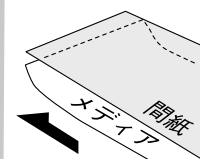
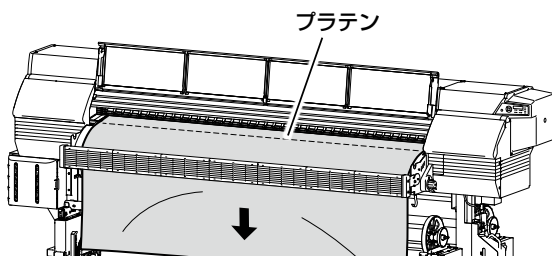
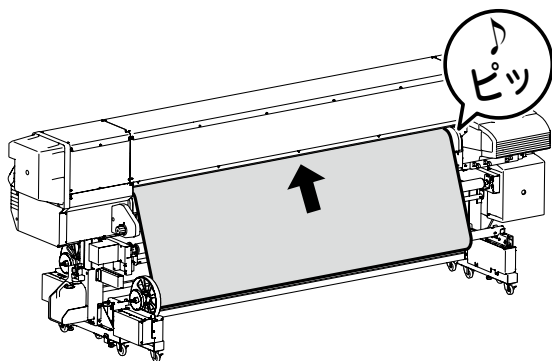
◆ オフセットモードでメディアをセットするには、オプションの「オフセットローディングキット 104（または 74）」が必要です。

7

メディアの先端を給紙部に挿入する

メディアにシワが入らないように手で伸ばしながら、挿入します。

メディアに巻き癖がある場合

◆ メディアに巻き癖があって給紙部に差しづらい場合は、別紙（間紙）を使用してメディアを差し込んでください。

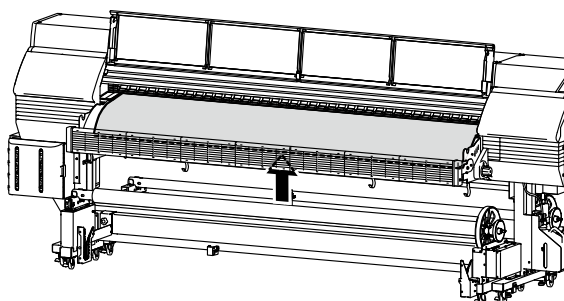
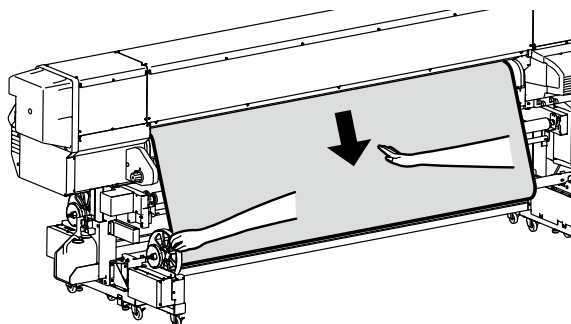
8

プラテン

「ピッ」という音が鳴ってから、さらに 1m メディアを送る

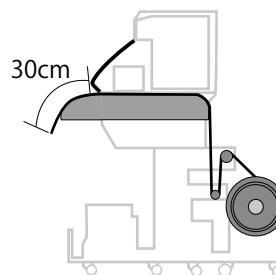
このとき、メディア中央部のシワが無くなるように、プラテン上で両サイドに向けてメディアをならします。

確認してください

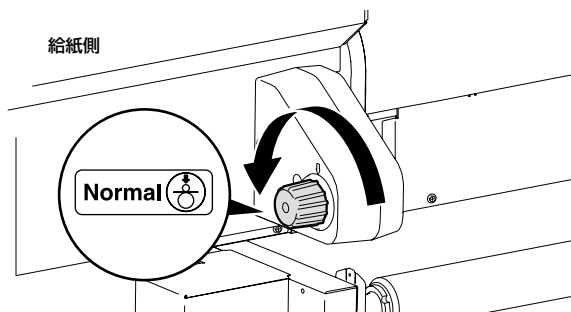
◆ メディアが斜めだったり、シワが入っていたりするとメディアジャムやスキューの原因になります。

9

メディアを巻き戻す

給紙側でメディア中央を軽く押さえながら戻します。

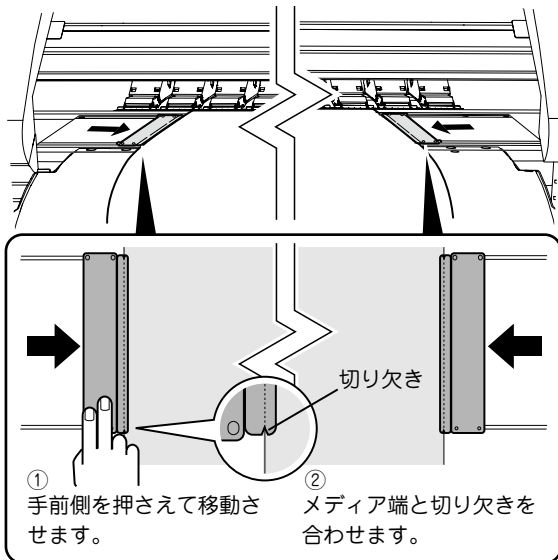
メディアの先端がフロントカバーを閉じた所から約 30cm 出るようにしてください。

重要です！

◆ 9 の作業はメディアを正しくセットするために行う重要な作業です。

10

加圧操作ノブを反時計方向に回して、「Normal」に合わせる

再度確認してください

◆ プラテン上のメディアに浮きやシワがないか確認してください。

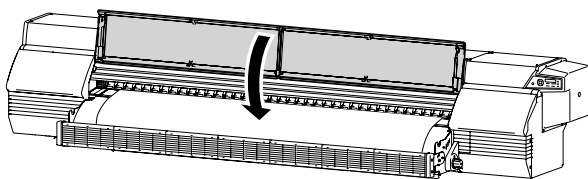
11

メディアエッジガードをセットする

① メディアエッジガードの手前側を押さえながら移動させます。
② メディア端とメディアエッジガードの切り欠きを合わせます。

メディアエッジガードがメディアの下に入り込んでいたり、厚いメディアを無理に差し込んで引っかかったりしていないか確認します。

⚠注意

◆ **メディアエッジガードを使用しないと、メディアジャムが起こる場合があります。**

12

フロントカバーを閉める

13

OK

OK キーを押す

14

OK

「ロール」を選択し、OK キーを押す

△ キー，▽ キーで「ロール」か「シート」が選択できます。ここでは「ロール」を選択し、OK キーを押します。

（CANCEL キーでメディア選択を元に戻します。）

15

ｼｭﾙｲｦｾﾝﾀｸｼﾃｸﾀﾞｻｲ
ｼｭﾙｲｾﾝﾀｸ：PAPER

▽・・・

ｼｭﾙｲｦｾﾝﾀｸｼﾃｸﾀﾞｻｲ
ｼｭﾙｲｾﾝﾀｸ：Banner

「Banner」を選択し、OK キーを押す

△ キー，▽ キーで登録されているメディアの種類を選択します。

16

ｻﾞﾝﾘｮｳｦｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
＊＊＊＊m

↓ OK

ﾀﾙﾐﾊﾞｯﾌｧｦ
ｶｸﾆﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ

メディア残量を入力し、OK キーを押す

プリンタに取り付けたロールメディアの残量を入力してください。

メディア残量が分からない場合は、そのまま OK キーを押します。

17 **テンションバーの長さを調整する**

■ テンション巻きの場合：**メディア幅と同じ長さのテンションバー**を使います。

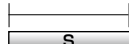
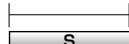
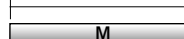
下表に記載のテンションバーの長さを参考にして、近いサイズをお使いください。

ターポリンで印刷する場合は…

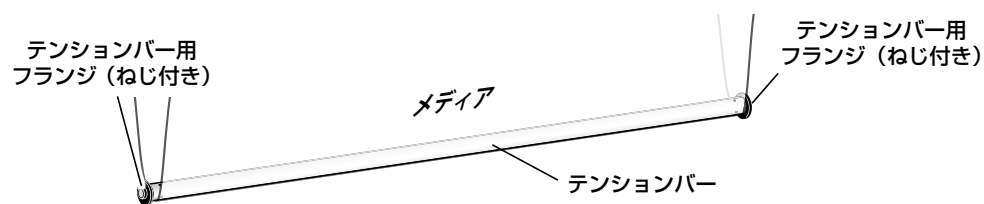
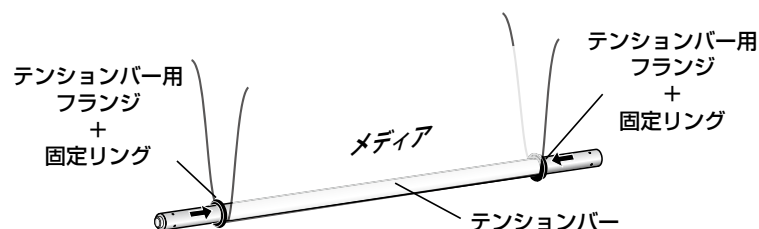
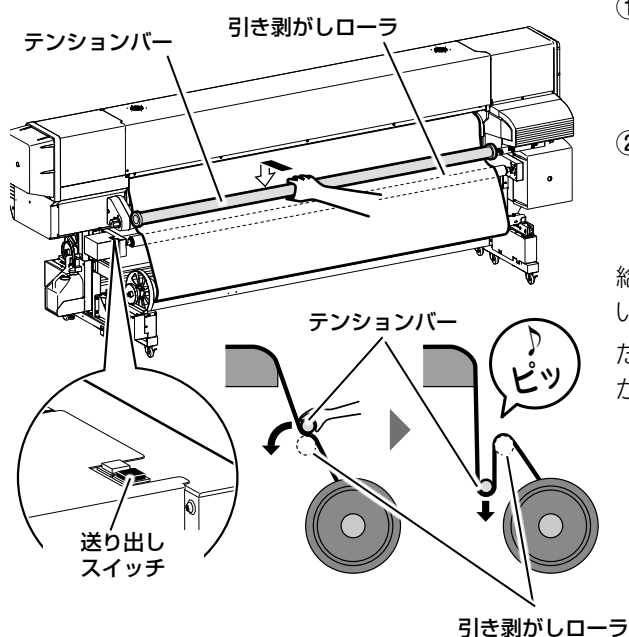
◆ ターポリンに印刷する場合は、テンション巻きで使用することをおすすめします。

■ 巻き取りをしない場合：**メディア幅の半分のテンションバー**を使います。

下表に記載のテンションバーの長さを参考にして、近いサイズをお使いください。

テンションバーの長さ

テンションバー組み合わせ例

使用サイズ	テンションバーの長さ	
	IP-7900	IP-7700
S	16 インチ（41cm）	16 インチ（41cm）
M	24 インチ（61cm）	–
ML	–	26 インチ（66cm）
S、S	32 インチ（82cm）	32 インチ（82cm）
M、S	40 インチ（102cm）	–
ML、S	–	42 インチ（107cm）
L	48 インチ（123cm）	48 インチ（123cm）
M、S、S	56 インチ（143cm）	–
ML、S、S	–	58 インチ（148cm）
L、S	64 インチ（164cm）	64 インチ（164cm）
L、M	72 インチ（184cm）	–
L、ML	–	74 インチ（189cm）
L、S、S	80 インチ（205cm）	–
L、M、S	88 インチ（225cm）	–
L、M、S、S	104 インチ（266cm）	–

メディア幅と同程度の長さのテンションバーを使用する場合は、テンションバー用フランジ（ねじ付き）を取り付けてお使いください。

メディア幅より少し長いテンションバーを使用する場合は、テンションバー用フランジと固定リングをテンションバー取り付けてお使いください。

18 たるみを作り、テンションバーをセットする

① テンションバーを引き剥がしローラ上部に押しあてる

② 給紙側送り出しスイッチ（黒）を押して、たるみを作り、テンションバーを奥へ送りこむようにしてセットする

給紙側たるみセンサーより下まで、たるませてください。

たるみがセンサーに反応する位置までくると、パネルから「ピッ」と音がします。

⚠注意

◆ 引き剥がしローラを、手で回さないでください。無理に回転させると、故障の原因となる場合があります。
引き剥がしローラは、必ず、スイッチを使って回してください。

19

メテ゛ィアセットチュウ
シハ゛ラクオマチクタ゛サイ

●巻き取り装置にメディアを巻き付ける
ここでは、「テンション巻き」を例にして説明します。

1 紙管を用意し、スクローラ（スクローラフランジ）に取り付ける

H-74s
IP-7700

スクローラシャフト

フランジスペーサー

「たるみ巻き」で巻き取る場合は使用しません

フランジシャフト固定具

フランジシャフト固定具

フランジスペーサー

「たるみ巻き」で巻き取る場合は使用しません

紙管

スクローラフランジ

①

ノブ

②

① フランジシャフト固定具をスクローラシャフトに通します。

② ノブを回して固定します。

① フランジスペーサーをスクローラフランジと紙管の間に差し込みます。

注　意

◆「たるみ巻き」でメディアを巻き取る場合は、フランジスペーサーを差し込まずに、そのままスクローラフランジを奥まで押し込んでください。

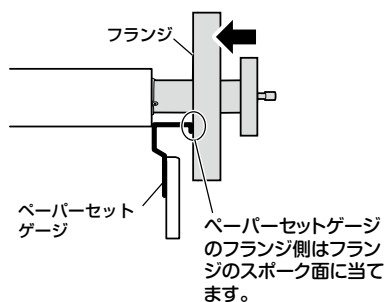
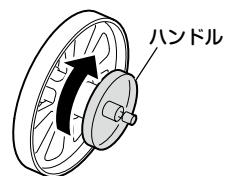
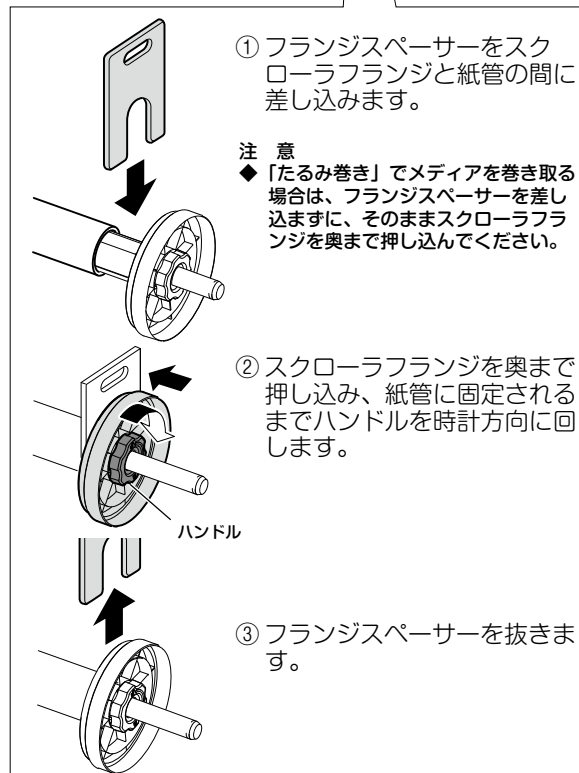
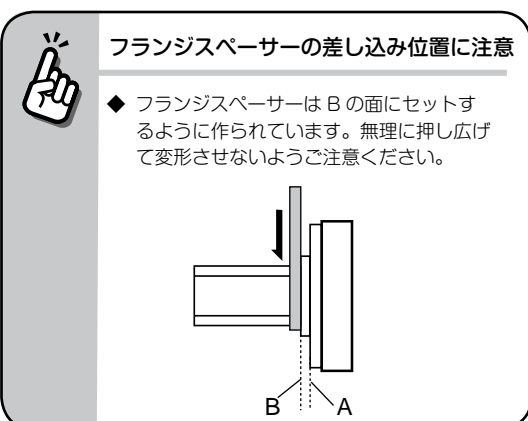
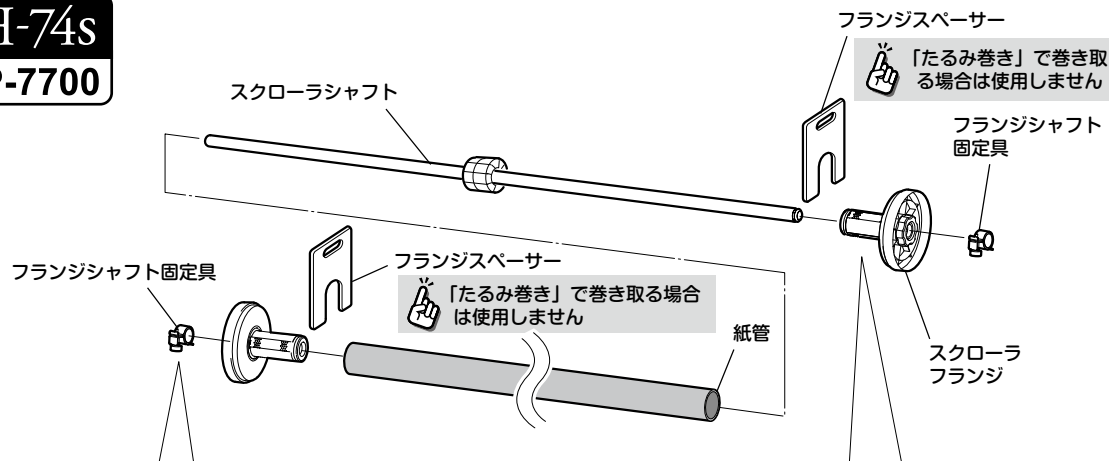
② スクローラフランジを奥まで押し込み、紙管に固定されるまでハンドルを時計方向に回します。

ハンドル

③ フランジスペーサーを抜きます。

フランジスペーサーの差し込み位置に注意

◆ フランジスペーサーは B の面にセットするように作られています。無理に押し広げて変形させないようご注意ください。

B　A

2

巻き取り方向スイッチ

↑外巻き

・オフ

↓内巻き

巻き取り方向スイッチを「オフ」にする

⚠注意

◆ 巻き取り方向スイッチを「オフ」にしないで次の操作に進むと、スクローラが固定されないため、手をはさむ原因となります。

印刷する前に
印刷してみる
メンテナンス
こんなときには
ふろく

3

テンションバーをテンションバーフックに掛けておく

4 スクローラ（スクローラフランジ）をプリンタのローラ溝に合わせて取り付ける

5

キーを押して、メディアを巻き取れる程度まで送る

フィードチュウ

6

引き出したメディアを紙管に貼り付ける

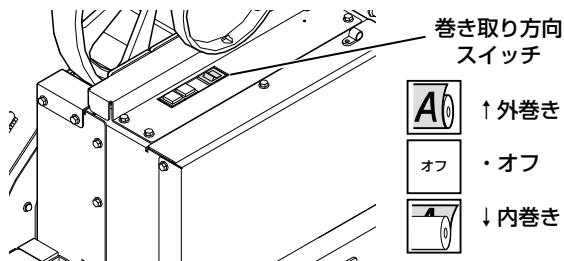
① 巻き取る方向を確認し、メディアのたるみを取り、給紙側と巻き取り側でメディア位置にズレがないことを確認してください。
② テープを使って、最初に中央部分を、次に両端に向かって止めてください。

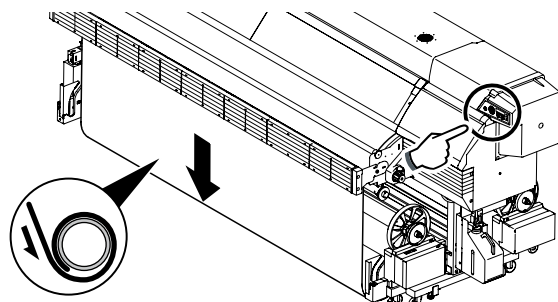
内巻き：
印刷面が内側にくるように巻き取ります。

外巻き：
印刷面が外側にくるように巻き取ります。

巻き取りについて

◆ メディアを紙管に対して斜めに取り付けると、メディアのスキューの原因となりますので注意してください。
◆ メディアの巻き取り方向を「内巻き」にセットした場合、巻き径が太くなると印刷後のバックフィードができませんので、あらかじめトウロクメニューのメディアモドシモードで「モドサナイ」を選択してください。（「モドス」のままバックフィードをすると、モータが空転し故障の原因となります。）

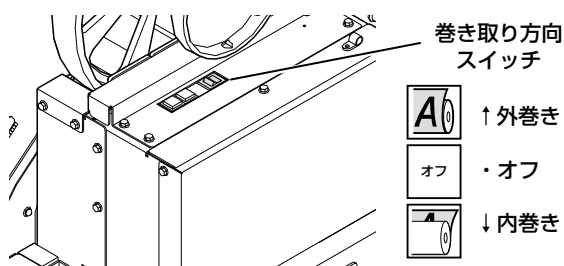
7

巻き取り方向に合わせて、巻き取り方向スイッチを押す

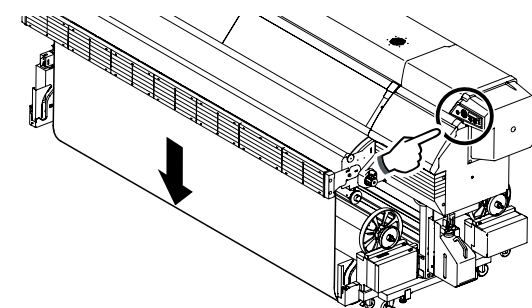
8

キーを押して、メディアを送り、紙管に1周分巻き付ける

フィードチュウ

⚠注意

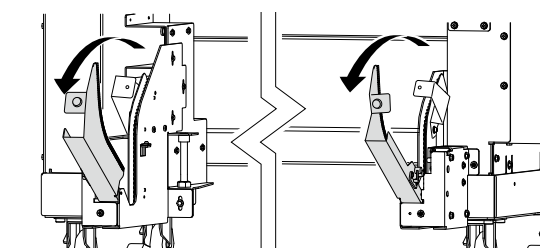
◆ メディアを1周分巻き取らずにテンションバーを取り付けると、テープがはがれてしまいます。

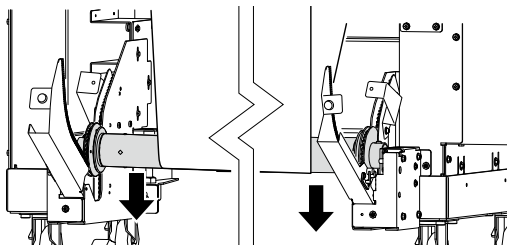
9

再度巻き取り方向スイッチを「オフ」にする

10

キーを押して、たるみが作れる程度までメディアを送る

フィードチュウ

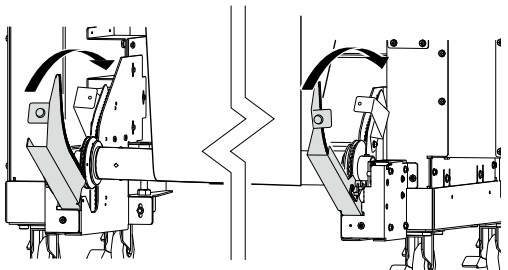
テンションバーがテンションバーガイドの底部にのせられるくらいに、十分なたるみを作ってください。

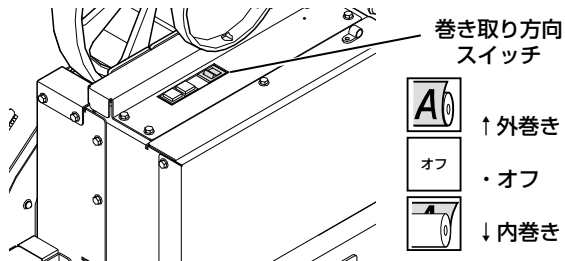
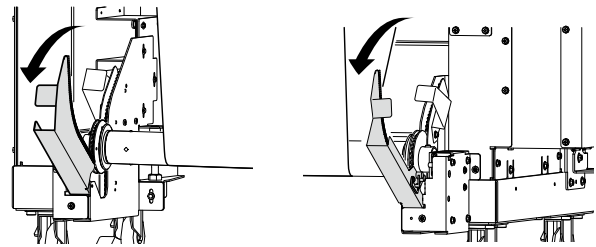
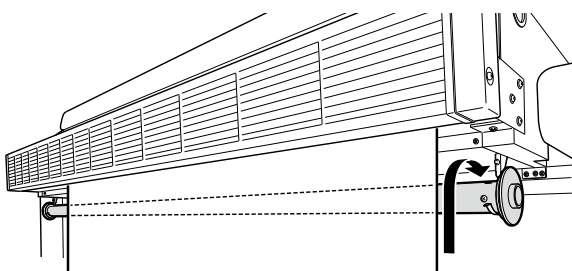
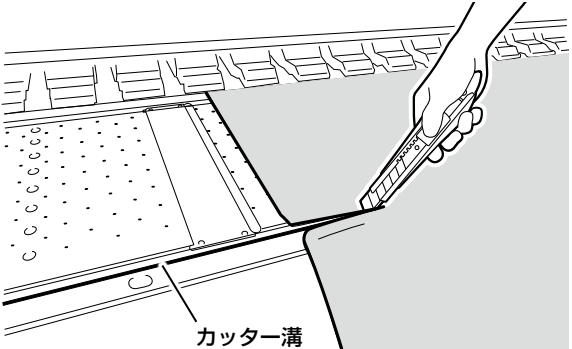
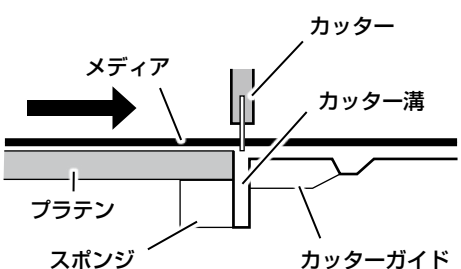
11

テンションバーガイドのカバーを開ける

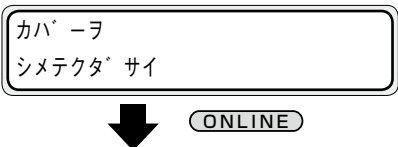
12

テンションバーをテンションバーガイドの底に置く

テンションバーが底まで届かない…

◆ たるみが足りず、テンションバーがテンションバーガイドの底に届かない場合は、操作パネルのフィードメニューでメディアを送り、テンションバーがテンションバーガイドの底に確実に届くようにメディアを送り出してください。

13

テンションバーガイドのカバーを閉じる

たるみが多すぎると…

◆ 巻き取り時間が所定値を越え、巻き取りタイムアウトエラーが発生する場合があります。エラーが発生した場合は、巻き取り方向スイッチをオフにしてから再度押してください。

14 RIP にデータを入れる

メディアの取り外し

◆排紙側のメディア

1

巻き取り方向スイッチをオフにする

テンションバーガイドのカバーを開ける

3

排紙側のテンションバーをテンションバーフックにかける

フロントカバーを開け、メディアをカットする

カッター溝にカッターナイフの刃を入れて、メディアをカットすることを推奨します。

⚠注意

◆ 給紙側、巻き取り側のペーパーガイドには、それぞれメディアが貼り付かないようにするためのネットが貼られています。これらのネットは取り外さないようにしてください。
◆ メディアをカットする際はペーパーガイドネットを傷つけないようにしてください。
◆ 印刷済みのメディアが床に落下して汚れないように、ご注意ください。

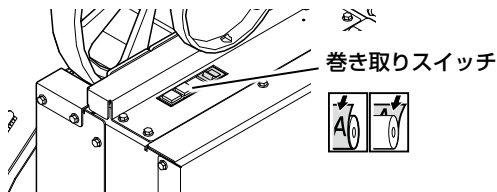
ONLINE

ONLINE キーを押して、オフラインにする

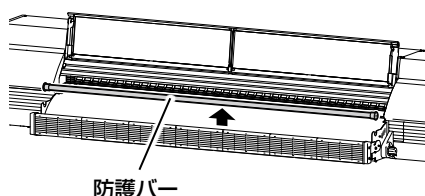
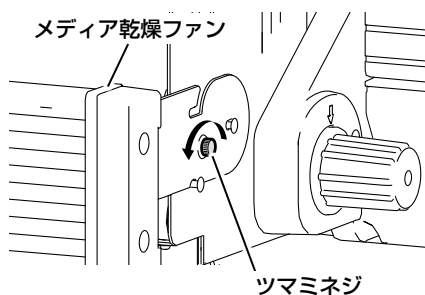
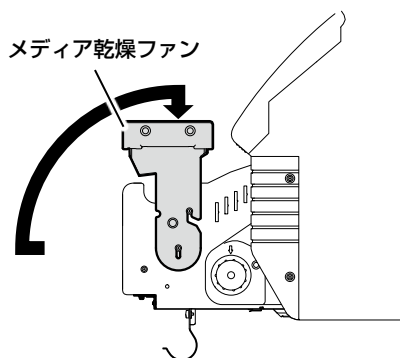
6

キーを押す

メディアメニューを選択し、巻き取り装置の巻き取り方向スイッチをオンにすることにより、送り出し／巻き戻しスイッチが有効となります。

7

排紙側の巻き取りスイッチを使ってメディアを巻き取る

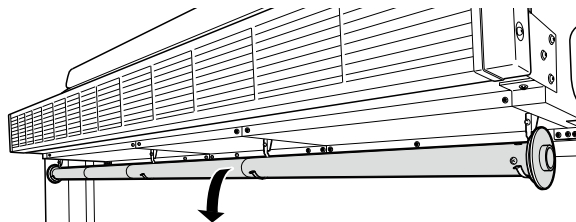
巻き取ったメディアの径が大きく、乾燥ファンにぶつかってしまう場合

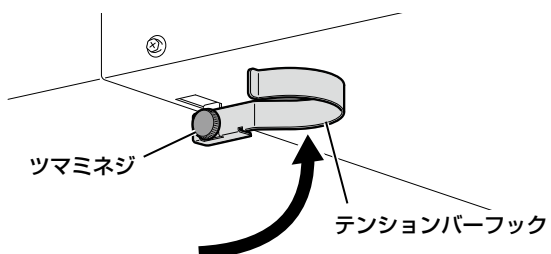
◆ 以下の手順で乾燥ファンを避けておいてください。

① 防護バーを取り外し、フロントカバーを開けます。

② 可動式のメディア乾燥ファン横のツマミネジ（左右１本ずつ）をゆるめます。

③ メディア乾燥ファンを手前に引いてから、上へ 90 度回転させます。

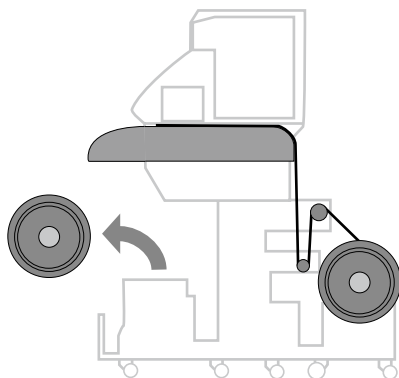
メディア乾燥ファンを上へ回転させると、やや下がって固定されます。

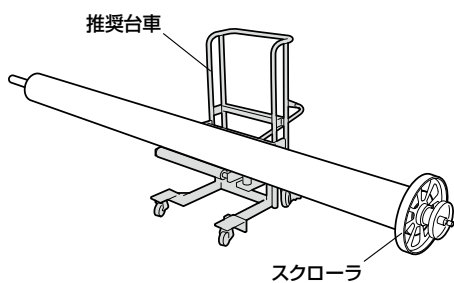
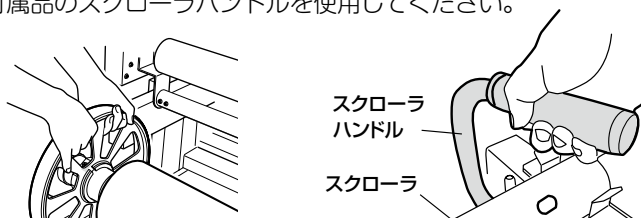
メディア乾燥ファンを戻すときは、上へ引き上げてから手前に倒し、奥へ押し込みツマミネジで固定してください。

◆ メディア乾燥ファンを接続するケーブルが加圧操作ノブや横の支えの板金に引っかからないよう注意して下さい。

8

テンションバーをテンションバーフックから取り外す

9

各テンションバーフックのツマミネジをゆるめ、横にはね上げる

10

メディアを本体から取り外す

・一人で運ぶ場合：
推奨台車を使用してください。

・二人で手で持って運ぶ場合：

IP-7900:
付属品のスクローラハンドルを使用してください。

IP-7700:
スクローラシャフトを手で持って、十分注意して運んでください。

◆給紙側のメディア

1

ｶﾊﾞｰｦ ｼﾒﾃｸﾀﾞｻｲ

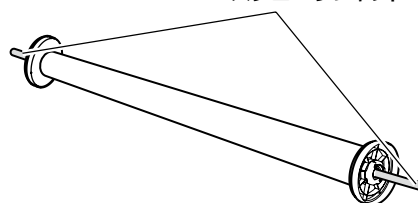
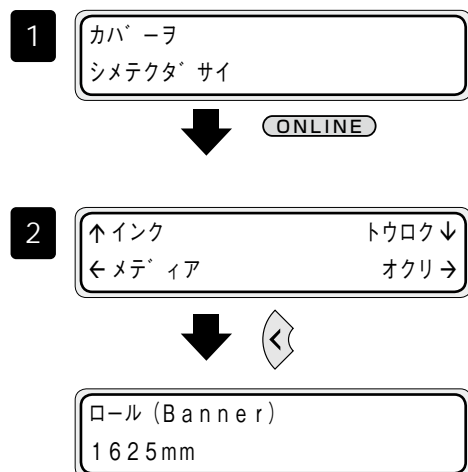
↓ ONLINE

ONLINE キーを押して、オフラインにする

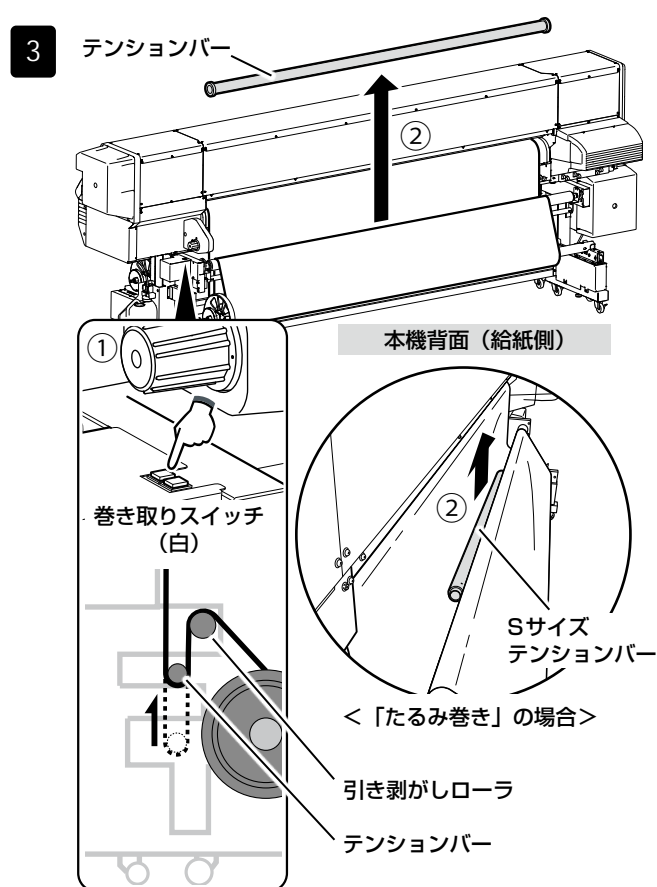
2

↑ｲﾝｸ ﾄｳﾛｸ↓ ←ﾒﾃﾞｨｱ ｵｸﾘ→

↓ ＜

ﾛｰﾙ(Banner) 1625mm

＜ キーを押す

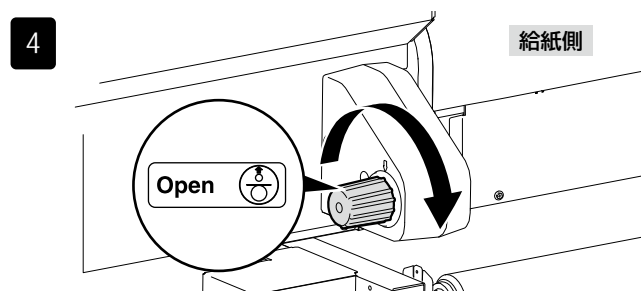
メディアメニューを選択し、給紙側の送り出し／巻き戻しスイッチが有効となります。

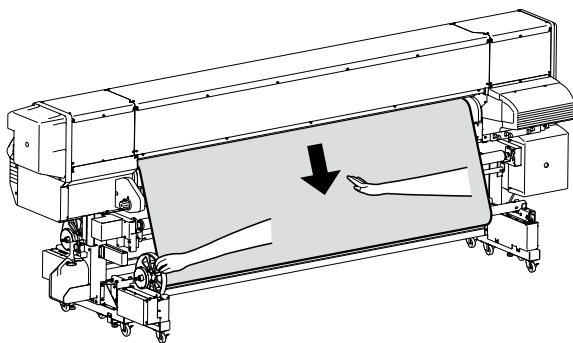
3

給紙側のテンションバーを取り外す

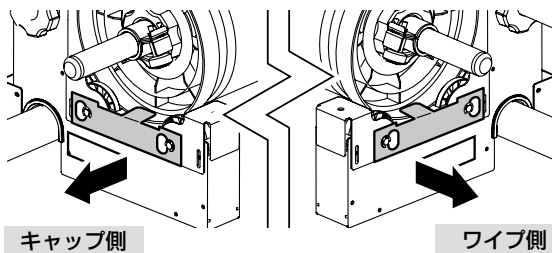
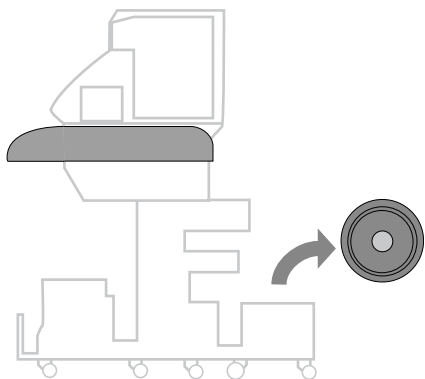
① 巻き取りスイッチ（白）を押して、たるみ部分を持ち上げます。
② 給紙側のテンションバーを取り出します。

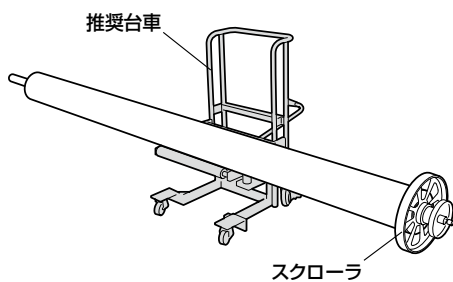
⚠注意

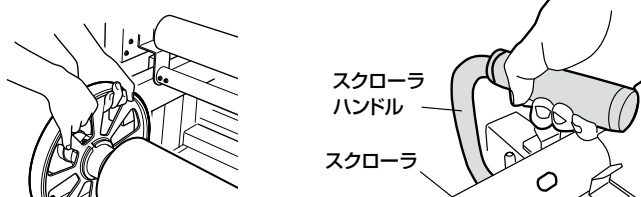
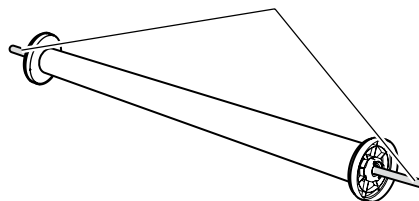
◆ 引き剥がしローラを手で回さないでください。無理に回すと故障の原因になる場合があります。

4

加圧操作ノブを回して、「Open」に合わせる

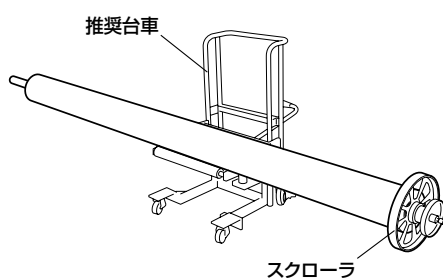
5

手動でスクローラを回転させてメディアを巻き取る

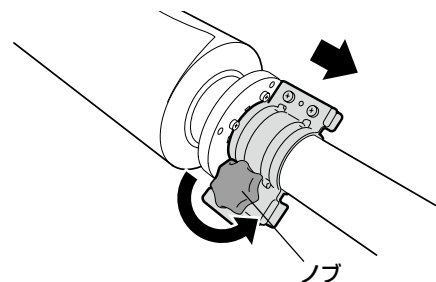
IP-7700 のみ

フランジ押さえを外す

メディアを本体から取り外す

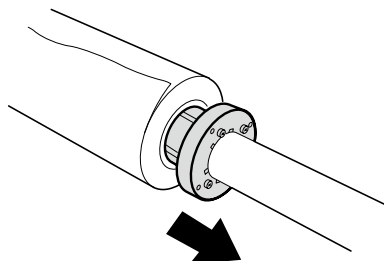
・一人で運ぶ場合：
推奨台車を使用してください。

・二人で手で持って運ぶ場合：

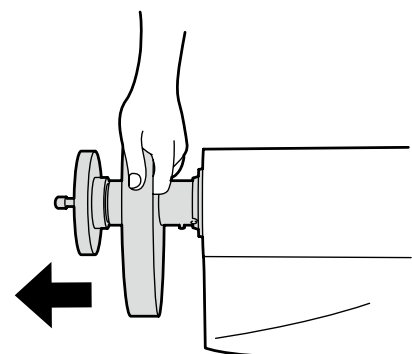
IP-7900:
付属品のスクローラハンドルを使用してください。

IP-7700:
スクローラシャフトを手で持って、十分注意して運んでください。

◆スクローラ（スクローラフランジ）の取り外し

H-104s IP-7900

1

メディアロールを台の上に乗せる

2

フランジストッパーを取り外す

3

フランジスペーサーを取り外す

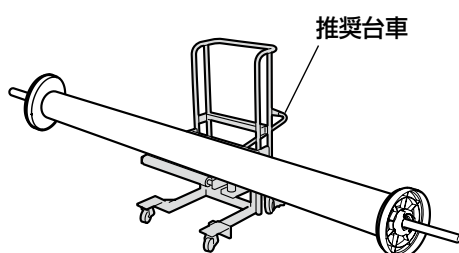
4

スクローラを取り外す

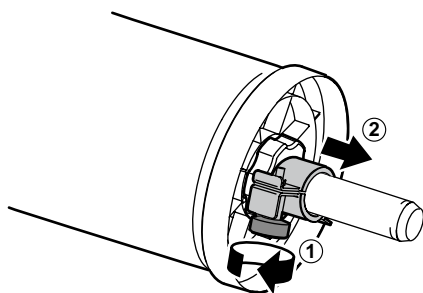
① ハンドルを反時計方向に回します。
② ハンドルとスクローラ軸の間に隙間ができたら、スクローラを取り外します。

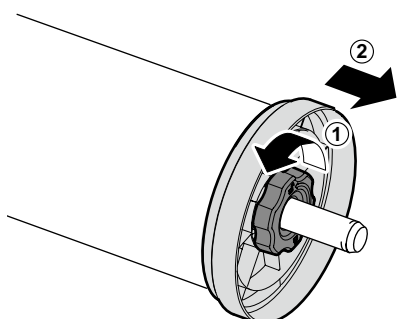
⚠注意

◆ スクローラの爪部分には触らないでください。

H-74s IP-7700

1

メディアを台の上に乗せる

2

スクローラシャフトの留め具を取り外す

3

スクローラフランジを取り外す

① ハンドルを反時計方向に回します。

② スクローラフランジがゆるんだら、紙管から引き抜きます。

4 **反対側のスクローラシャフトの留め具とスクローラフランジを取り外し、スクローラシャフトを抜く**

メディアを変えて印刷する

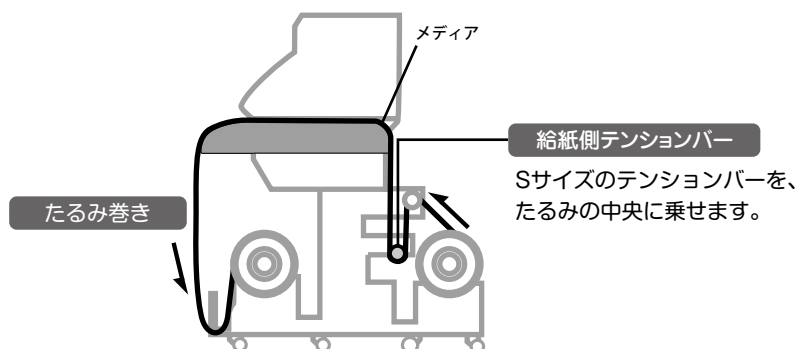
◆このメディアで印刷したい

塩ビ

● 巻き取り方式

たるみ巻き

● 給紙側テンションバーのサイズ

Sサイズ

● 本機の設定

光沢塩ビの場合

```
ｼｭﾙｲｦｾﾝﾀｸｼﾃｸﾀﾞｻｲ
ｼｭﾙｲｾﾝﾀｸ：Glossy
```

メディアの種類：「Glossy」

光沢なし塩ビの場合

```
ｼｭﾙｲｦｾﾝﾀｸｼﾃｸﾀﾞｻｲ
ｼｭﾙｲｾﾝﾀｸ：Matte
```

メディアの種類：「Matte」

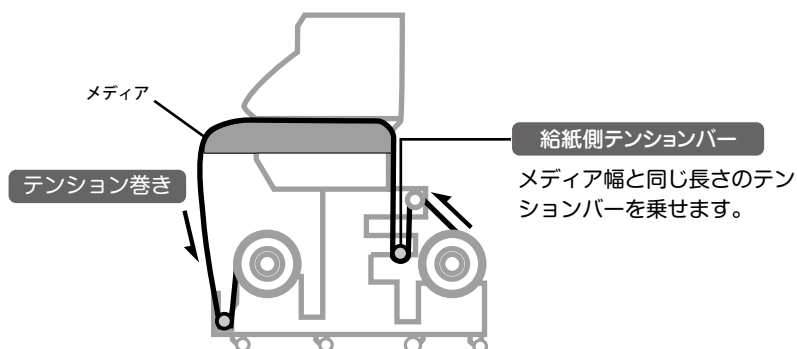
```
#ﾒﾃﾞｨｱﾓﾄﾞｼﾓｰﾄﾞ
>01：ﾓﾄﾞｽ
```

メディア戻しモード：「モドス」

ターポリン

● 巻き取り方式

テンション巻き

● 給紙側テンションバーのサイズ

メディア幅と同じ長さ

● 本機の設定

```
ｼｭﾙｲｦｾﾝﾀｸｼﾃｸﾀﾞｻｲ
ｼｭﾙｲｾﾝﾀｸ：Banner
```

メディアの種類：「Banner」

```
#ﾒﾃﾞｨｱﾓﾄﾞｼﾓｰﾄﾞ
>01：ﾓﾄﾞｽ
```

メディア戻しモード：「モドス」

```
#ﾒﾃﾞｨｱｵｸﾘﾓｰﾄﾞ
>01：ｼｰｹﾝｽ2
```

メディア送りモード：「シーケンス２」

```
#ｷｭｳﾁｬｸﾌｧﾝ
>01：ｼﾞｬｸ
```

吸着ファン：「ジャク」

メディアジャムを防ぐために…

- アフターヒータの温度を50℃以下に設定することをおすすめします。
- 必ず巻き取り装置を使用してください。
- 巻き取り方式はテンション巻きで使用してください。
- メディア送りモードは「シーケンス２」で使用してください。
- 吸着ファンは「ジャク」で使用してください。

メッシュターポリン（ライナー付き）

● 巻き取り方式

テンション巻き

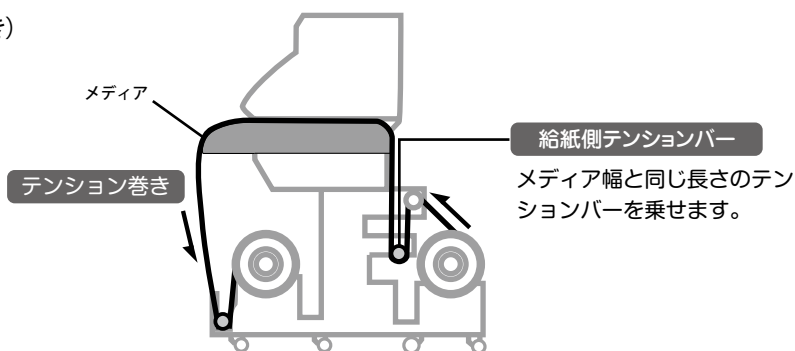
● 給紙側テンションバーのサイズ

メディア幅と同じ長さ

● 本機の設定

```
シュルイヲセンタクシテクタ゛サイ
シュルイセンタク：Banner
```

メディアの種類：「Banner」

```
#メデ゛ィアモト゛シモート゛
>01：モト゛ス
```

メディア戻しモード：「モドス」

ライナーなしメッシュターポリンは?

オプションの「**メッシュ印刷キット**」が必要です。メディアの取り付け方法は付属の取扱説明書を参照してください。

電飾ターポリン（FF）

● 巻き取り方式

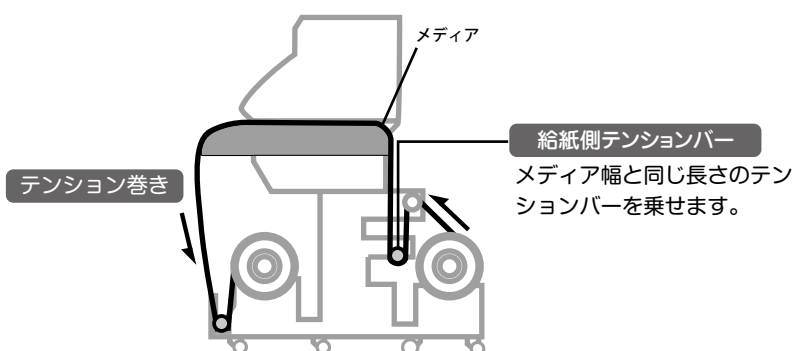
テンション巻き

● 給紙側テンションバーのサイズ

メディア幅と同じ長さ

● 本機の設定

```
シュルイヲセンタクシテクタ゛サイ
シュルイセンタク：BLT_B
```

メディアの種類：「BLT_B」

```
#メデ゛ィアモト゛シモート゛
>01：モト゛ス
```

メディア戻しモード：「モドス」

```
Aft 50 Prn 40 Pre 45
C)  50 C)  40 C)  45
```

アフターヒータ：50℃／プリントヒータ：40℃／プリヒータ：45℃

ソルベント用コート紙

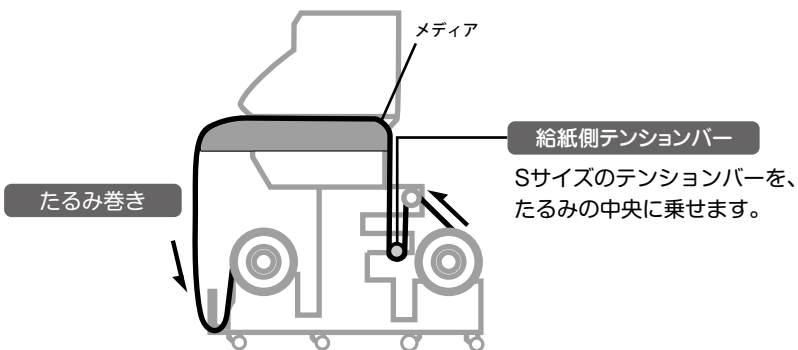
● 巻き取り方式

たるみ巻き

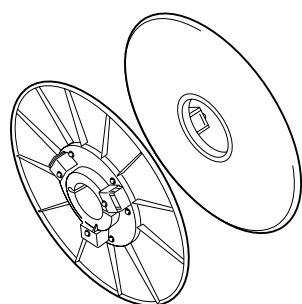
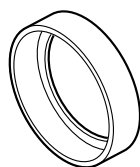
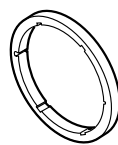
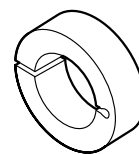
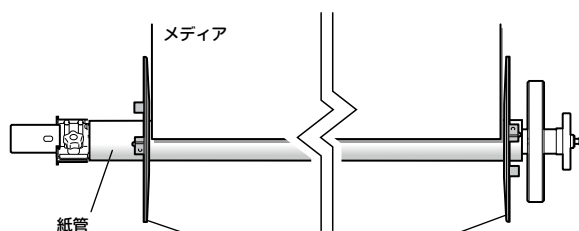
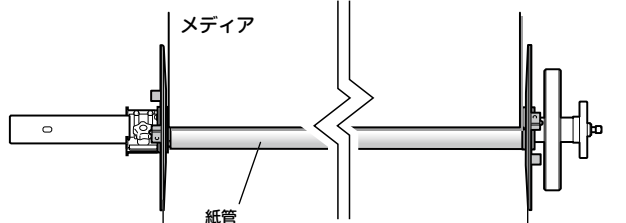
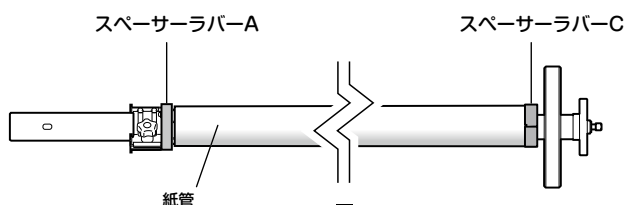
● 給紙側テンションバーのサイズ

Sサイズ

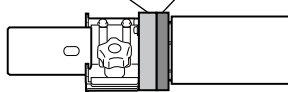
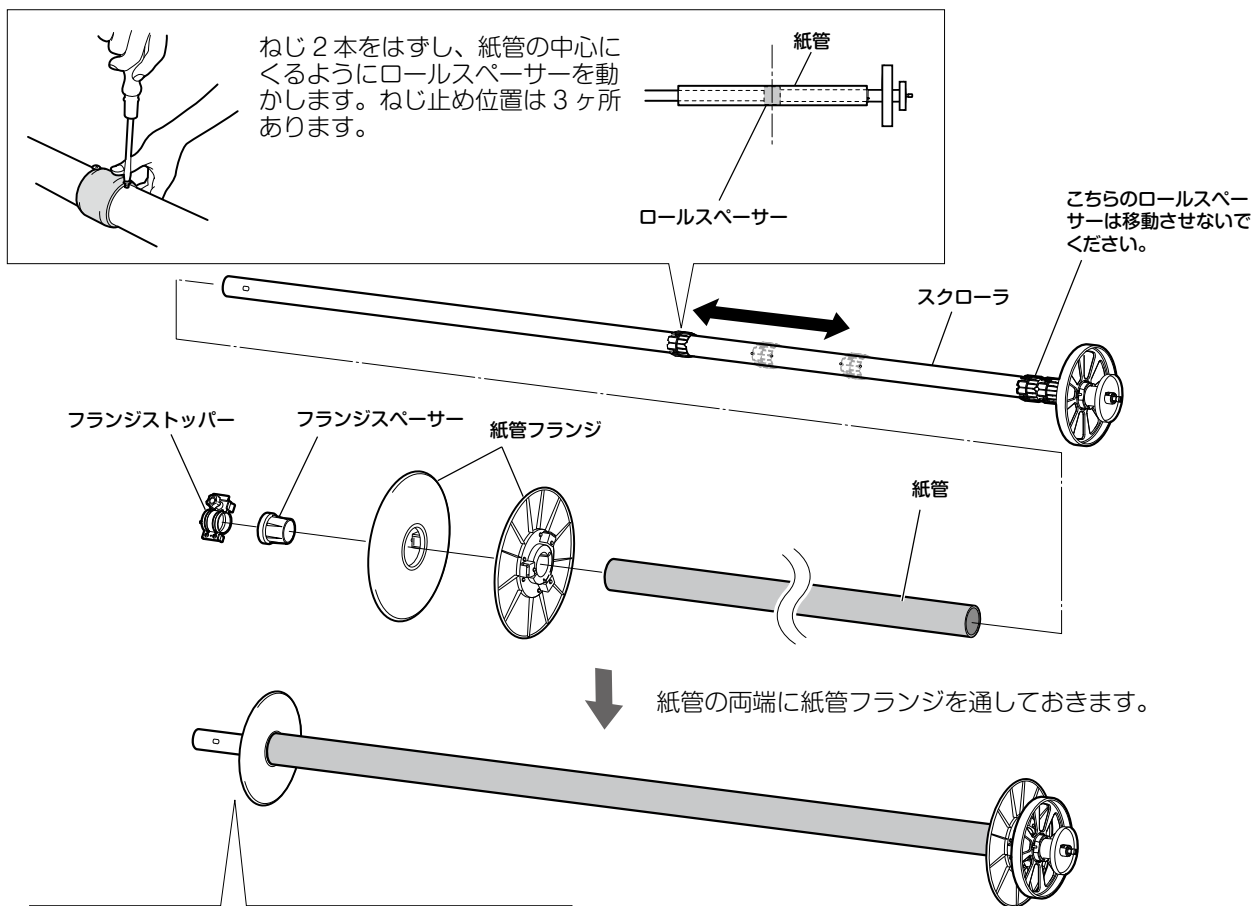
● 本機の設定

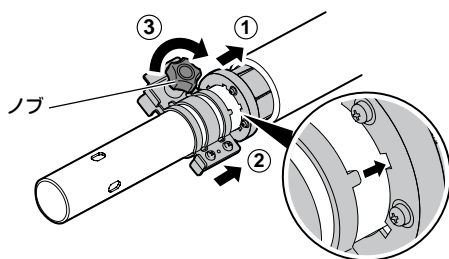
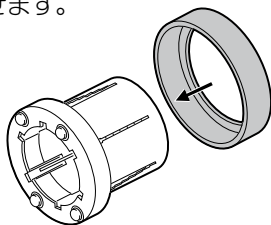
```
#メデ゛ィアモト゛シモート゛
>01：モト゛ス
```

◆メディアをたるみ巻きで巻き取る場合

H-104s IP-7900

メディアの巻きズレを抑える為に、紙管フランジをスクローラに取り付けます。紙管の長さに応じてスペーサーラバーを取り付けてください。

■ 紙管の幅がメディア幅より広い場合

■ 紙管の幅がメディア幅と同じ場合

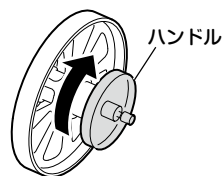
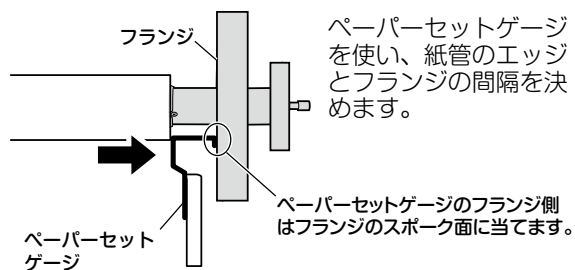
スペーサーラバーBの使い道

紙管の内径が小さく、フランジスペーサーが奥まで入らず、スペーサーラバーAと紙管の端面が広く開いてしまう場合に、スペーサーラバーBをその間に入れます。

1 紙管を用意し、スクローラに取り付ける

紙管の幅がメディア幅と同じ場合

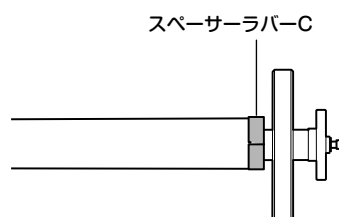
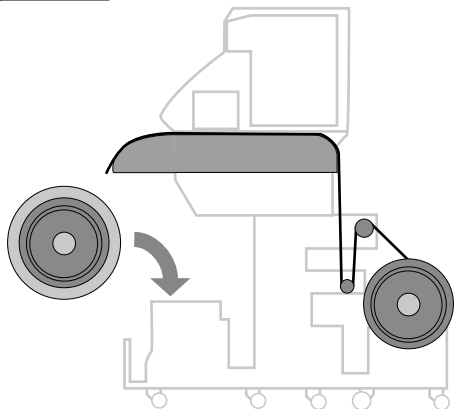
フランジスペーサーにスペーサーラバー A を被せます。

① フランジスペーサーには歯がついていますので、止まるところまで押し込んでください。

② フランジストッパーをフランジスペーサーの爪の位置に合わせて取り付けます。

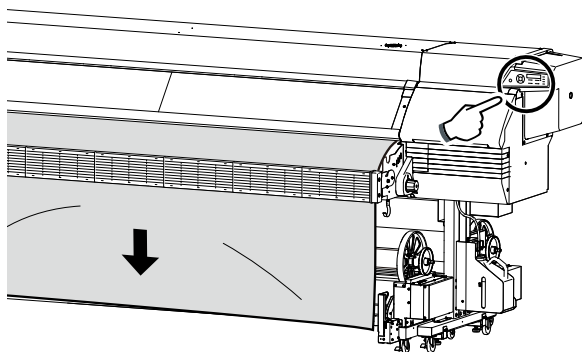
③ ノブを締めて固定します。

ペーパーセットゲージを使い、紙管のエッジとフランジの間隔を決めます。

ハンドルを時計回りに止まるところまで回し、スクローラを固定します。

紙管の幅がメディア幅と同じ場合

スペーサーラバー C をスクローラに取り付けます。

2

スクローラを巻き取り装置に載せる

ここから以降はスクローラを巻き取り装置本体に載せた状態のほうが作業がしやすくなります。

3

キーを押して、メディアを巻き取れる程度まで送る

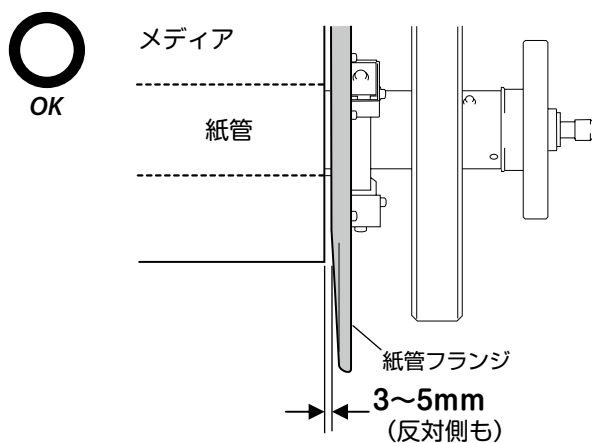
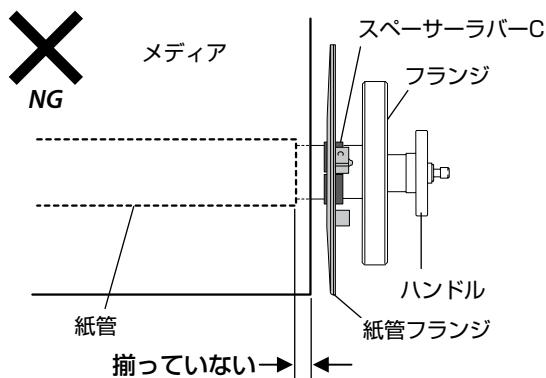
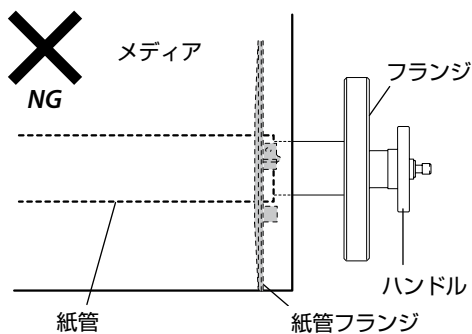
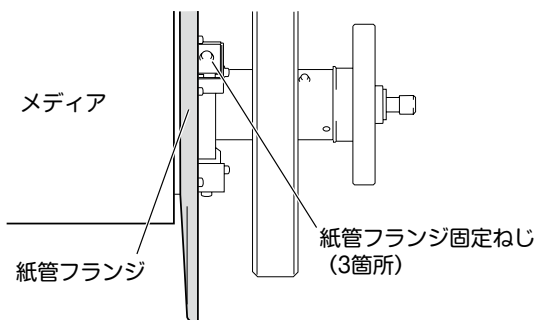
```
フィードチュウ
```

4

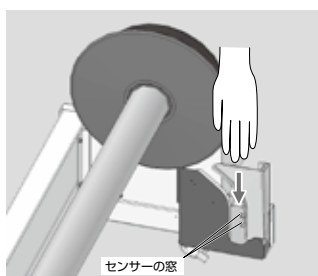
紙管フランジの位置を微調整する

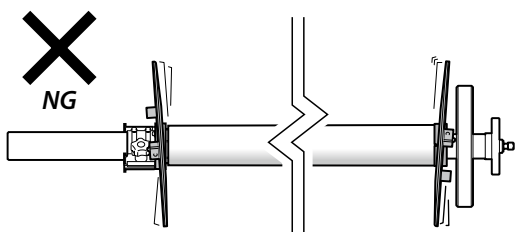
2 つの紙管フランジをメディア端から 3 ～ 5mm の位置になるように微調整します。

ハンドルを緩めて、紙管または紙管フランジの位置を動かして調整してください。

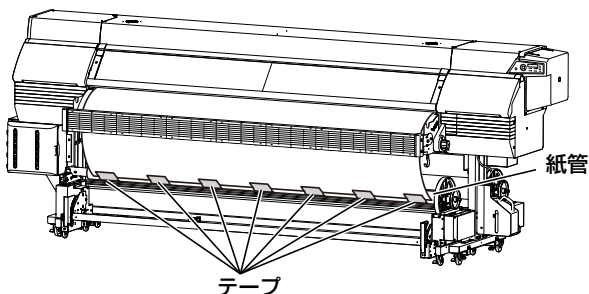
調整したら、ハンドルを回して紙管を固定します。

5

紙管フランジを固定する

紙管フランジ外側の 3 個のねじを均等に締めます。

6

巻き取りロールを回転させ、紙管フランジが左右に振れないことを確認する

左右の紙管フランジで同じことを実施してください。

巻き取りロールの回転のさせ方

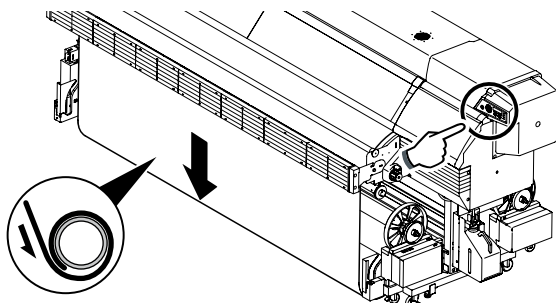
① 装置右側のセンサーの窓を手で左図矢印のように遮ります。（左図矢印のように上方から下方へ遮らないと回転しません。）
② 遮ったままにすると約 4 秒間回転し、停止します。
③ さらに回転させたい時は①②の操作を繰り返します。

7

メディアを紙管に外巻きで取り付ける

粘着テープを使って、最初に中央に真っ直ぐに止め、次に両端に向って粘着テープ止めをしてください。

⚠注意

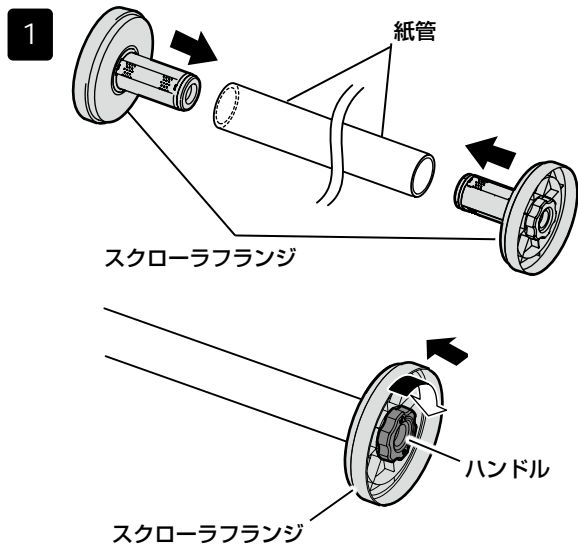
◆ メディアを紙管に対して斜めに取り付けると、メディアのスキューの原因となりますので注意してください。

8

[⌄] キーを押して、メディアを送り、紙管に 1 周分巻き付ける

9 **紙管フランジの取り付け位置を必要に応じて微調整する**

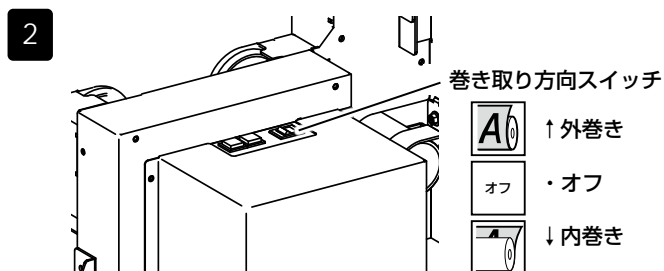
⚠注意

◆ 紙管はメディア幅と同じサイズのものを使用してください。

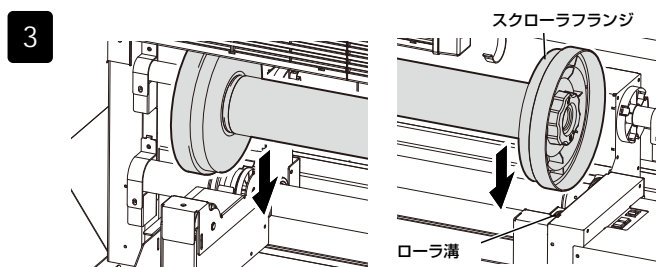
1

紙管を用意し、スクローラフランジを取り付ける

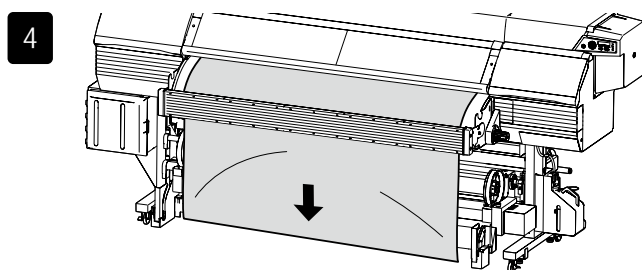
① 紙管の両端にスクローラフランジを奥まで差し込みます。

② 紙管に固定されるまでハンドルを時計方向に回します。

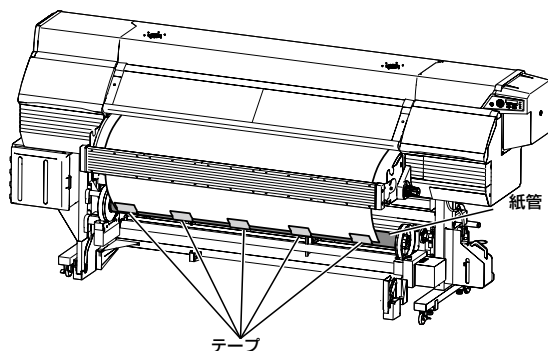
2

巻き取り方向スイッチを「オフ」にする

◆ 巻き取り方向スイッチを「オフ」にしないで次の操作に進むと、スクローラフランジが固定されないため、手をはさむ原因となります。

3

紙管に取り付けたスクローラフランジをプリンタのローラ溝に合わせてセットする

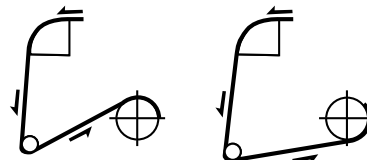
4

⌄ キーを押して、メディアを巻き取れる程度まで送る

```
フィードチュウ
```

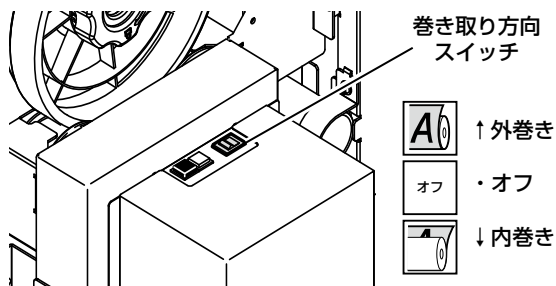
5

引き出したメディアを、紙管に取り付ける

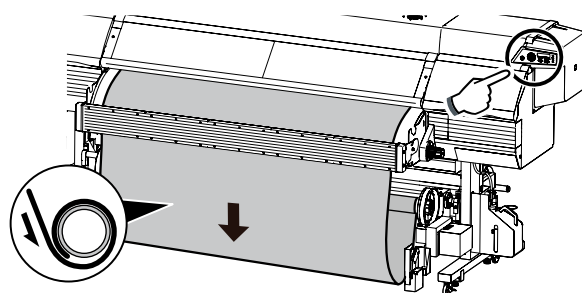
① 巻き取る方向を確認し、メディアのたるみを取り、給紙側と巻き取り側でメディア位置にズレがないことを確認してください。
② テープを使って、最初に中央部分を、次に両端に向かって止めてください。

内巻き：
印刷面が内側にくるように巻き取ります。

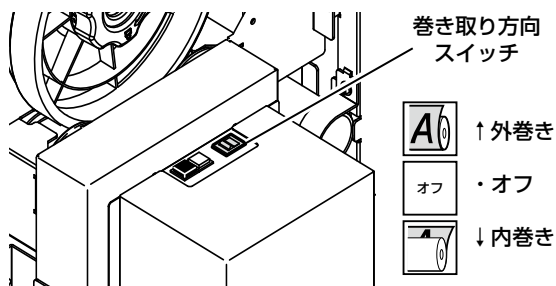
外巻き：
印刷面が外側にくるように巻き取ります。

巻き取りについて

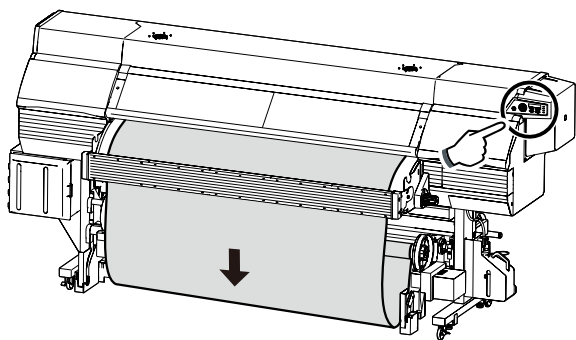
◆ メディアを紙管に対して斜めに取り付けると、メディアのスキューの原因となりますので注意してください。
◆ メディアの巻き取り方向を「内巻き」にセットした場合、巻き径が太くなると印刷後のバックフィードができませんので、あらかじめトウロクメニューのメディアモドシモードで「モドサナイ」を選択してください。(「モドス」のままバックフィードをすると、モータが空転し故障の原因となります。)

6

巻き取り方向に合わせて、巻き取り方向スイッチを押す

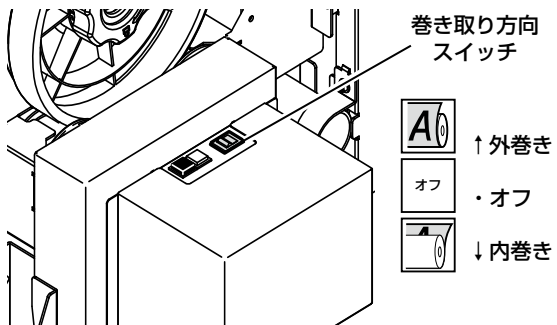
7

キーを押して、メディアを送り、紙管に1周分巻き付ける

```
フィードチュウ
```

8

再度巻き取り方向スイッチを「オフ」にする

9

(∨) キーを押して、たるみが作れる程度までメディアを送る

フィードチュウ

10

巻き取り方向に合わせて、巻き取り方向スイッチを押す

たるみが多すぎると…

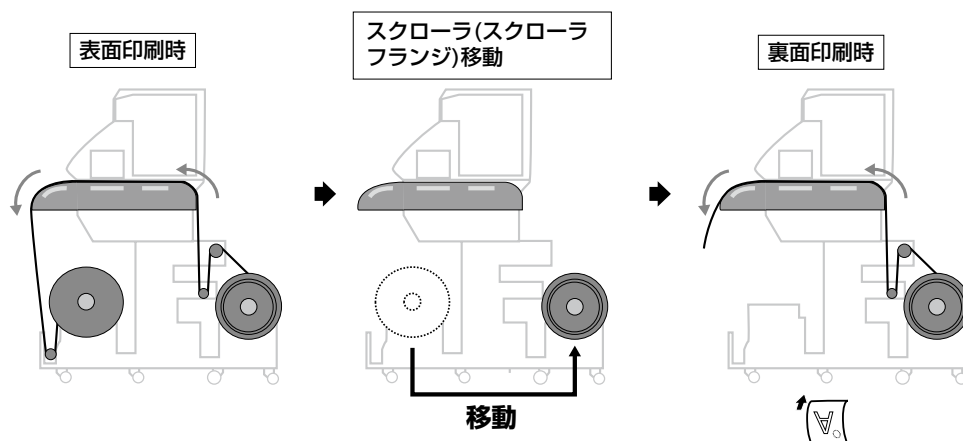
◆ 巻き取り時間が所定値を越え、巻き取りタイムアウトエラーが発生する場合があります。エラーが発生した場合は、巻き取り方向スイッチをオフにしてから再度押してください。

両面印刷する

両面印刷について

◆ 本機には、メディアの送り補正値を正確に補正しながらメディアを送る機構がないため、表面裏面の画像位置をぴったりと合わせることはできません。

最初に印刷する面を「表面」、次に印刷する面を「裏面」として、両面印刷の操作手順を説明します。
以下に、表面を印刷した後、そのメディアを巻き取ったスクローラ（スクローラフランジ）ごと給紙装置にセットし直し、裏面を印刷する方法を説明します。

1

```
メテ゛ィアヲセンタクシテクタ゛サイ
メテ゛ィアセンタク：オモテ
```

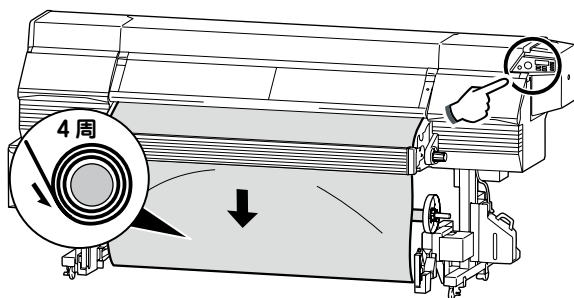
メディアをセットする

メディアの取り付け方法は、30 ページを参照して行ってください。

この時、操作パネルで行う「給紙の選択」は ⌃, ⌄ キーで **「オモテ」** を選択してください。

凸凹が多い面から印刷します

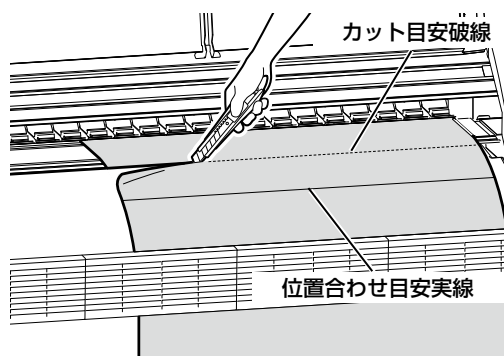
◆ 片面印刷用ターポリン（表面と裏面でメディア表面の凸凹状態が異なるターポリン）を使用する場合は、凸凹の多い面を先に「オモテ」として印刷するようにしてください。

2

巻き取り装置へセットする

巻き取り装置への取り付け方法は、40 ページを参照して行ってください。

紙管に４周巻き付けて

◆ 裏面印刷時には約 2.5m 以上のメディアの余裕が必要なので、あらかじめ巻き取り装置に 4 周程度メディアを巻き取っておいてください。

3 **表面の印刷を開始する**

印刷終了後、フロントカバーを開けてメディアをカットする

表面の印刷が完了すると、最後に2本の線が印刷されます。1本目の線は表裏の印刷位置を合わせるための目安実線で、2本目の線はカット目安破線です。

以下をおすすめします

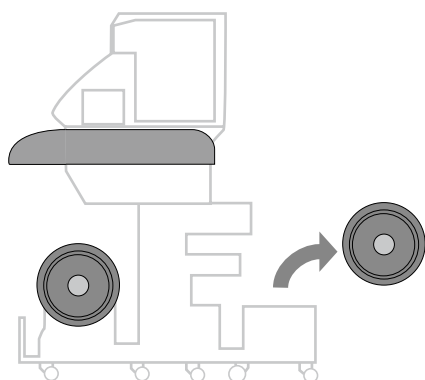
◇ プラテンとペーパーガイドとの隙間にカッターナイフの刃を入れて、メディアをカットすることを推奨します。

◇ 1本目の位置合わせ目安実線の位置を裏面の両端に記しておくと、裏面をセットする際に便利です。

⚠注意

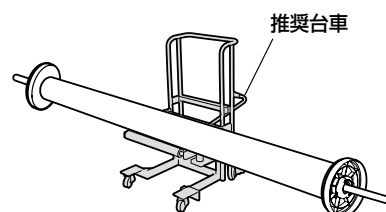
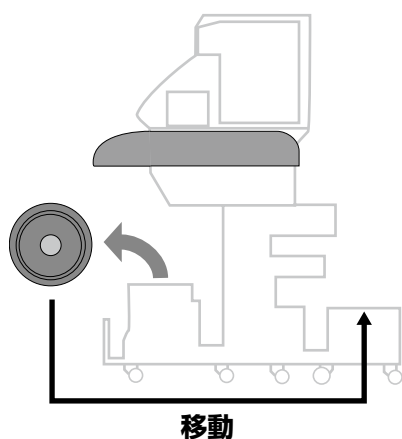
◆ 印刷面は画像によって乾く時間が異なります。印刷面が乾いたことを確認してから次の操作を行ってください。一般的に、3時間以上（濃度の濃い印刷の場合には一昼夜）乾燥させてから裏面印刷を行ってください。

◆ 印刷済みのメディアが床に落下して汚れないように、ご注意ください。

5

給紙側のメディアを本機から外す

(🕮 48 ページ)

⚠注意

◆ スクローラ（スクローラフランジ）の取り付け、取り外しは推奨台車等を使用し、十分注意して行ってください。

6

排紙側のメディアを本機から外し、給紙側に移動する

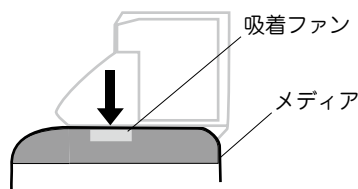
(🕮 45 ページ)

裏面の印刷を始める前に…

◆ 操作パネルから、使用するメディアに合わせて **「キュウチャクファン」「メディアオクリモード」** の設定を変更しておいてください。貼り付きやすいメディアの場合には、**「キュウチャクファン」** を **「ジャク」** に、また **「メディアオクリモード」** を **「シーケンス 2」** または、**「シーケンス 3」** に変更してください。

● 吸着ファン：「弱」

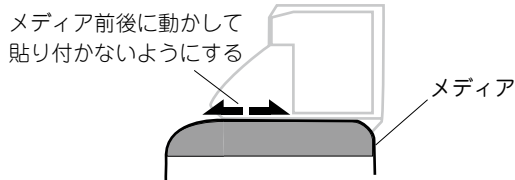
```
#キュウチャクファン
>01：ジャク
```

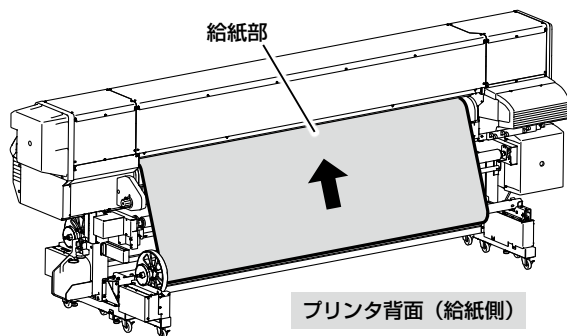
吸着ファンの風量を弱くして、メディアの貼り付きを押さえます

● メディア送りモード：「シーケンス２」または「シーケンス３」

```
#メディアオクリモード
>01：シーケンス2
```

```
#メディアオクリモード
>01：シーケンス3
```

「シーケンス２」では印刷開始時に、メディアを前後に動かす引き剥がし動作をします。（「シーケンス３」では、さらに、毎スキャンの送りで引き剥がし動作をします。）

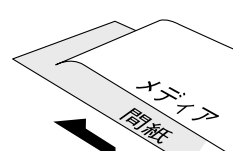
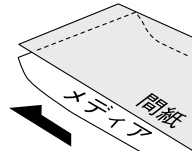
メディア前後に動かして貼り付かないようにする

メディア

7

メディア先端を給紙部に挿入する

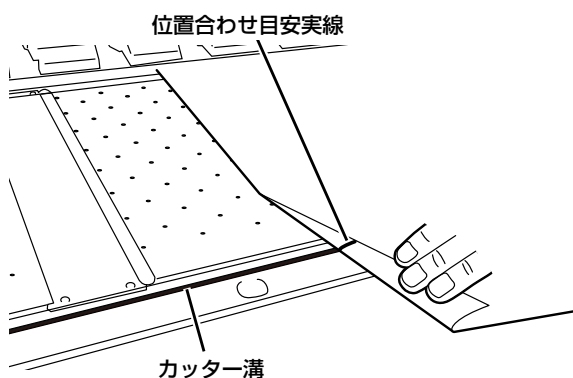
メディアにシワが入らないよう手で伸ばしながら給紙部に挿します。

メディアに巻き癖がある場合

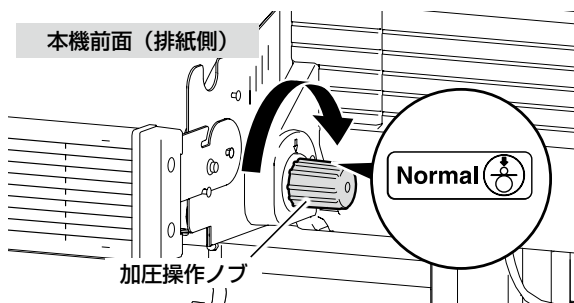
◆ メディアに巻き癖があって給紙部に差しづらい場合は、別紙（間紙）を使用してメディアを差し込んでください。

・アップカール　　・ダウンカール

⚠注意

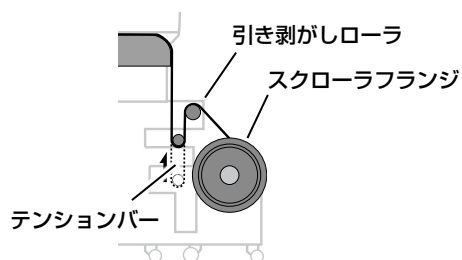
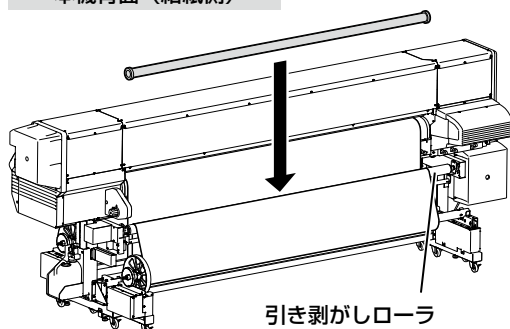
◆ メディアが斜めだったり、シワが入っていたりすると、メディアジャムやスキューの原因になります。

8

位置合わせ目安実線がカッター溝の位置に来るように合わせる

先端の左右で位置が合わない場合は、片側を先に合わせ、動かないように押さえてから、反対側を引っ張って位置調整します。

9

加圧操作ノブを操作し、「Normal」に合わせる

10 送り出しスイッチを使って、引き剥がしローラの内側にメディアのたるみを作り、給紙側テンションバーを載せる

11

メディアエッジガードをセットし、フロントカバーを閉める

12

「ウラ」を選択し、OK キーを押す

⌃，⌄ キーで「ウラ」を選択します。

13

用紙の種類を選択する

⌃，⌄ キーで用紙を選択します。

14

給紙側のたるみを確認する

15

```
ﾒﾃﾞｨｱｾｯﾄﾁｭｳ
ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ
```

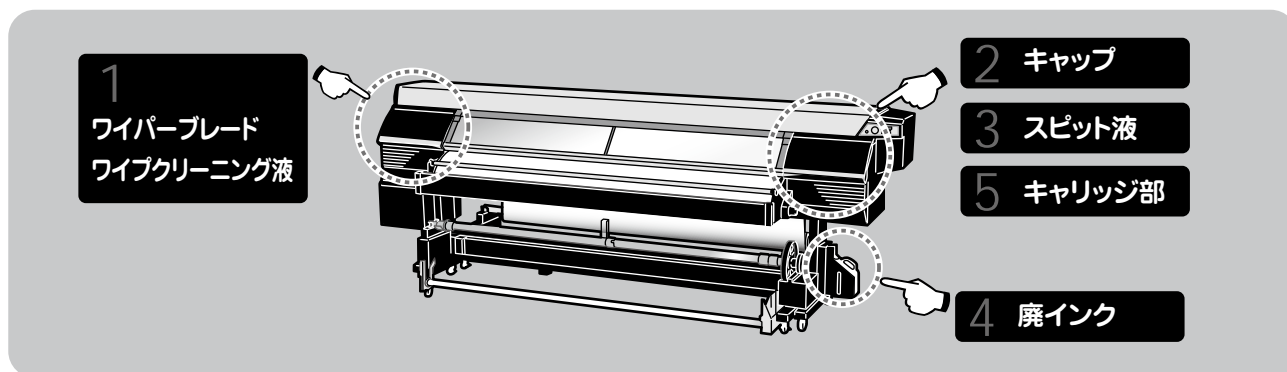
- 正常に終了した場合は、オンラインの状態または、オフラインの状態に戻ります。
- 正常に終了しなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

  手順 **7** に戻ってやり直してください。

◆ 裏面の印刷を開始する前にプリントヘッドのクリーニングをしておくことをおすすめします。

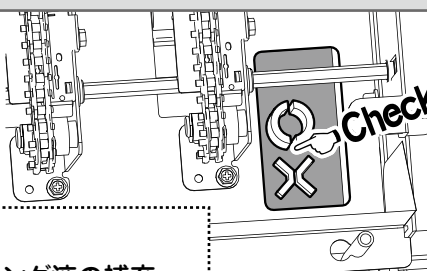
16 裏面の印刷を開始する

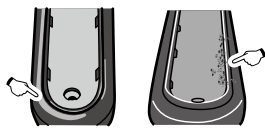
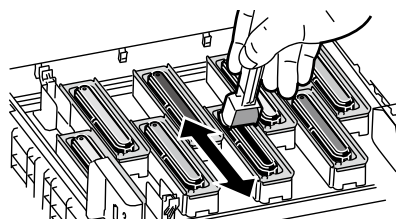
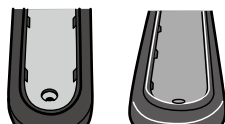
データのご確認を

◆ RIP からのデータ転送は、裏表で 180° 回転した状態となりますのでご注意ください。

メンテナンス

日常メンテナンス

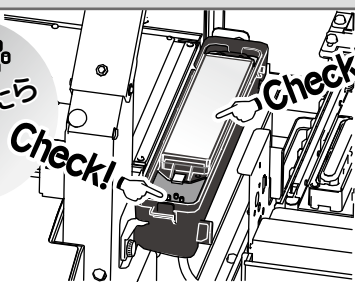
日常メンテナンスは、手袋を付けて作業を行ってください。
※本文中の説明では、手袋を付けていないイラストがあります。

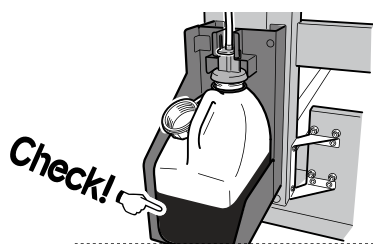
1 ワイパーブレードはきれいですか? ワイプクリーニング液は適量ですか?

68 ページ
ワイパーブレードの汚れチェック、ワイプクリーニング液の補充

2 キャップを清掃しましょう!

OK

69 ページ
キャッピングユニットのクリーニング

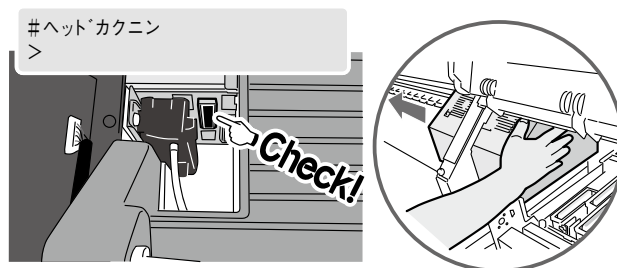
3 スピット液は適量ですか?

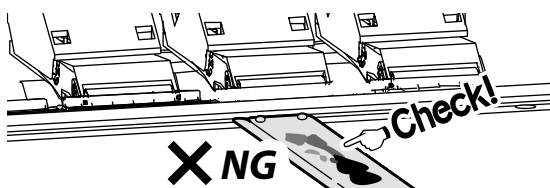
71 ページ
スピット液の補充

印刷する前に
印刷してみる
メンテナンス
こんなときには
ふろく

以下の消耗品をご用意ください

4 廃インクが溜まっていませんか?

📖 72 ページ
廃インクボトルのチェック

5 ヘッド面にゴミ･汚れがないか確認しましょう!

#ﾍｯﾄﾞｶｸﾆﾝ
>

📖 72 ページ
キャリッジ部の清掃

6 メディアエッジガードはきれいですか?

📖 75 ページ
メディアエッジガードの清掃

7 「ヘッドクリーニング」をしましょう!

#ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ
>ﾂｳｼﾞｮｳ

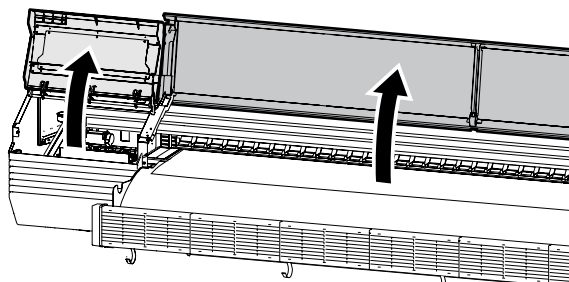
📖 76 ページ
ツウジョウクリーニングの実施

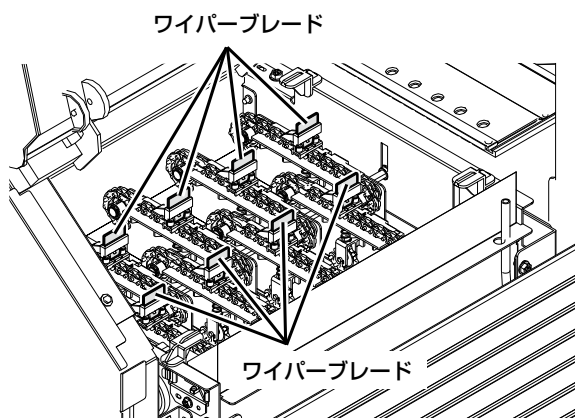
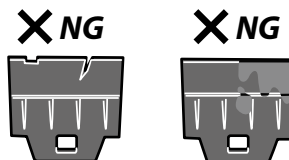
8 「ノズルプリント」を印刷しましょう!

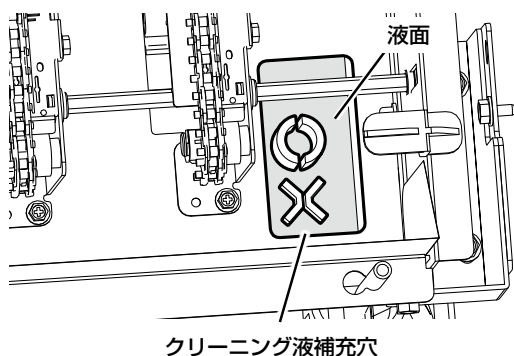
#ﾁｮｳｾｲﾊﾟﾀｰﾝ
>ﾉｽﾞﾙﾌﾟﾘﾝﾄ

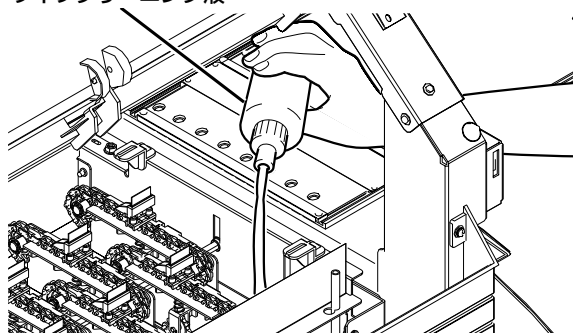
📖 77 ページ
ノズルプリントの実施チェック

◆ ワイパーブレードの汚れチェック、ワイプクリーニング液の補充

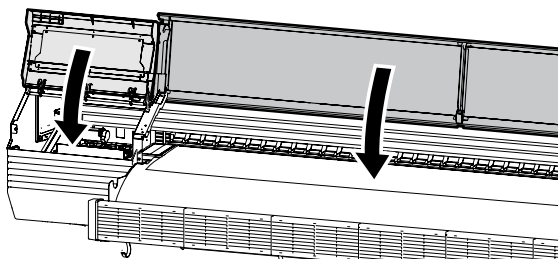
1

フロントカバーを開けてから、ワイプカバーを開ける

2

ワイパーブレードに汚れや傷がないか確認する

汚れや傷がついている場合は、ワイパーブレードを交換してください。(📖 102 ページ)

3

ワイプクリーニング液の液面の高さを確認する

クリーニング液補充穴はワイプユニット上面右下にあります。

“×”マーク上面より液面が下がっていたら、ワイプクリーニング液を補充する

“○”マーク上面より上にならない範囲で補充します。

4

ワイプカバーとフロントカバーを閉める

⚠注意

- ◆ ワイプカバーを閉める時は、ストッパーを外してから閉めてください。ストッパーを外さずに閉めようとすると、ストッパーが曲がったり、キャリッジに接触して故障の原因となる場合があります。

◆ キャッピングユニットのクリーニング

⚠注意

◆ キャッピングユニットからキャリッジを離した状態で、放置しないでください。5分以内に作業を終了させてプリントヘッドをキャッピングしてください。プリントヘッドが乾燥して故障の原因となります。

1

クリーニングスティックにクリーニングローラを取り付ける

2

MENU

本機をオフラインにして、MENU キーを押す

〉キーを押す

3

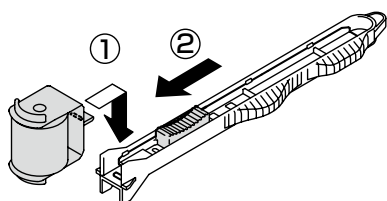
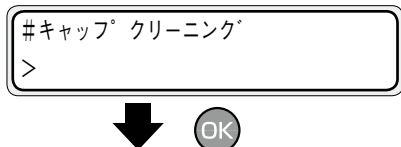
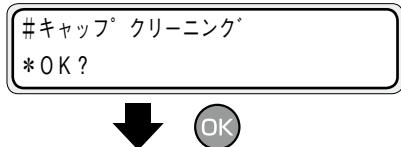
OK

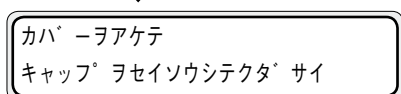
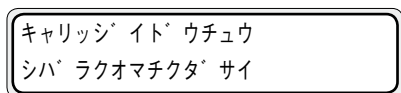
OK キーを押す

4

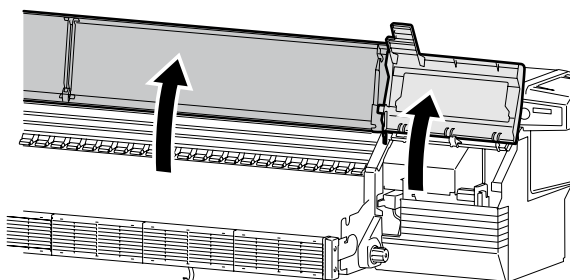
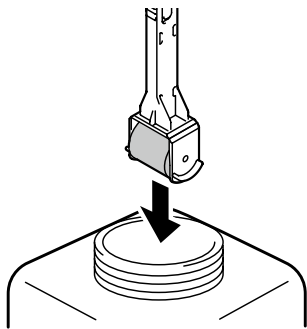
OK

キャリッシ゛イト゛ウチュウ
シハ゛ラクオマチクタ゛サイ

カハ゛ーヲアケテ
キャッフ゜ヲセイソウシテクタ゛サイ

OK キーを押す

キャリッジがワイプ側まで移動します。

警告音が鳴ります

◇ キャリッジが移動する際、警告音が鳴ります。警告音を鳴らさないようにする場合は、**応用操作ガイド📖 40ページ** を参照してください。

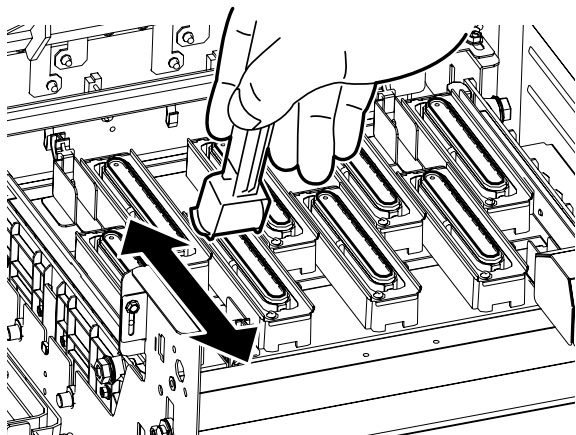
5

フロントカバーを開けてから、キャップカバーを開ける

クリーニングローラをキャップクリーニング液に浸ける

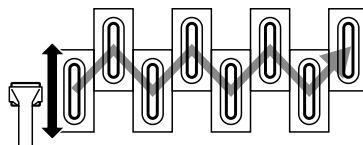
お願い

◆ 一度キャップを清掃したクリーニングローラをキャップクリーニング液ボトルの中に入れないでください。キャップクリーニング液が汚れてしまいます。

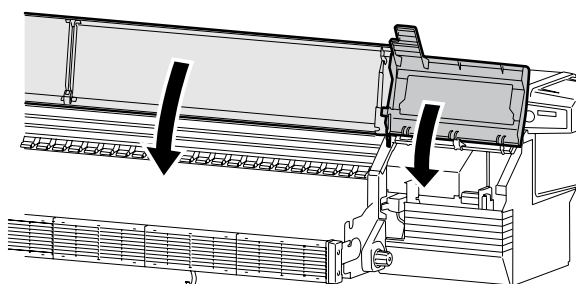
7

⚠注意

◆ キャップクリーニング液がキャップ以外に付着しないように注意してください。

キャップ上面をクリーニングローラを転がして清掃する

1. はじめに各キャップ1往復ずつローラを転がします

2. つぎに各キャップ10往復ずつローラを転がしてください

お願い

◆ クリーニングローラは一回限りの使い切り消耗品です。毎回新しいクリーニングローラに交換して清掃してください。

キャップカバーを閉めてから、フロントカバーを閉じる

自動的にプリントヘッドが元の位置に戻ります。

⚠注意

◆ キャップカバーを閉める時は、ストッパーを外してから閉めてください。ストッパーを外さずに閉めようとすると、ストッパーが曲がったり、キャリッジに接触して故障の原因となる場合があります。

クリーニングしても印刷抜けが直らない…

◆ 上記清掃をしても印刷抜けが起こる場合は、クリーニング棒にキャップクリーニング液をつけ、目視で確認しながらキャップ上の異物やインク汚れを取り除いてください。

◆ スピット液の補充

1

MENU

本機をオフラインにして、 キーを押す

2

↑ハ゛ックフィート゛　フィート゛↓
←クリーニンク゛　サーヒ゛ス→

 キーを押す

3

#キャッフ゜クリーニンク゛
>

OK キーを押す

4

#キャッフ゜クリーニンク゛
＊OK？

キャリッシ゛イト゛ウチュウ
シハ゛ラクオマチクタ゛サイ

カハ゛ーヲアケテ
キャッフ゜ヲセイソウシテクタ゛サイ

 キーを押す

キャリッジが移動します。

警告音が鳴ります

◇ キャリッジが移動する際、警告音が鳴ります。警告音を鳴らさないようにする場合は、**応用操作ガイド📖 40ページ** を参照してください。

5

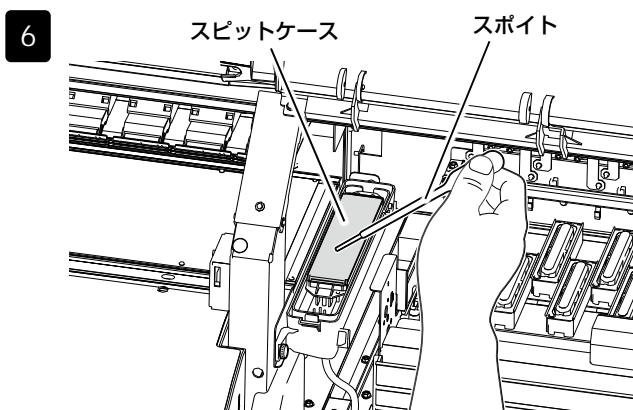
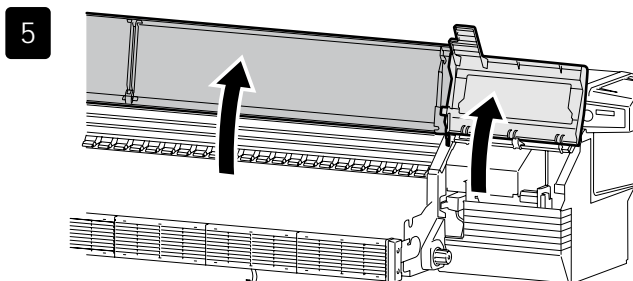
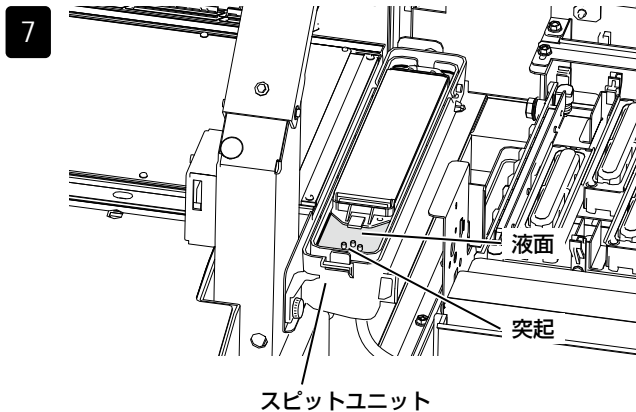
フロントカバーを開けてから、キャップカバーを開ける

6

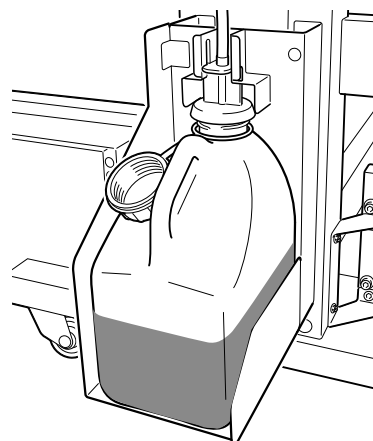
スポイトを使って、スピットケースをスピット液で湿らせる

7

液量を測る突起の高さまで、スピット液を注ぐ

注　意

- ◆ スピットケースに液を注いで数分経つと、スポンジが液を吸収して液面が下がることがあります。
その場合は再度スピット液を注いでください。

◆ 廃インクボトルのチェック

廃インクが一杯になっていないか目視確認します。「FULL」表示ラベルまで廃インクが溜まっている場合は、新品の（空の）廃インクボトルを取り付けてください。
（📖 96 ページの「廃インクボトルの交換」）

◆ キャリッジ部の清掃

ヘッドガード、およびプリントヘッド先端部の左右両側には毛ほこりがインクにまみれて付着していることがありますので、こまめに除去してください。印刷物の表面を汚す原因になります。
また、プラテン上にホコリが付着しないように清掃してください。

1

↓ MENU

本機をオフラインにして、MENU キーを押す

2

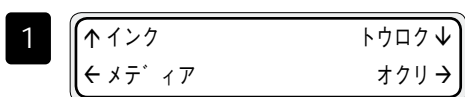
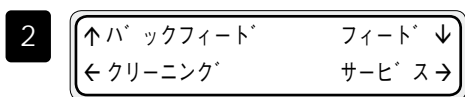
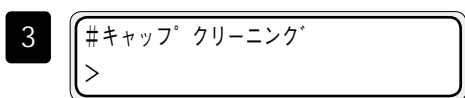
↑バックフィード　フィード↓
←クリーニング　サービス→

↓ >

> キーを押す

3

#キャップクリーニング
>

↓ ∨ ・・・

∨ キーを数回押し、「#ヘッドカクニン」を選択する

4

#ヘッドカクニン
>

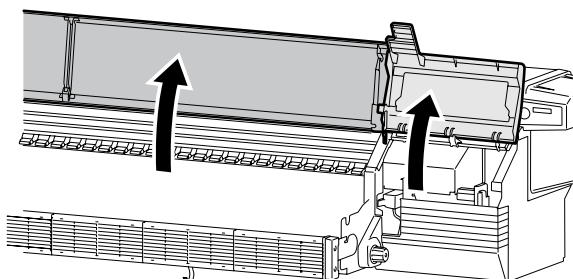
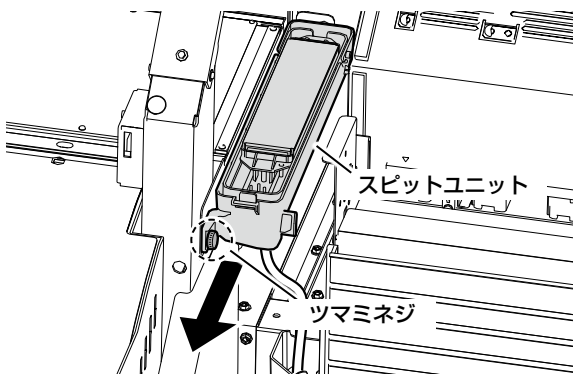
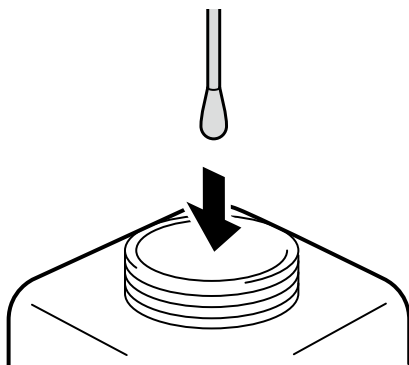
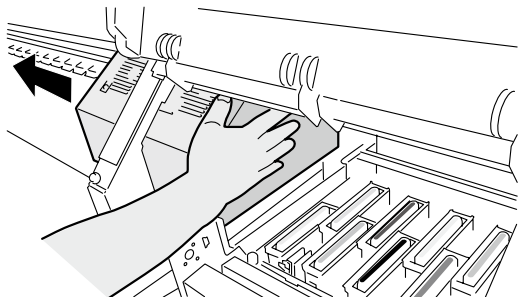
↓ OK

OK キーを押す

5

```
#ヘッド゛カクニン
*OK?
```

```
キャリッシ゛イト゛ウチュウ
シハ゛ラクオマチクタ゛サイ
```

```
カハ゛ーヲアケテ
キャップ゜ヲセイソウシテクタ゛サイ
```

OK キーを押す

キャリッジが移動します。

警告音が鳴ります

◇ キャリッジが移動する際、警告音が鳴ります。警告音を鳴らさないようにする場合は、**応用操作ガイド** 40ページ を参照してください。

⚠注意

◆ キャッピングユニットからキャリッジを離した状態で、放置しないでください。5分以内に作業を終了させてプリントヘッドをキャッピングしてください。プリントヘッドが乾燥して故障の原因となります。

6

フロントカバーを開けてから、キャップカバーを開ける

7

スピットユニットのツマミネジ１本を外し、スピットユニットを取り外す

⚠注意

◆ スピットユニット内にはクリーニング液が入っています。こぼさないようにご注意ください。

8

クリーニング棒をキャップクリーニング液に浸ける

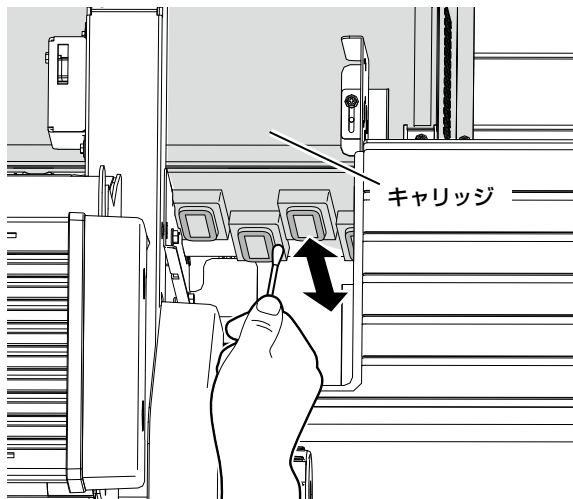
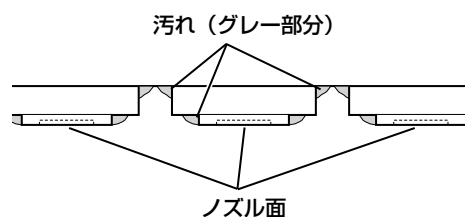
お願い

◆ 清掃に使用したクリーニング棒を、キャップクリーニング液ボトルの中に入れないでください。キャップクリーニング液が汚れてしまいます。

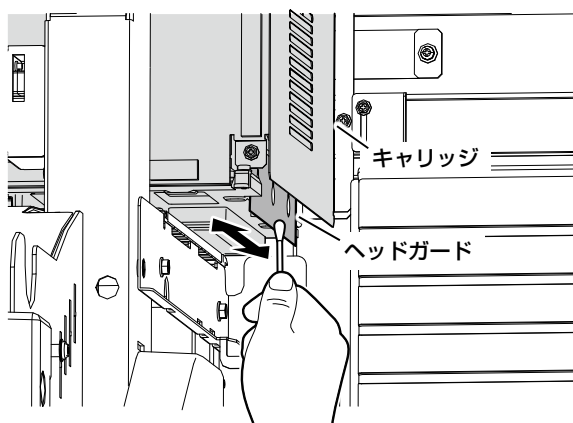
◆ クリーニング棒は一回限りの使い切り消耗品です。毎回新しいクリーニング棒に交換して清掃してください。

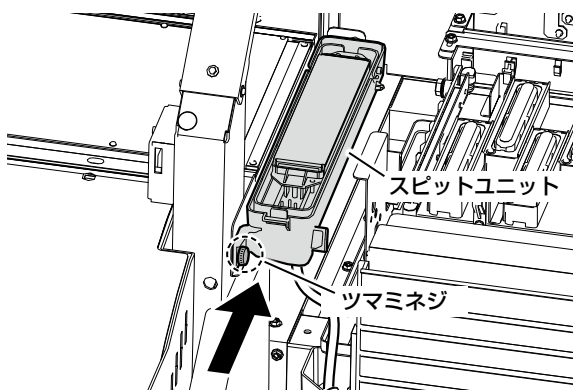
9

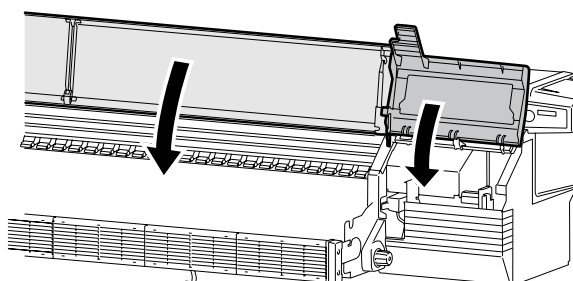
スピットユニットを外した位置に手動でキャリッジを移動させる

10

キャリッジの下面、8 個のプリントヘッド先端部の左右両側をクリーニング棒で清掃する

⚠注意

◆ プリントヘッドのノズル面を、クリーニング棒でこすらないでください。故障の原因となる場合があります。

11

キャリッジ左右両側のヘッドガードの汚れている部分を、クリーニング棒 (または柔らかい布) で清掃する

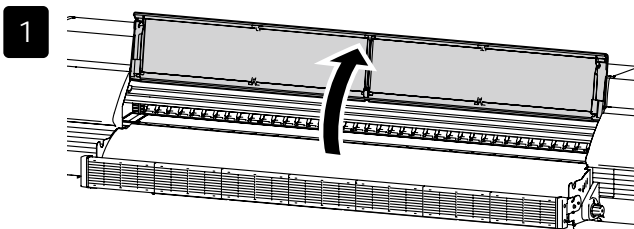
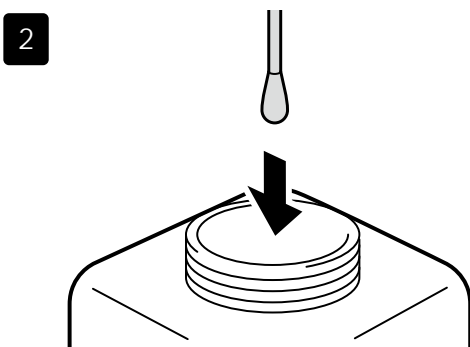
12

手動でキャリッジをプラテン上（左側）へ移動させ、スピットユニットを取り付ける（ツマミネジ 1 本）

13

キャップカバーを閉めてから、フロントカバーを閉める

自動的にキャリッジが元の位置に戻ります。

⚠注意

◆ キャップカバーを閉める時は、ストッパーを外してから閉めてください。ストッパーを外さずに閉めようとすると、ストッパーが曲がったり、キャリッジに接触して故障の原因となる場合があります。

◆ メディアエッジガードの清掃

1

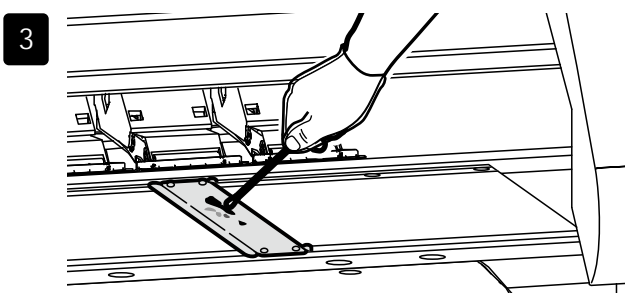
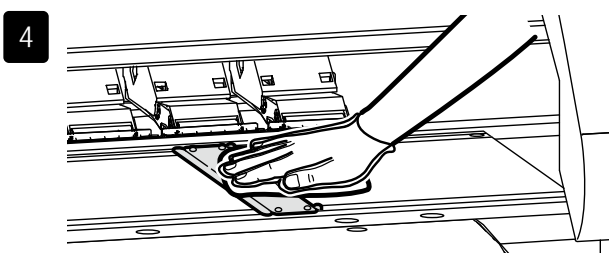
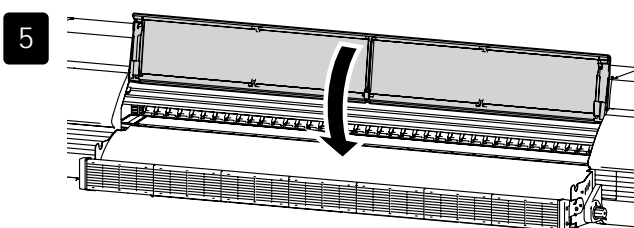
フロントカバーを開ける

2

クリーニング棒をキャップクリーニング液に浸ける

お願い

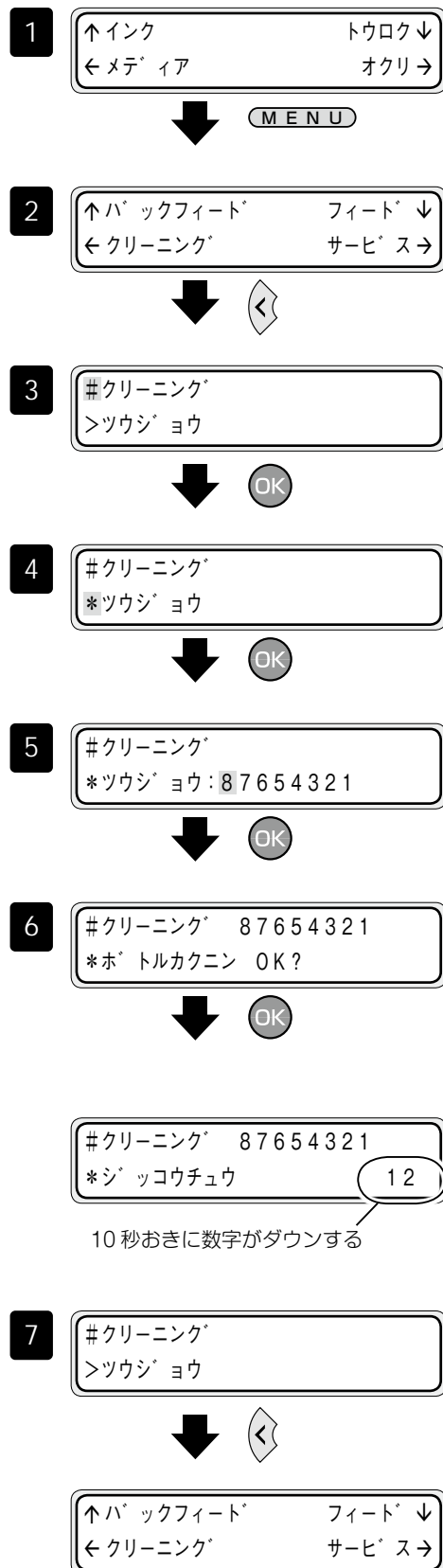
- ◆ 清掃に使用したクリーニング棒を、キャップクリーニング液ボトルの中に入れないでください。キャップクリーニング液が汚れてしまいます。
- ◆ クリーニング棒は一回限りの使い切り消耗品です。毎回新しいクリーニング棒に交換して清掃してください。

3

メディアエッジガードの汚れ部分に擦りつける

4

柔らかい布で汚れを拭き取る

5

フロントカバーを閉める

◆ ツウジョウクリーニングの実施

1 本機をオフラインにして、MENU キーを押す

2 < キーを押す

3 OK キーを押す

4 OK キーを押す

5 OK キーを押す

表示されている番号のプリントヘッドがクリーニングの対象となります。

6 OK キーを押す

廃インクボトルが一杯になっていないことを目視で確認します。一杯になっている場合は、廃インクボトルを交換してください。（📖 **96 ページの「廃インクボトルの交換」**）

クリーニング開始

クリーニング動作は数分かかります。

クリーニングが開始されると、所要時間が表示されます。所要時間は 10 秒おきにカウントダウンします。

10 秒おきに数字がダウンする

7 < キーを押す

オフライン状態（メニューモード）表示に戻ります。

◆ ノズルプリントの実施チェック

ノズルプリントは、毎日の最初の印刷前に、あるいはキャップのクリーニングなどのためにプリントヘッドをキャッピングユニット外へ出した後などにプリントヘッドの確認をするために行います。

1

本機をオフラインにして、MENU キーを2回押す

2

キーを押す

3

キーを押す

4

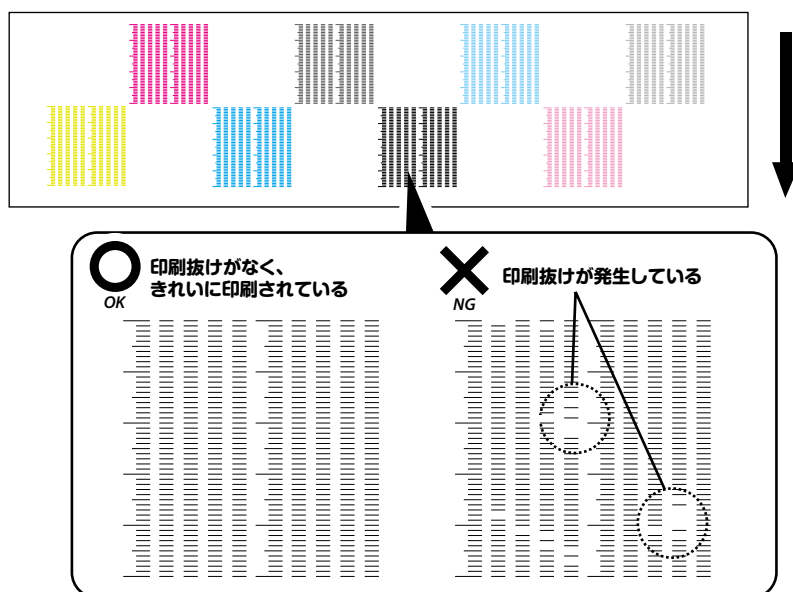
キーを押す

5

キーを押す

#チョウセイパ゜ターン
＊シ゛ッコウチュウ

6 **印刷抜け・プリントミスがないか確認する**

印刷抜けがある場合は、ツウジョウクリーニングを行います。

クリーニング

◆ 外装のクリーニング

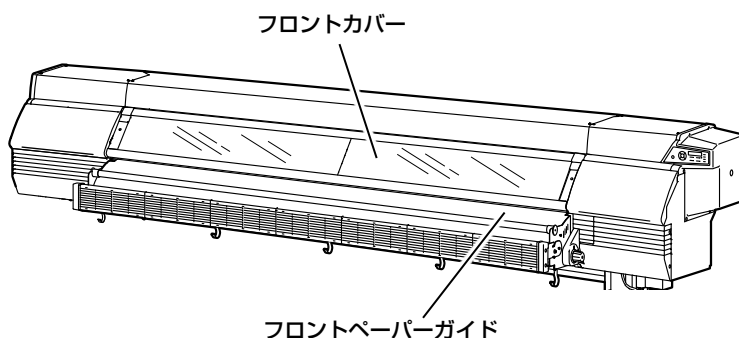
本機の外装が汚れた場合は、水または水でうすめた中性洗剤を柔らかい布に含ませて、よくしぼってから拭き取ってください。

⚠注意

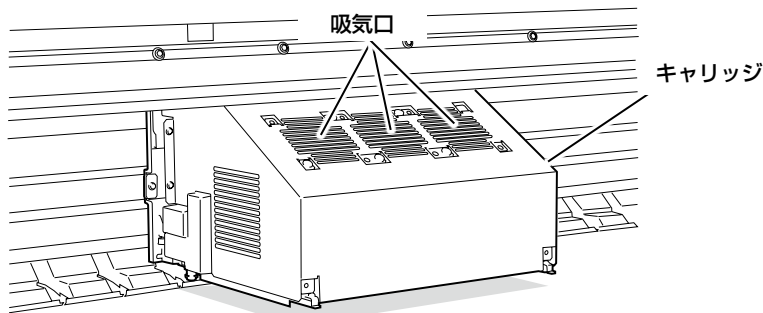
- ◆ お手入れをするときは、プリンタ電源、ヒータ電源のスイッチをオフにしてから行ってください。
- ◆ シンナー、ベンジンなどの揮発性溶剤は絶対に使用しないでください。塗装がはげたり変質したりすることがあります。

◆ フロントカバー、フロントペーパーガイドのクリーニング

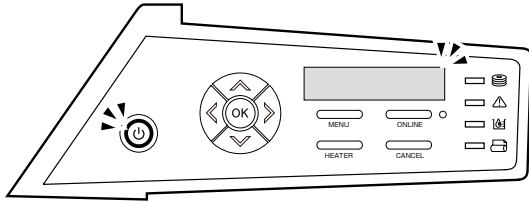
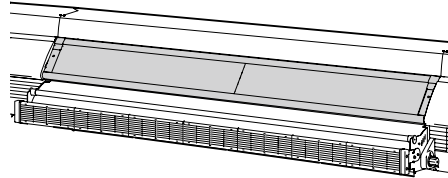
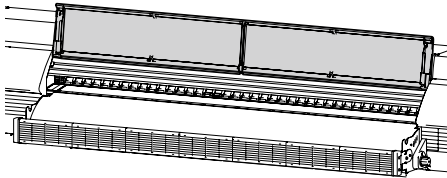
ホコリ、紙粉等で汚れた場合は掃除機等で吸い取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を湿らせた柔らかい布できれいに拭き取ってください。

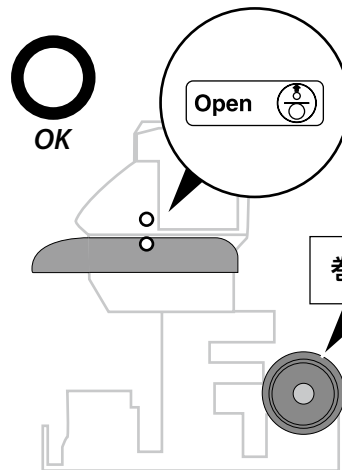
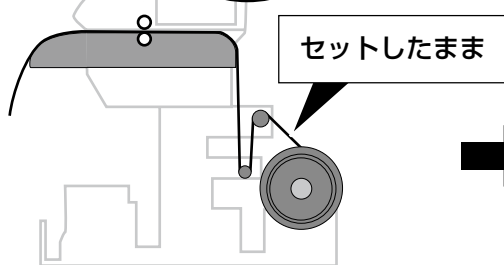
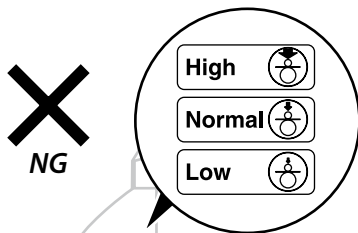
⚠注意

- ◆ お手入れをするときは、プリンタ電源、ヒータ電源のスイッチをオフにしてから行ってください。
- ◆ 紙粉を吹き飛ばさないでください。画質等に悪影響を与える場合があります。

◆ キャリッジのクリーニング

キャリッジの吸気口周辺が汚れた場合は、掃除機等で吸い取ってください。
１ヶ月毎の実施をおすすめします。

その日使い終わったら

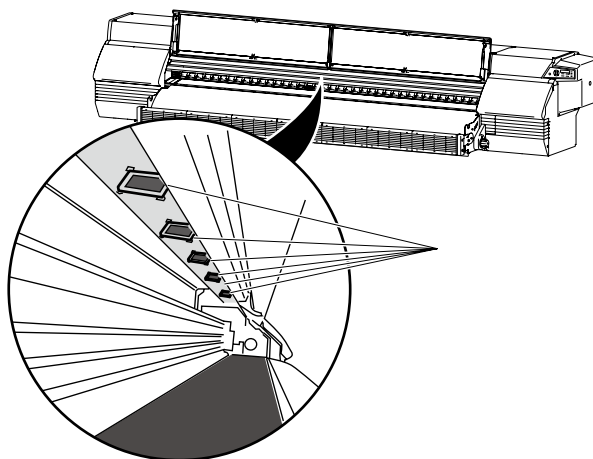
本機は定期的に自動でメンテナンス動作を行います。その日の印刷が終わっても、本機がメンテナンス動作が行えるように、以下の状態にしておいてください。

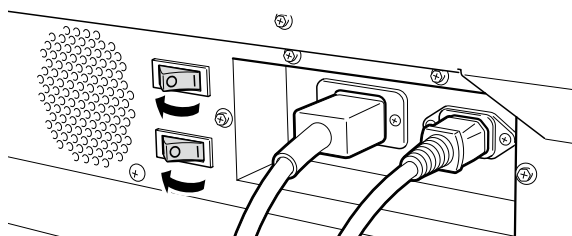
1．電源は入れたままにしてください

2．フロントカバーは閉じておいてください

3．メディアは巻き取っておくか、または本機から取り外してください

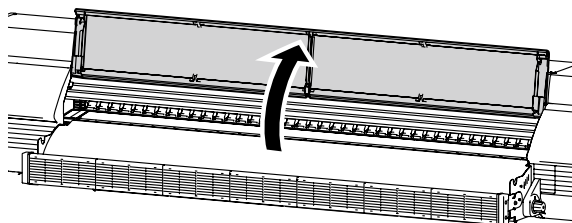
メディアを長時間セットしたままにしておくと、プラテン上でしわになったり、グリップ痕が付くことがあります。メディアを良好な状態に保つために、以下の操作をおすすめします。
特に塩ビはシワになりやすいので、必ず巻き取った状態にしておいてください。

4. 排気ファンフィルタが汚れていないか確認してください
（オプション「フィルタキット」を付けている場合）

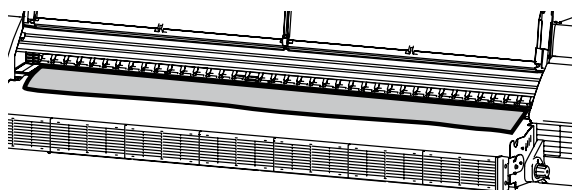
本機内のインク臭を排出するファンの吸気口には、排気ファンフィルタが取り付けられています。(IP-7900-00：6 箇所、IP-7700-00：4 箇所）排気ファンフィルタがホコリ等で汚れたままになっていると、溜まったホコリ等が落下し、画質等に悪影響を与える場合があります。
総プリント距離 600m ～ 700m を目安に、すべての排気ファンフィルタを交換してください。

総プリント距離を確認するには…

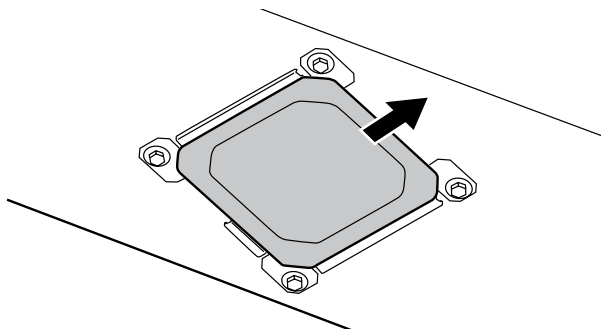
◇ 応用操作ガイド📖 25ページ を参照してください。

■ 排気ファンフィルタの交換方法

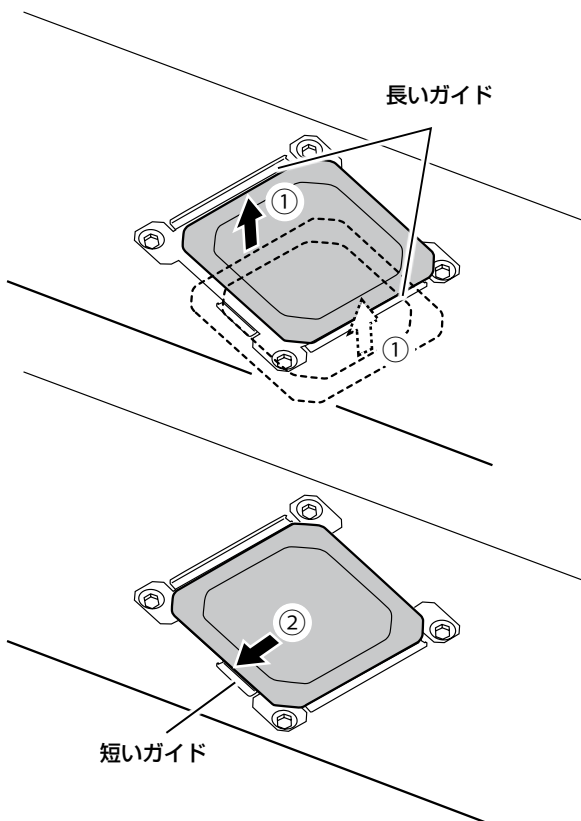
1

本機背面のプリンタ電源スイッチとヒータパワースイッチをオフ（ ○ ）にする

2

フロントカバーを開ける

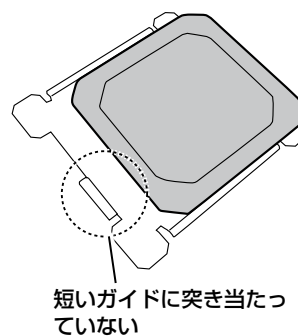
3

プラテン上に作業用のメディアまたは布をセットする

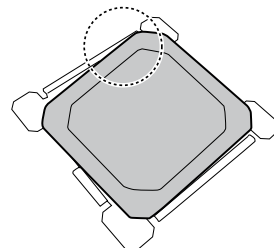
排気ファンフィルタに付着しているホコリ等で装置が汚れないようにします。

4

古い排気ファンフィルタを取り外す

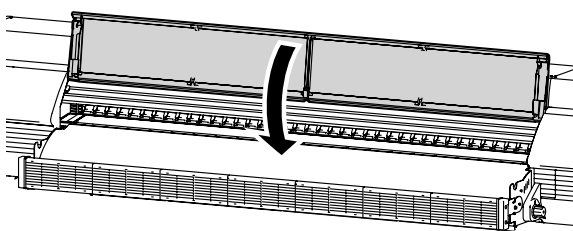
5

新しい排気ファンフィルタを取り付ける

排気ファンフィルタに前後、左右方向の区別はありません。

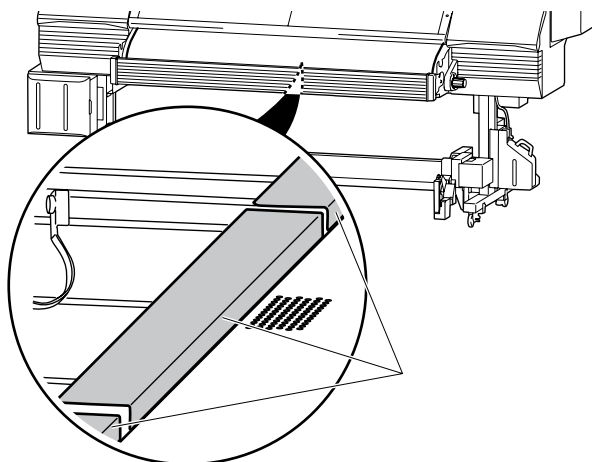
① マグネットシート面 (茶色の面) を上側にして板金のふたつの長いガイドの間に取り付けます。
② 奥の短いガイドに突き当てます。

お願い

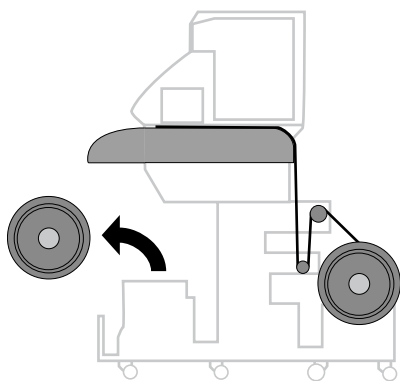
◆ 排気ファンフィルタは板金のガイドに乗り上げないように取付けてください。

⚠注意

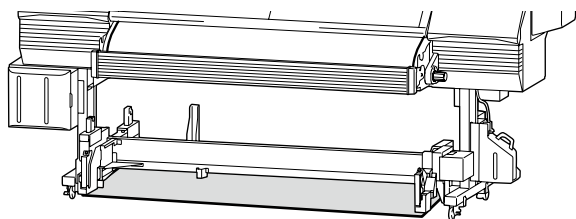
◆ 排気ファンフィルタが正しく取り付けられていないと、本機の調整がずれたり、故障の原因となります。

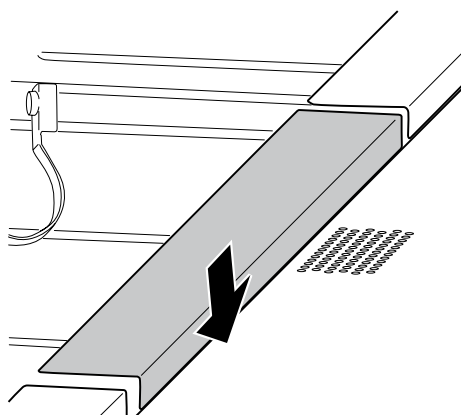
6

手順 3 でセットしたメディアまたは布を取り外し、フロントカバーを閉める

5．ダストフィルタが汚れていないか確認してください
（オプション「フィルタキット」を付けている場合）

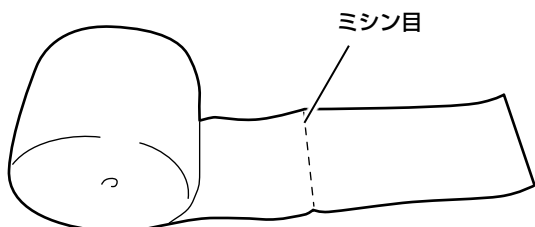
プラテンに内蔵されている吸着ファンの排気口にはダストフィルタが取り付けられています。(IP-7900-00：4箇所、IP-7700-00：3 箇所) ダストフィルタがホコリ等で汚れたままになっていると、溜まったホコリ等が落下し、巻き取ったメディアに付着する場合があります。
3 ヶ月〜 4 ヶ月を目安に、すべてのダストフィルタを交換してください。

■ ダストフィルタの交換方法

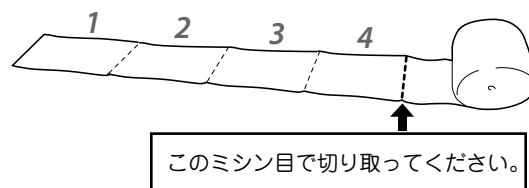
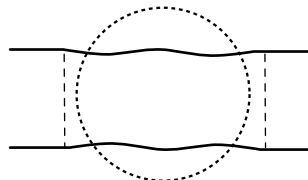
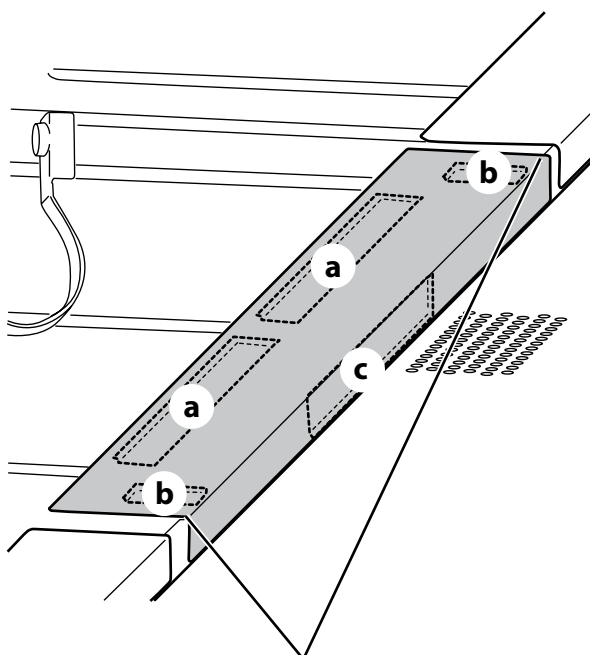
1

巻き取り装置にメディアを取り付けている場合は取り外す

2

古いダストフィルタからインクカスが落ちて汚さないように、床に作業用のメディアまたは布をセットする

3

古いダストフィルタをマジックテープから引き剥がして取り外す

マジックテープにダストフィルタの繊維が残っている場合は取り除きます。

4

新しいダストフィルタのロールから必要な数だけ切り取る

ミシン目を手で切り取ります。(1 箇所につき 4 枚)

ダストフィルタの端がゆがんでいることがありますが、フィルター性能、品質には問題ありません。

5

ダストフィルタ両端が若干余りますが問題はありません。

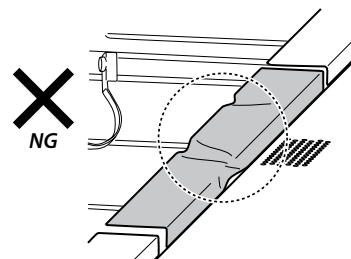
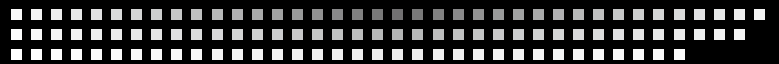
新しいダストフィルタを取り付ける

① ダストフィルタの長手方向の中心と、マジックテープ **a,b** が付いている板金の中心を合わせ、ダストフィルタの端とマジックテープ **a** の端を合わせてマジックテープ **a** に取り付けます。

② マジックテープ **b** に取り付けます。

③ 板金に沿って折り、マジックテープ **c** に取り付けます。

お願い

◆ ダストフィルタはできるだけ浮きがないように取付けてください。

こんなときには

故障？と思う前に

本機の故障と思う前に、次のことを点検または確認して対処してください。

電源が入らない

点検／確認項目	対処方法
● 電源コードの接続状態	コンセントに正しく接続してください。
● コンセントへの電源供給	コンセントに電源を供給してください。 電源電圧が適正か確認してください。
● 電源スイッチのオン / オフ状態	電源スイッチをオンにしてください。 **（📖 29 ページの「● 電源をオンする」）**

ヒータをオンにしたのにペーパーガイドが熱くならない

点検／確認項目	対処方法
● プリンタ本体の状態	ペーパーガイドは、印刷中、またはヒータコントロールメニューによってヒータがオンに設定されているときに加熱されます。画像を印刷するか、もしくはヒータをオンに設定して、ペーパーガイドが加熱されているか確認してください。 **（📖 応用操作ガイド 68 ページの「ヒータの設定をする」）**
● コンピュータのソフト RIP の設定	ヒータの温度設定は、コンピュータのソフト RIP から設定することも可能です。コンピュータの設定を確認してください。
● ヒータコントロールメニュー	加熱したいヒータ（アフター／プリント／プリ）を再度オンにした後、画像を印刷するか、もしくは強制的にヒータをオンに設定して、ペーパーガイドが加熱されているか確認してください。**（📖 応用操作ガイド 68 ページの「ヒータの設定をする」）**
● 電源電圧の確認	AC200V に接続してください。

正常に立ち上がらない、動作しない

点検／確認項目	対処方法
● エラー LED の点灯と LCD のメッセージ表示	エラーメッセージに従って対処してください。 **（📖 88 ページの「エラーメッセージが表示されたとき」）**

印刷できない

点検／確認項目	対処方法
● USB ケーブルの接続状態	USB ケーブルを正しく接続してください。 (📖 28 ページの「● USB ケーブルを続接する」)
● エラー LED の点灯と LCD のメッセージ表示	エラーメッセージに従って対処してください。 (📖 88 ページの「エラーメッセージが表示されたとき」)
● エラー LED 消灯	テスト用の画像を印刷してください。 (📖 77 ページの「◆ ノズルプリントの実施チェック」) (ソフト RIP の「テストパターン」が印刷できることを確認する)
● プリントヘッドのクリーニング	プリントヘッドのクリーニングを実施してください。 (📖 76 ページの「◆ ツウジョウクリーニングの実施」)

印刷を開始したのに、操作パネルに「プリヒートチュウ」 と表示されたまま、なかなか印刷されない

点検／確認項目	対処方法
● 室温	室温をあげてください。(推奨温度：20 ～ 25℃)
● 風の影響	ペーパーガイドにエアコン等の風が当たっている場合は、風が当たらないようにしてください。(風向きの変更、本機の向き、配置の変更など)

送信したデータがなかなか印刷されない

点検／確認項目	対処方法
● オンライン LED(点滅しているか)	コンピュータとの通信条件を確認してください。

メディアジャム（メディア詰まり）が多発する

点検／確認項目	対処方法
● メディアの種類が合っているか	メディアの種類の設定がセットしたメディアと合っているかどうか確認してください。(📖 52 ページの「◆このメディアで印刷したい」)
● メディアが正しくセットされているか	メディアを正しくセットしてください。 (📖 30 ページの「● メディアをプリンタに取り付ける」)
● キャリッジの経路に障害物が挟まっていないか	異物を取り除いてください。 (📖 87 ページの「メディアジャムの処理のしかた」)
● メディア搬送経路に障害物が挟まっていないか	異物を取り除いてください。 (📖 87 ページの「メディアジャムの処理のしかた」)
● 吸着ファンの吸着力が適切か	吸着ファンの吸着力を弱くしてみてください。 (📖 応用操作ガイド 30 ページの「◆メディアの張り付きをなくしたい」)
● ヒータ設定温度が適切か	ヒータ設定温度を下げてみてください。 (📖 応用操作ガイド 68 ページの「ヒータの設定をする」)

画質が悪い

📖 **応用操作ガイド 46 ページの「こんな症状が出たら」**を参照してください。

白紙がでる

点検／確認項目	対処方法
● 印刷しているデータの確認	白紙データを送信していないか、印刷しているデータを確認してください。

印刷が遅い（キャリッジがたまにしか動かない）

点検／確認項目	対処方法
● USB 接続スピード	データの転送スピードが遅いとデータを待つためにプリントヘッドをキャップして待機します。 USB の転送スピードを確認してください。フルスピード接続の場合は、ハイスピード接続になるようにコンピュータとの接続環境を変更する事で、改善できます。 **(📖 応用操作ガイド 24 ページの「◆ USB の接続状態を確認したい」)** ・USB ケーブルを接続しなおしてください。 ・USB2.0 のポートに接続してください。 ・ドライバをインストールしなおしてください。 ・USB ケーブルをハイスピード対応品にしてください。 ・ハブを使用している場合は、ハブをハイスピード対応品にしてください。

印刷が遅い（印刷の途中で頻繁にプリントヘッドがキャップされる）

点検／確認項目	対処方法
● 高温環境	装置温度が高いと (40℃以上)、印刷速度を落として印刷します。室温を推奨温度 (20 ～ 25℃) にして 1 時間以上経過してから印刷してください。
● 排気ファンフィルタが汚れていないか	排気ファンフィルタを交換してください。 **(📖 80 ページの「■ 排気ファンフィルタの交換方法」)**
● 他に USB で大量のデータを転送する機器を接続していないか	USB で接続している他の機器をはずしてみてください。
● コンピュータのスペック	ご使用の RIP ソフトウエアの推奨動作環境を満たすコンピュータを使用してください。推奨動作環境につきましては、ご使用の RIP ソフトウエアのメーカにお問い合わせください。
● コンピュータが他の作業をしていないか	他のアプリケーションソフト (ウイルス対策ソフトなど) を終了させてください。

メニュー表示が他国語になってしまった

点検／確認項目	対処方法
● 言語設定	MENU キーを押しながら、電源スイッチを入れ、本機を立ち上げてください。言語設定メニューが表示されますので、表示したい言語を設定してください。

メディアジャムの処理のしかた

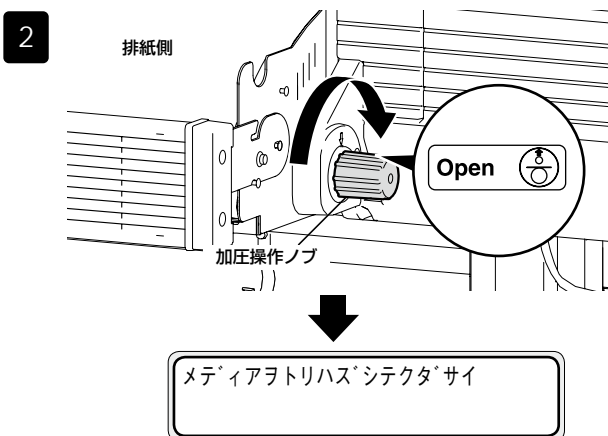
1

```
ｸﾞﾘｯﾌﾟ ｦｶｲｼﾞｮｼﾃ     X
ｶﾊﾞｰｦ ｱｹﾃｸﾀﾞｻｲ
```

ガイダンスメッセージが表示される

X：メディアジャムの種類	意　味
0：メディアジャム 0	メディア搬送経路に障害物があり、本機が正常に駆動できません。
1：メディアジャム 1	キャリッジの動作経路に障害物があり、本機が正常に駆動できません。
2：メディアジャム 2	ロールメディアとシートメディアの選択を間違えたり、規定サイズ長以外のシートメディアを使用しているため、メディアが正しく検出されていません。

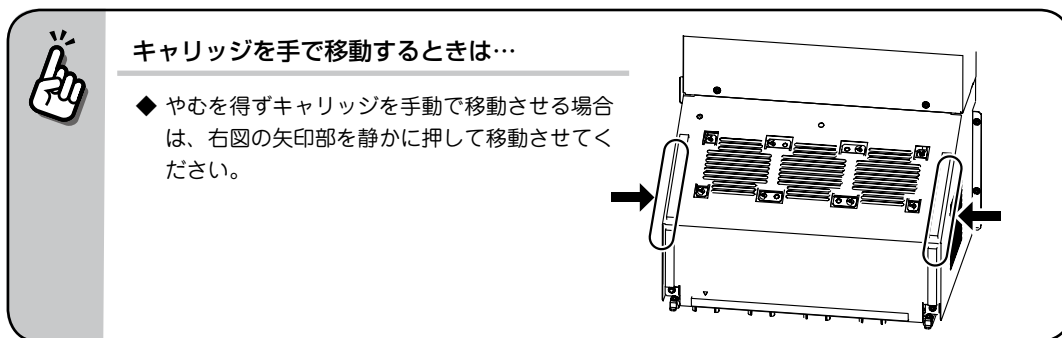
2

```
ﾒﾃﾞｨｱｦﾄﾘﾊｽﾞｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

加圧操作ノブを回し、「Open」に合わせ、フロントカバーを開ける

3 **ジャムをおこしたメディアを取り除き、キャリッジの経路およびメディア搬送経路に障害物がないことを確認する**

キャリッジを手で移動するときは…

◆ やむを得ずキャリッジを手動で移動させる場合は、右図の矢印部を静かに押して移動させてください。

4

```
ｷｬﾘｯｼﾞｲﾄﾞｳﾁｭｳ
ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ
```

フロントカバーを閉める

キャリッジがホームポジションに移動します。

5 **メディアをセットし直す（📖 30 ページ）**

エラーメッセージが表示されたとき

エラー LED が点灯しているときは、まず LCD に表示されているメッセージを確認してください。
エラーメッセージは、次に示す 2 つに分類できます。

サービスコールエラー：
ハードウェア，ソフトウェアの故障など、オペレータ（お客様自身）が処理できないエラーです。サービス拠点にご連絡ください。

オペレータコールエラー：
オペレータ（お客様自身）が処置できるエラーです。
メッセージに従って処理してください。

以降に示すメッセージは、エラーメッセージです。
LCD に表示されているエラーメッセージに従って適切な処置をしてください。

◆サービスコールエラー

まずは本機の再立ち上げを

◆ サービスコールエラーが表示された場合は、以下の作業を行ってみてください。エラーが解除される場合があります。
① 操作パネルの電源スイッチおよび背面のプリンタ電源スイッチとヒータパワースイッチをオフする。
② 電源コードを 2 本ともコンセントから抜き、次に、本機背面のプリンタ電源インレットとヒータパワーインレットからも、それぞれの電源コードを抜く。
③ １分以上放置する。
④ 電源コードを 2 本とも、それぞれ上記のインレットに挿し、次にコンセントに挿す。
⑤ 上記すべてのスイッチをオンにする。

(システムエラー)

```
ｼｽﾃﾑｴﾗｰ  nnnn
ﾊﾟﾜｰｵﾌ/ｵﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

nnnn：エラーコード

意　味	対処できないエラーが発生しました。
処　置	販売店または最寄りの弊社サービス拠点までご連絡ください。合わせて、表示されているエラーコードもお知らせください。

◆オペレータコールエラー

以下に示すエラーメッセージは、オペレータ（お客様自身）が処置できるエラーです。

(インク関係)

```
ｲﾝｸｶﾊﾞｰｦｼﾒﾃｸﾀﾞｻｲ
```

意　味	インクカバーが開いています。
処　置	メッセージに従って処置してください。

```
ｲﾝｸｶﾊﾞｰｦｱｹﾃ
XXXｲﾝｸｦｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

XXX：インク色・場所

意　味	インクパックが未装着です。
処　置	メッセージに従って処置してください。インクパックが装着されているのに、本メッセージがでる場合は、装着不良の可能性があります。インクパックが正しく挿入されているか確認してください。

表示		内容
インクカバーヲアケテ　　nn XXXインクヲカクニンシテクダサイ nn：インクエラーコード XXX：インク色・場所	意　味	インクトレイに異常が発生しました。 または、純正インクパックを認識できませんでした。
	処　置	メッセージに従って処置してください。表示されているエラーコードをお手元に控えておいてください。
インクカバーヲアケテ XXXインクヲコウカンシテクダサイ XXX：インク色・場所	意　味	インクがなくなりました。
	処　置	メッセージに従って処置してください。 （98 ページの「インクパックの装着・交換」）
インクカバーヲアケテ　　（イロ） XXXインクヲカクニンシテクダサイ XXX：インク色・場所	意　味	インクパックの色が間違っています。
	処　置	正しい色のインクパックを装着してください。
インクカバーヲアケテ　　（シュルイ） XXXインクヲカクニンシテクダサイ XXX：インク色・場所	意　味	インクパックの種類が間違っています。
	処　置	正しい種類のインクパックを装着してください。
サブタンクカバーヲハズシテ XXXサブタンクヲセットシテクダサイ XXX：インク色・場所	意　味	サブカートリッジが未装着です。
	処　置	メッセージに従って処置してください。
サブタンクカバーヲハズシテ　　nn XXXサブタンクカクニンシテクダサイ nn：インクエラーコード XXX：インク色・場所	意　味	サブカートリッジに異常が発生しました。 または、純正インクカートリッジと認識できませんでした。
	処　置	メッセージに従って処置してください。
XXXサブタンクヲ　　（イロ） カクニンシテクダサイ XXX：インク色・場所	意　味	サブカートリッジの色が間違っています。
	処　置	正しい色のサブカートリッジを装着してください。
XXXサブタンクヲ　　（シュルイ） カクニンシテクダサイ XXX：インク色・場所	意　味	サブカートリッジの種類が間違っています。
	処　置	正しい種類のサブカートリッジを装着してください。
サブタンクカバーヲ トリツケテクダサイ	意　味	サブカートリッジカバーがはずれています。
	処　置	メッセージに従って処置してください。

（廃インクボトル関係）

表示		内容
ボトルガミソウチャクデス ボトルヲセットシテクダサイ	意　味	廃インクボトルがセットされていません。
	処　置	メッセージに従って処置してください。 （96 ページの「廃インクボトルの交換」）
ハイインクガイッパイデス ボトルヲコウカンシテクダサイ	意　味	廃インクボトルがいっぱいです。
	処　置	メッセージに従って処置してください。 （96 ページの「廃インクボトルの交換」）

（メディアジャム（メディア詰まり））

ｸﾞﾘｯﾌﾟｦｶｲｼﾞｮｼﾃ　　　0
ｶﾊﾞｰｦｱｹﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	メディア搬送経路に障害物があり、本機が正常に駆動できない場合に発生します。
処　置	メッセージに従って処置してください。 なお、実際にメディアジャム（メディア詰まり）が発生していない、またはメディア搬送経路に障害物がないにもかかわらず、何度も発生する場合は、サービス拠点に連絡してください。 **(87 ページの「メディアジャムの処理のしかた」）**

ｸﾞﾘｯﾌﾟｦｶｲｼﾞｮｼﾃ　　　1
ｶﾊﾞｰｦｱｹﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	キャリッジの動作経路に障害物があり、本機が正常に駆動できない場合に発生します。
処　置	メッセージに従って処置してください。 なお、実際にメディアジャム（メディア詰まり）が発生していない、またはキャリッジの経路に障害物がないにもかかわらず、何度も発生する場合は、サービス拠点に連絡してください。 **(87 ページの「メディアジャムの処理のしかた」）**

ｸﾞﾘｯﾌﾟｦｶｲｼﾞｮｼﾃ　　　2
ｶﾊﾞｰｦｱｹﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	ロールメディアとシートメディアの選択を間違えたり、規定サイズ長以外のシートメディアを使用したりして、メディアが正しく検出されない場合に発生します。
処　置	メッセージに従って処置してください。 また、設定内容の確認も行なってください。 **(87 ページの「メディアジャムの処理のしかた」）**

（メディア関係）

ｸﾞﾘｯﾌﾟｦｶｲｼﾞｮｼﾃ
ﾒﾃﾞｨｱｦｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	メディアが無くなった場合に発生します。
処　置	新しいメディアをセットしてください。 **(30 ページの「● メディアをプリンタに取り付ける」）**

ﾒﾃﾞｨｱｦｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	メディアを確認できない場合に発生します。
処　置	メディアセットしてください。 **(30 ページの「● メディアをプリンタに取り付ける」）**

ｸﾞﾘｯﾌﾟｦｶｲｼﾞｮｼﾃ
ﾒﾃﾞｨｱｦｶｸﾆﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	無効なサイズ（74 インチ幅サイズ以上）のメディアがセットされました。
処　置	正しいサイズのメディアをセットしてください。 **(30 ページの「● メディアをプリンタに取り付ける」）**

ｸﾞﾘｯﾌﾟｦｶｲｼﾞｮｼﾃ
ﾒﾃﾞｨｱｦｻｲｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	メディアのスキューが発生しました。
処　置	メディアを正しくセットしなおしてください。 なお、スキューの発生状況によっては、プラテンにインクが付着している可能性があります。その場合はプラテン上のインクをきれいに拭き取ってください。 **(30 ページの「● メディアをプリンタに取り付ける」）**

ｽｷｭｰｦｹﾝｼｭﾂｼﾏｼﾀ
ｿﾞｯｺｳ／ﾁｭｳｼ

意　味	印刷中にスキューが検出されました。
処　置	印刷を続行するかまたは中止してください。

(プリントヘッド関係)

```
ヘッド゛レイキャクチュウデ゛ス
シバ゛ラクオマチクダ゛サイ
```

意　味	本機は安定してインク吐出をさせる為にプリントヘッドの温度を監視しています。監視温度が 40℃を超えると保護装置が働き一次停止します。
処　置	環境温度を 15℃～ 30℃にして、プリントヘッドの温度が上昇しないような環境を保ってくご使用ください。

(通信関係)

```
USB　I／F　イジ゛ョウ
I／Fセツゾ゛クカクニン
```

意　味	印刷データ転送中に USB 接続の異常（ケーブル切断）が検出された場合に表示します。
処　置	USB ケーブル接続を確認してください。

```
デ゛ータジ゛ュシンイジ゛ョウ
I／Fセツゾ゛クカクニン
```

意　味	印刷データの転送中にタイムアウトが発生したが、本機側の不具合ではないと思われる場合に表示します。
処　置	USB ケーブル接続を確認してください。

(その他)

```
カバ゛ーヲ
シメテクダ゛サイ
```

意　味	フロントカバーが開いています。
処　置	メッセージに従って処置してください。

```
インクガ゛ミジ゛ュウテンデ゛ス
ジ゛ュウテンシテクダ゛サイ
```

意　味	インク充填が終了していない時に、クリーニングや印刷を実行すると表示されます。
処　置	インク充填が実施されるまではクリーニングや印刷は行えません。インク充填を実施してください。

```
カバ゛ーヲアケテスピ゜ッティング゛ケース
ヲ　トリツケテクダ゛サイ
```

意　味	起動時、または、カバークローズ時にスピットケースが取り付けられていないことを検出すると表示されます。
処　置	メッセージに従って処置してください。 **(📖 72 ページの「◆ キャリッジ部の清掃」)**

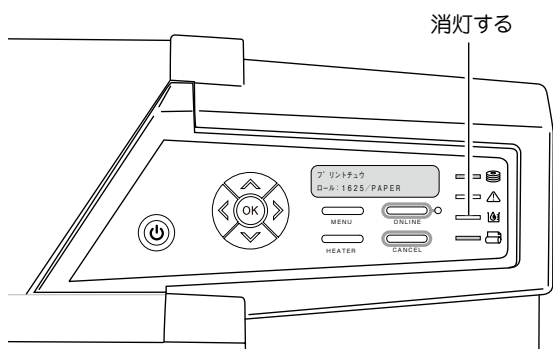
```
シュウイオンド゛イジ゛ョウデ゛ス
セイジ゛ョウニシテクダ゛サイ
```

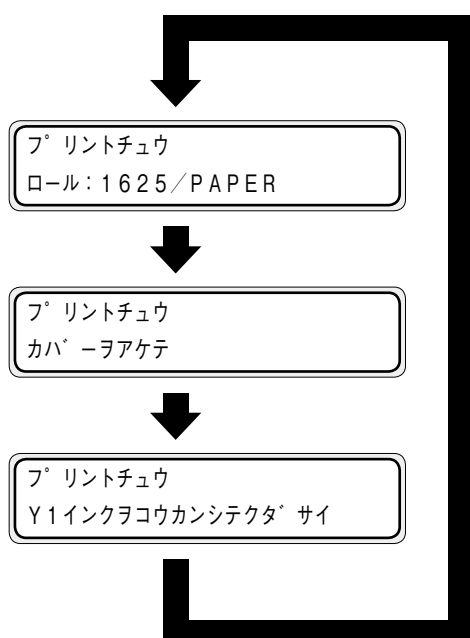
意　味	周囲温度が本機の使用温度範囲外です。
処　置	本機の使用温度範囲内（15℃～ 30℃）でお使いください。

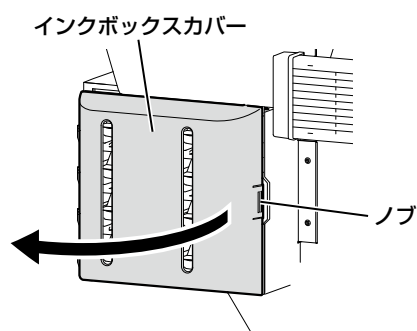
印刷中にインク切れになったとき

本機はオンライン印刷中、印刷動作を中断することなくインクパックを交換をすることができます。

インク切れになった場合、インク LED が消灯します。表示されたメッセージに従って対処してください。

1

インク LED が消灯する

2

インク交換のメッセージが表示される

3

インクボックスカバーを開けてインクパックを交換する

（98 ページの「インクパックの装着・交換」）

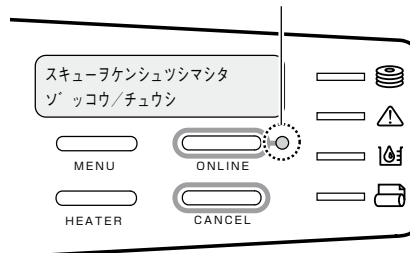
スキューが検出されたとき

本機は、印刷長 3 メートル毎にメディアのスキューチェックを行っています。規定以上のズレを検出した場合、プリントポーズモードになり、印刷を続行するか、中止するかの選択画面を表示します。

（スキューチェックの実施）

スキューヲケンシュツシマシタ
ゾ゛ッコウ／チュウシ

スキューを検出した場合

オンライン LED が点滅

プ゜リントチュウ
ロール：1625／PAPER

ク゛リップ゜ヲカイシ゛ョシテ
メテ゛ィアヲサイセットシテクタ゛サイ

そのまま続行すると…

◆ そのまま「ゾッコウ」を選択すると、停止している部分から印刷を再開できますが、メディアがメディアエッジガードから外れたり、メディアジャムになる可能性があります。
したがって、その後の印刷が長いとズレが大きくなり、本機が故障する恐れがあるので“チュウシ”を選択することをおすすめします。

警告メッセージが表示されたとき

警告すべき情報がある場合、エラー LED ⚠ が点滅します。オンライン印刷終了後、以下のような警告メッセージが表示されます。
表示されたメッセージに従って適切な処置をしてください。

ﾆﾁｼﾞｮｳﾒﾝﾃﾅﾝｽｦ
ｼﾞｯｼｼﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	日常メンテナンス（キャップクリーニング）を実施していない場合に表示されます。
処　置	日常メンテナンスを実施してください。 （66 ページの「日常メンテナンス」）

ｷｮｳｷｭｳﾎﾟﾝﾌﾟﾉ
ｺｳｶﾝｼﾞｷﾃﾞｽ

意　味	供給チューブポンプ ASSY の寿命が近づいてきたときに表示されます。
処　置	サービス拠点に連絡し、供給ポンプの交換を実施してください。

ｲﾝｸﾊﾟｯｸｦｾｯﾄｼ
ｲﾝｸｷｮｳｷｭｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ

意　味	インク初期充填後にインクトレイからのインク供給が完了していません。
処　置	インクパックを用意し、「インクキョウキュウ」を実行してください。

インク LED が点滅：

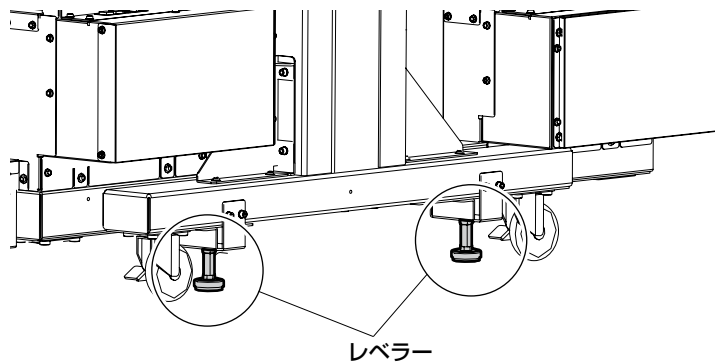
意　味	インク残量が少ない。
処　置	新しいインクパックを用意してください。 （98 ページの「インクパックの装着・交換」）

本機を移動させたいとき

本機を移動させたい場合は、販売店または最寄りの弊社サービス拠点にご連絡ください。

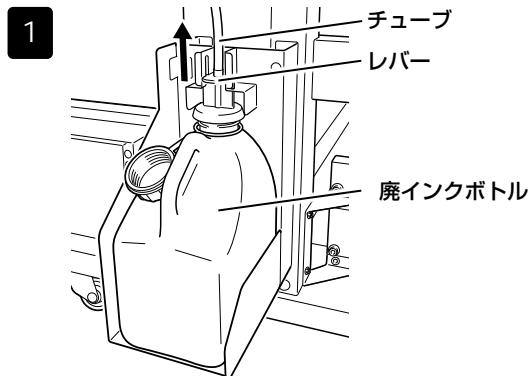
数メートルの平面的な移動をやむを得ず行う場合は、下記の点に注意して行ってください。

⚠注意

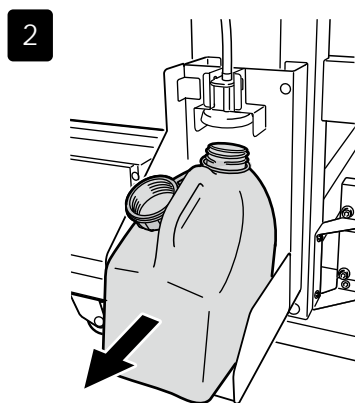
- ◆ メディアを本機に乗せたまま移動させないでください。メディアの重みで本機が破損する恐れがあります。
- ◆ 移動前に本機下のレベラーを緩め上げてください。また、移動完了後は必ずレベラーを締めて固定してください。
- ◆ 移動の際、レベラーに障害物が当たらないよう気を付けてください。

廃インクボトルの交換

⚠注意

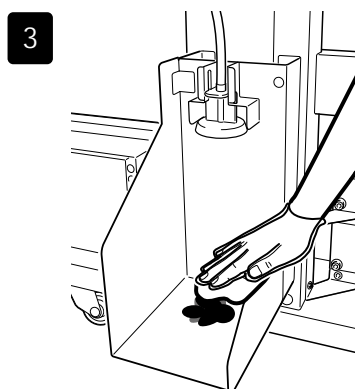
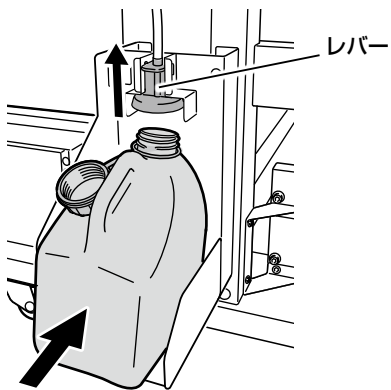
- ◆ 本機の動作中は廃インクボトルの交換作業を行わないでください。
- ◆ 外装カバーの上部に頭をぶつけないようにご注意ください。
- ◆ 廃インクをこぼさないよう、十分にご注意ください。
- ◆ 本作業は手袋を付けて作業してください。

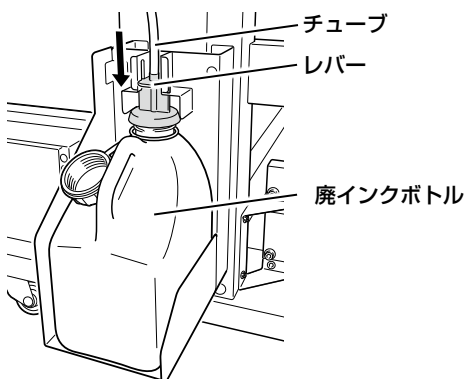
1

レバーを上にスライドさせ、キャップ全体を持ち上げる

チューブからインクがたれますので、しばらくそのままの状態で待ちます。

2

一杯になった廃インクボトルをユニットから外す

付属のキャップでふたをして新品と交換します。

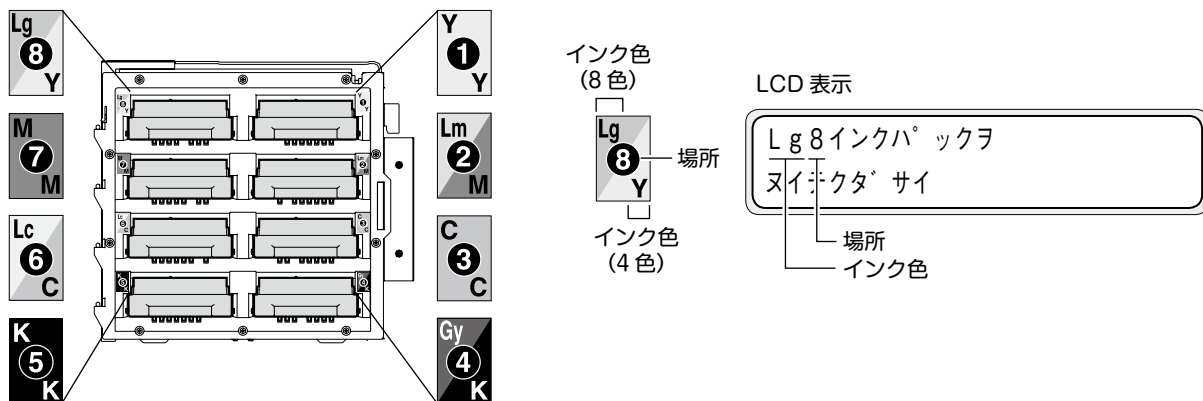
3

廃インクボトルユニット中のこぼれたインクを拭き取る

4 レバーを上にスライドさせ、新しい廃インクボトルをセットする

5 レバーを下げる

6 「＊ YES」を選択し、 キーを押す

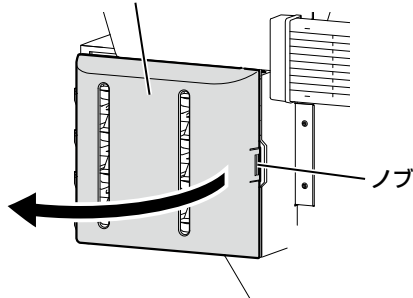
ハイインクカウンタリセットをしないと…

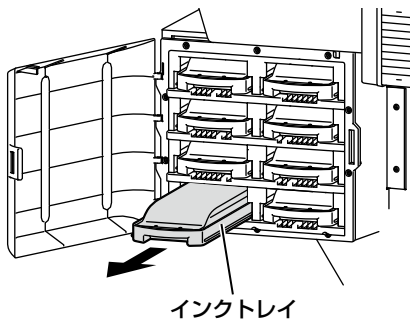
◆ 廃インクが一杯になっても交換メッセージが表示されず、廃インクが溢れてしまいます。

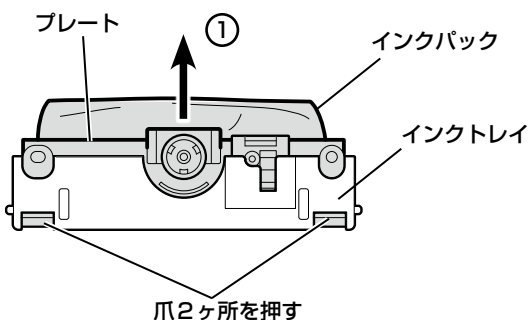
インクパックの装着・交換

インクトレイは色ごとに装着位置が決まっています。必ず所定のスロットに差し込んでください。

⚠注意

◆ 次の状態ではインクトレイを抜かないでください。本機の状態によっては、インクが本機内部にこぼれて故障の原因となる場合があります。
　・停電やプリンタブレーカオフなどで、本機に電源が入っていない場合。
　・インクエンド以外のエラーが発生している場合。
◆ インクパックのプレート内の接点には触れないでください。

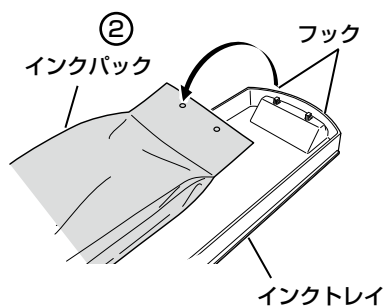
1

インクボックスカバーのノブを押して、インクボックスカバーを開ける

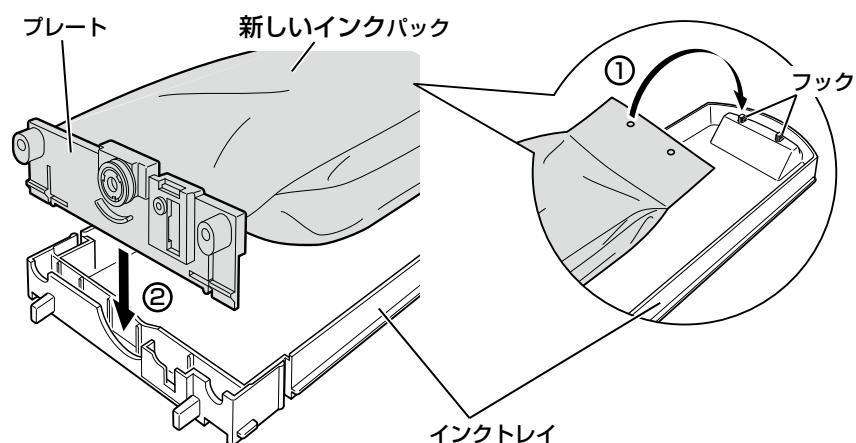
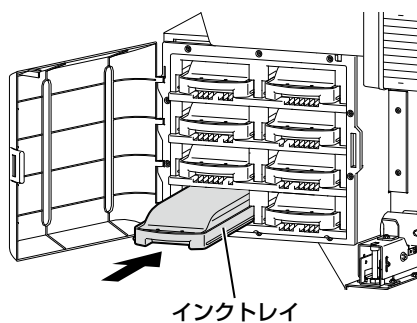
2

交換するインクパックの色を確認し、本機からインクトレイを抜き取る

3

インクが未装着の場合は手順 4 へ進んでください。

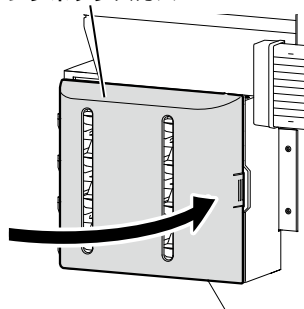
インクトレイから、空になったインクパックを取り外す

① インクパックのプレート下部の 2 ヶ所の爪を押し、プレートを上方向へ抜きます。

② インクトレイのフックからインクパックを外します。

4 新しいインクパックを箱から取り出し、インクトレイにセットする

インクパックの穴（末端部の 2 ヶ所）をインクトレイのフック（2 ヶ所）に引っ掛けます（①）。その後、プレートをインクトレイに、カチッと音がするまで差し込みます（②）。

5 インクトレイをインクボックスのスロットに差し込む

奥までしっかりと差し込んでください。

インクトレイ

6 インクボックスカバーを閉める

7 交換終了

- 正常に終了した場合は、オンラインの状態、またはオフラインの状態に戻ります。
- 正常に終了しなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。手順1に戻ってやり直してください。
- インク交換中でも、サブカートリッジ内にインクが残っている間は印刷します。

スピットケースの交換

表面の汚れ具合を目安にして、2ヶ月から6ヶ月に1回、スピットケースを交換してください。また、スピット液も同時に交換してください。

こんなときは交換です

◆ スピットケース表面にインクがたい積していたり、ネットが破けている時が交換時期です。

⚠注意

◆ **キャッピングユニットからキャリッジを離した状態で、放置しないでください。5分以内に作業を終了させてプリントヘッドをキャッピングしてください。プリントヘッドが乾燥して故障の原因となります。**

1

本機をオフラインにして、MENU キーを押す

2

キーを押す

3

キーを押す

4

キーを押す

キャリッジが移動します。

警告音が鳴ります

◇ キャリッジが移動する際、警告音が鳴ります。警告音を鳴らさないようにする場合は、**応用操作ガイド📖 40ページ** を参照してください。

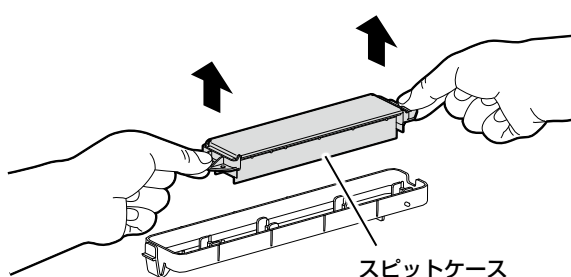
5

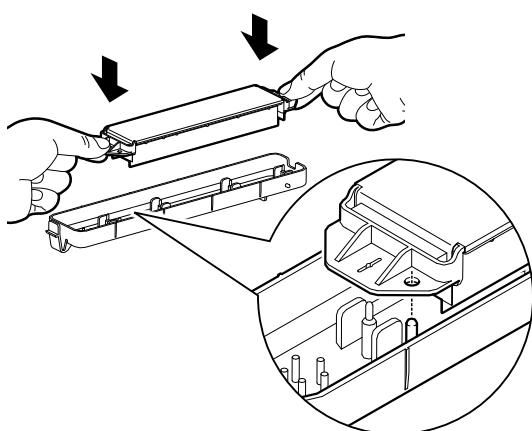
フロントカバーを開けてから、キャップカバーを開ける

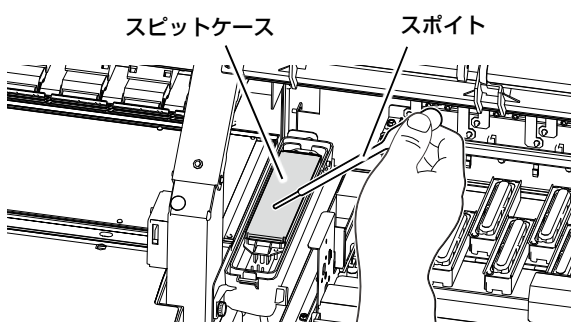
6

スピット液が入っているケースの手前のノブを押して外し、手前を持ち上げてスピット液を奥側へ排出する

排出したスピット液は、廃液ボトルに入ります。
排出が終わったら、スピット液のケースは元の位置へはめ込んでください。

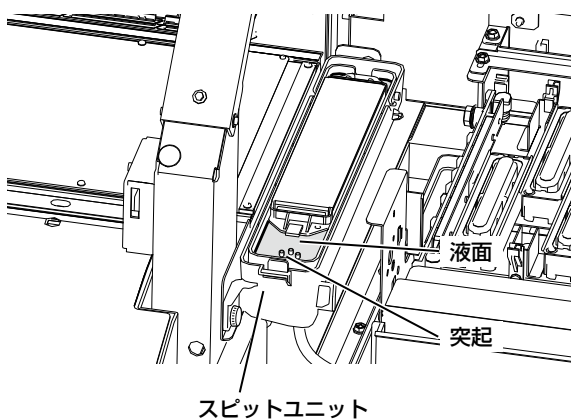
7

スピットケースの手前と奥のツマミを使って、スピットケースを上方向に垂直に取り外す

8

新しいスピットケースの位置決め穴を突起部に合わせながら下方向に水平に取り付ける

9

スポイトを使って、スピットケースをスピット液で湿らせる

10

液量を測る突起の高さまで、スピット液を注ぐ

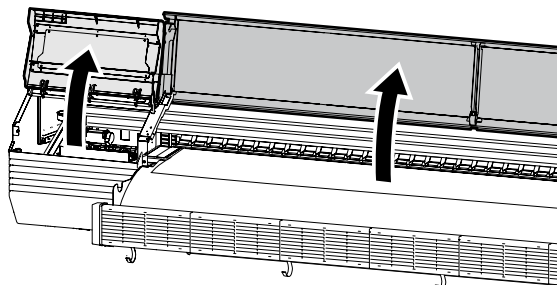
⚠注意

◆ スピットケースに液を注いで数分後、スポンジが液を吸収して液面が下がることがあります。
その場合は再度スピット液を注いでください。

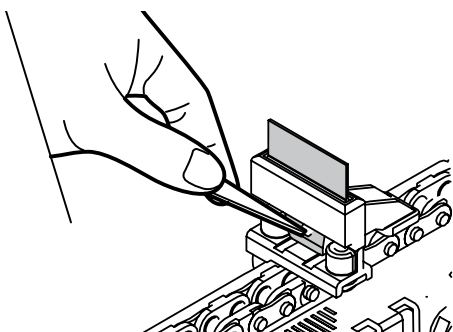
11 **キャップカバーを閉めてから、フロントカバーを閉める**

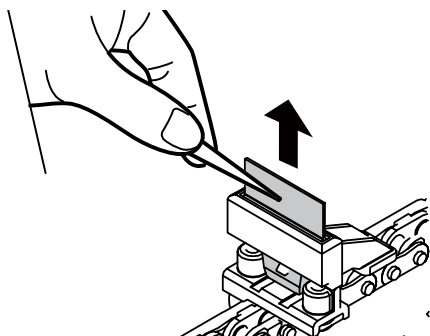
自動的にキャリッジが元の位置に戻ります。

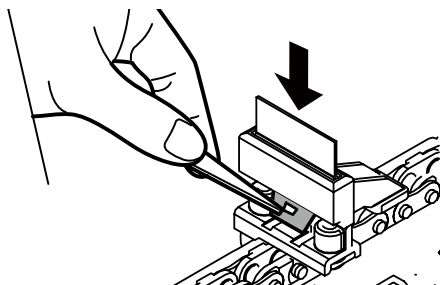
ワイパーブレードの交換

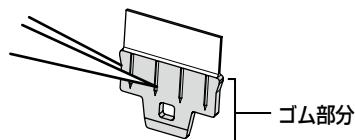
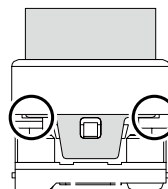
ワイパーブレードは、日常メンテナンスでワイパーブレードに傷がついている場合に交換します。交換作業の前に、あらかじめピンセットを用意してください。（ピンセットは日常メンテナンスキットに同梱されています。）
また、本作業は手袋を付けて作業してください。

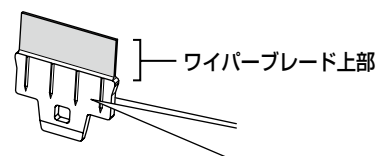
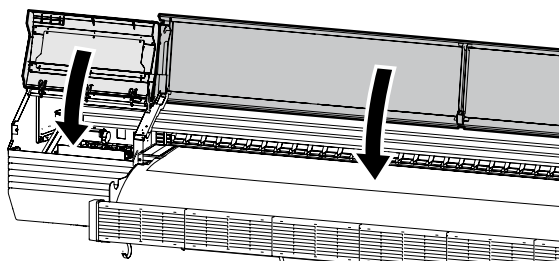
1

フロントカバーとワイプカバーを開ける

2

ワイパーブレードの下の縁をピンセットで挟み、プラスチックの突起部分の引っかかりを外す

3

上に持ち上げるようにしてワイパーブレードを抜き取りとる

4

新しいワイパーブレードを取り付ける

新しいワイパーブレードのゴム部分をピンセットで挟んで上からまっすぐ差し込み、ゴム部分の穴にプラスチックの突起部分が引っかかるように取り付けます。

ワイパーブレード肩部両側が図のように突き当たっていることを確認してください。

注意

◆ ワイパーブレードの上部はプリントヘッドに直接触れる部分なので、ワイパーブレードを取り扱う際に手で触ったり、ピンセットで挟んだりしないでください。

5

ワイプカバーとフロントカバーを閉める

注意

◆ ワイプカバーを閉める時は、ストッパーを外してから閉めてください。ストッパーを外さずに閉めようとすると、ストッパーが曲がったり、キャリッジに接触して故障の原因となる場合があります。

基本仕様

項　目	仕　様　／　機　能	
	IP-7900--00	IP-7700-00
記録方式	ピエゾ式カラーインクジェット記録方式	
解像度	720dpi（主走査方向）X 360dpi（副走査方向）、 540dpi X 540dpi、720dpi X 720dpi、720dpi X 900dpi	
記録速度	30m²/h 104 インチ幅、8 パス（標準モード 1） (8 色機モード)（環境温度およびヘッド温度により変わります）	27m²/h 74 インチ幅、8 パス（標準モード 1） (8 色機モード)（環境温度およびヘッド温度により変わります）
給紙 / 排紙方向	背面給紙、前面排紙	
メディアの種類	塩ビ／ターポリン／メッシュターポリン／電飾ターポリン（FF）／ソルベント用コート紙	
メディア幅	最大 104 インチ（2642mm）	最大 74 インチ（1900mm）
インクパック	一般溶剤インク（8 色） （ブラック、シアン、マゼンタ、イエロー、ライトシアン、ライトマゼンタ、グレイ、ライトグレイ) 各 1500ml	
インタフェース	USB2.0	
騒　音	待機時：50dB (A) 以下 動作時：60dB (A) 以下 （連続音）給紙、巻き取りモータ音、インク供給中を除く	
発熱量	15552KJ/H	
作図保証領域	両端部から 5mm を除く部分（エッジガード使用時は 10mm）	
電源定格	プリンタ電源：6A　AC200V - AC240V　50Hz/60Hz ヒータ電源：12A　AC200V - AC240V　50Hz/60Hz	
電源入力範囲	プリンタ電源：AC180V - AC260V　50Hz/60Hz ± 1Hz ヒータ電源：AC180V - AC260V　50Hz/60Hz ± 1Hz	
消費電力	プリンタ電源：1440W 以下 ヒータ電源：2880W 以下	
外形寸法	4126mm (W) × 1366mm (D) × 1513mm (H) ± 10mm	3383.5mm (W) × 1275mm (D) × 1511mm (H) ± 10mm
質量	600kg 以下 （ロールメディアおよびインクは含みません）	450kg 以下 （ロールメディアおよびインクは含みません）
印刷保証範囲	20 ～ 25℃／ 40 ～ 60% RH（ただし結露しないこと）	
動作時温度／湿度範囲	15 ～ 30℃／ 30 ～ 70% RH（ただし結露しないこと）	
休止時、長期保存温度／湿度範囲	5 ～ 35℃／ 10 ～ 80% RH 以下（ただし、結露しないこと）	
設置スペース	4926mm 以上 (W) × 3366mm 以上 (D) × 2200mm 以上 (H)	4183mm 以上 (W) × 3275mm 以上 (D) × 2200mm 以上 (H)
保守スペース	7126mm 以上 (W) × 3366mm 以上 (D) × 2200mm 以上 (H)	6383mm 以上 (W) × 3275mm 以上 (D) × 2200mm 以上 (H)

消耗品

インクパック

【8 色用インク】1 本入り箱

品　番	インク色	インク容量
IP7-101	Y（イエロー）	1500 ml
IP7-102	M（マゼンタ）	1500 ml
IP7-103	C（シアン）	1500 ml
IP7-104	K（ブラック）	1500 ml
IP7-105	Lc（ライトシアン）	1500 ml
IP7-106	Lm（ライトマゼンタ）	1500 ml
IP7-107	Gy（グレイ）	1500 ml
IP7-108	Lgy（ライトグレイ）	1500 ml

⚠警告

◆ インクには、絶対に火気を近づけないでください。火災の危険があります。
◆ インクは飲んだり、目の中に入らないように注意してください。呼吸困難になったり、目の障害の原因となります。
もし目に入った場合は、直ちに清浄な水で洗い流した後、医師の手当てを受けてください。
また、誤って飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず直ちに医師の手当てを受けてください。

⚠注意

◆ 弊社指定のインクパック以外は絶対に使用しないでください。本機の故障の原因になります。
◆ インクの有効期間は、製造日より 14 ヶ月です。
◆ インクパックは、使用の前に振ったりしないでください。
◆ インクパックをインクトレイにセットし、8 スロット全てに装着してください。交換などで取り外した後は、必ず新しいものを装着してください。

廃インクボトル

品　番	内　容　物	容　量
IP6-109	廃インクボトル	1 個

⚠警告

◆ 廃インクボトルには絶対に火気を近づけないでください。火災の危険があります。
◆ インクは飲んだり、目の中に入らないように注意してください。呼吸困難になったり、目の障害の原因となります。
もし目に入った場合は、直ちに清浄な水で洗い流した後、医師の手当てを受けてください。
また、誤って飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず直ちに医師の手当てを受けてください。

⚠注意

◆ 廃インクボトルが一杯になったら、付属のキャップを確実に締めて産業廃棄物として処理してください。

注意

◆ 廃インクをお客様で処理できない場合は、弊社の「廃棄物回収先」（📖 112 ページ）まで送付してください。また送付の際は、廃インクボトルから廃インクが漏れないように、しっかりとフタをしてビニール袋で包み、ダンボール箱詰めにして送付してください。

日常メンテナンスキット

品　番	内　容　物	容　量
IP7-130	キャップクリーニング液	300 ml
	ワイプクリーニング液	200 ml
	スピット液	100 ml
	スポイト	10 個
	クリーニング棒	10 本
	クリーニングスティック	1 本
	クリーニングローラ	30 個
	ピンセット	1 本
	スピットケース	1 個
	手袋	30 個
	袋	1 包

⚠警告

◆ 液は、飲んだり目の中に入らないように注意してください。呼吸困難になったり、目の障害の原因となります。
もし目に入った場合は、直ちに清浄な水で洗い流した後、医師の手当てを受けてください。また、誤って飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず直ちに医師の手当てを受けてください。

キャップクリーニング液セット

品　番	内　容　物	容　量
IP7-134	キャップクリーニング液 (300 ml)	3 本

ワイプクリーニング液セット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-131	ワイプクリーニング液（200 ml）	3 本

ワイプクリーニング液

品　番	内 容 物	容　量
IP7-135	ワイプクリーニング液（200 ml）	1 本

クリーニング棒

品　番	内 容 物	容　量
IP6-147	クリーニング棒	300 本
	袋	6 包

保管液セット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-137	保管液パック	8 本
	ダミーサブカートリッジ	8 本

洗浄液セット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-136	洗浄液パック	8 本
	ダミーサブカートリッジ	8 本

ヘッドクリーニングキット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-125	ヘッドクリーニングシート	6 枚
	サポートシート	1 枚
	プラテン保護シート	6 枚
	説明書	1 部

スピット液セット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-132	スピット液（100 ml）	3 本

サブカートリッジ

品　番	インク色	容　量
IP7-111	Y（イエロー）	400 ml
IP7-112	M（マゼンタ）	400 ml
IP7-113	C（シアン）	400 ml
IP7-114	K（ブラック）	400 ml
IP7-115	Lc（ライトシアン）	400 ml
IP7-116	Lm（ライトマゼンタ）	400 ml
IP7-117	Gy（グレイ）	400 ml
IP7-118	Lgy（ライトグレイ）	400 ml

ワイパーブレード

品　番	内 容 物	容　量
IP7-133	ワイパーブレード	8 枚

クリーニングスティック

品　番	内 容 物	容　量
IP5-120	クリーニングスティック	1 本
	クリーニングローラ	1 個

クリーニングローラセット

品　番	内 容 物	容　量
IP5-121	クリーニングローラ	90 個

スピットケースセット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-126	スピットケース	1 個
	袋	1 個

色交換セット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-122	洗浄液パック	4 本
	ダミーサブカートリッジ	4 本

インクトレイ

品　番	内 容 物	容　量
IP7-123	インクトレイ	1 個

手袋セット

品　番	内 容 物	容　量
IP7-138	手袋	100 個

吸収スポンジ （オプション「メッシュ印刷キット」用）

品　番	内 容 物	容　量
IP7-127	吸収スポンジ	10 個

吸収シート （オプション「メッシュ印刷キット」用）

品　番	内 容 物	容　量
IP7-124	吸収シート	1 巻

排気ファンフィルタ （オプション「フィルタキット」用）

品　番	内 容 物	容　量
IP7-028	排気ファンフィルタ	60 枚

ダストフィルタ （オプション「フィルタキット」用）

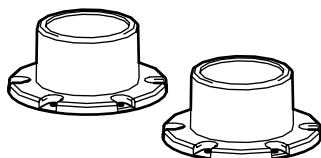
品　番	内 容 物	容　量
IP7-027	ダストフィルタ	1 ロール

オプション

エキゾーストアタッチメント (IP7-013)

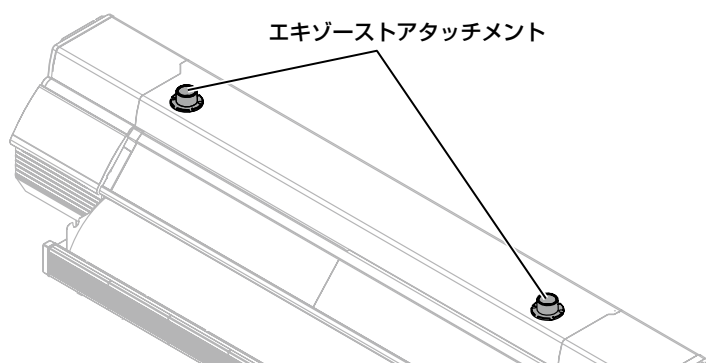
本機使用時に排出されるインク臭を屋外に排気したい場合に取り付けます。
排気ダクトは付属していませんのであらかじめご用意ください。

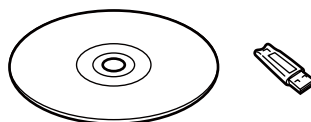
⚠注意

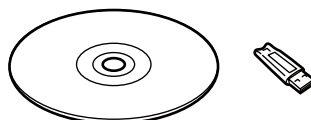
◆ 本アタッチメント使用時も部屋の換気は必要です。

エキゾーストアタッチメント
<2個>

エキゾーストアタッチメント
取り付けネジ
<2個>

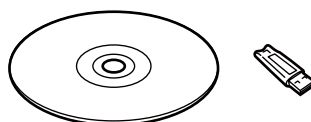
■ 取り付け方

ねじ 6 本でエキゾーストアタッチメントをプリンタに取り付けます。（装置天面に 2 個）

PS RIP (PhotoPrint 6 Standard SIIT Edition) (IP-550)

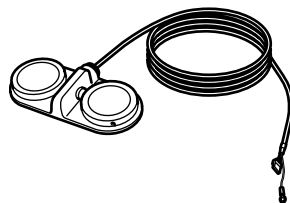
IP-7900-00/7700-00 専用 RIP ソフトウェアをオプションとして用意しています。

PS RIP (PhotoPrint 6 Server SIIT Edition) (IP-551)

IP-7900-00/7700-00 専用 RIP ソフトウェアをオプションとして用意しています。

PS RIP (GamaPrint Pro SIIT Edition)(IP-560)

IP-7900-00/7700-00 専用 RIP ソフトウェアをオプションとして用意しています。

メッシュ印刷キット (IP7-011)　H-104s IP-7900

メッシュターポリンを印刷するときに使うキットです。

フットスイッチ (IP7-014)　H-104s IP-7900

給紙装置、巻き取り装置の巻き取りスイッチ、送り出しスイッチの機能を足で操作できるスイッチを用意しています。

(巻き取り装置に接続したフットスイッチ)

・内巻き／外巻きの設定は、プリンタの巻き取り装置の巻き取り方向スイッチで設定します。
・フットスイッチの黒スイッチは、プリンタ巻き取り装置の巻き取りスイッチ（黒）と同じ機能です。メディアを巻き取り用のスクローラに巻き取りたいときに黒スイッチを踏んでください。
・フットスイッチの白スイッチは、プリンタ巻き取り装置の送り出しスイッチ（白）と同じ機能です。メディアを巻き取り用のスクローラから送り出したいときに白スイッチを踏んでください。

(備考)

・フットスイッチを取り付けても消費電力は増加しません。

⚠注意

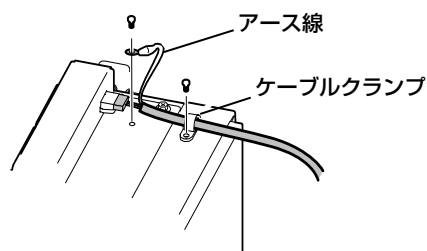
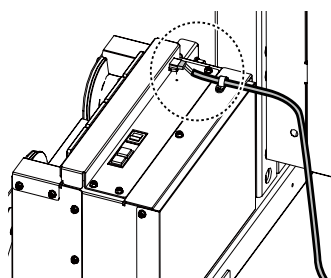
◆ 湿気の多い場所や水分のかかる可能性のある場所では使用しないでください。故障の原因となります。
◆ 濡れた手で本ユニットを接続したり外したりしないでください。故障の原因となります。
◆ インクが本ユニットに付着した場合は、すみやかに拭き取ってください。そのまま放置すると、表面が溶けてしまう可能性があります。
◆ 本ユニットを接続するときや外すときは、コネクタ部を持ってください。コードを引っ張ると、断線やコネクタ接触不良の原因となります。
◆ アース線は必ず接続してください。接続しないとノイズによる誤動作や故障の原因となります。
◆ フットスイッチを強く踏みつけないでください。スイッチ部の故障の原因となります。
◆ フットスイッチの接続ケーブルの上に物を置かないでください。断線等の故障の原因となります。

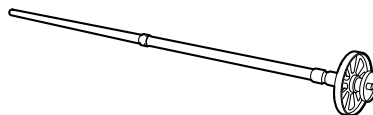
■ 取り付け方

⚠注意

◆ フットスイッチを取り付ける時は、あらかじめプリンタの電源スイッチをオフにしておいてください。

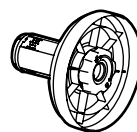
フットスイッチのコネクタを巻き取り装置のコネクタ部分に差し、アース線をネジ止めします。

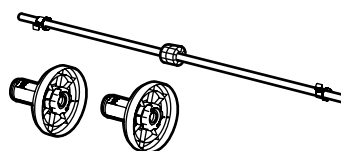
装置に付いているケーブルクランプのネジをゆるめて外し、ケーブルをはさんで元の位置に固定します。

スクローラ (IP7-015) H-104s IP-7900

給紙装置、巻き取り装置に共通で使えるスクローラです。

メッシュ印刷キット 74 (IP7-017) H-74s IP-7700

メッシュターポリン（ライナーなし）を印刷するときに使うキットです。

スクローラフランジ (IP7-018) H-74s IP-7700

スクローラフランジ（１個）をオプションとして用意しています。

スクローラセット (IP7-019) H-74s IP-7700

スクローラフランジ（２個）とスクローラシャフト（１本）をオプションとして用意しています。

テンショナー 104(IP7-023) H-104s IP-7900

テンショナー 74(IP7-022) H-74s IP-7700

２類ターポリンを印刷するときに使うキットです。

オフセットローディングキット 104(IP7-025) H-104s IP-7900

オフセットローディングキット 74(IP7-024) H-74s IP-7700

メディアをワイプよりにずらしてセットするときに使うキットです。

フィルタキット (IP7-029)

吸着ファンおよび排気ファンが吸込んだホコリ等でメディアが汚れるのを防ぐためのフィルタです。

サービス拠点

以下に示す最寄りの弊社営業にご用命ください。

：消耗品販売　：修理／点検

拠点	所在地・窓口	TEL/FAX
◇本　社	〒 261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8	TEL: 043-211-1310 (代) FAX: 043-211-8702
	本社営業部	TEL: 043-211-1369 FAX: 043-211-8713
	東日本サプライ受注センター	TEL: 043-211-1367 FAX: 043-211-8726
	東京サービスセンター 〒 130-0003 東京都墨田区横川 4-9-8 クレール野村 1F	TEL: 050-3116-5536 FAX: 050-3116-5537 IP 電話が繋がらない場合は TEL: 043-211-1367 FAX: 043-211-8726
	東京都の一部、千葉県、栃木県、山梨県、長野県の一部、新潟県の一部	
◇大阪営業所	〒 560-0083 大阪府豊中市新千里西町 1-1-4 千里中央ツインビル別館 2F	TEL: 06-6871-8452 FAX: 06-6871-8467
	西日本サプライ受注センター	TEL: 06-6871-8490 FAX: 06-6871-8491
	大阪サービスセンター	TEL: 06-6871-8460 FAX: 06-6871-8459
	大阪府、兵庫県、和歌山県、京都府、奈良県、鳥取県、滋賀県、香川県、高知県、徳島県	
◇名古屋営業所	〒 461-0004 愛知県名古屋市東区葵 3-15-31 住友生命千種第二ビル 2F	TEL: 052-935-8510 FAX: 052-935-8659
	中部サプライ受注センター	TEL: 052-935-4010 FAX: 052-935-8699
	名古屋サービスセンター	TEL: 052-935-8507 FAX: 052-935-8523
	愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の一部、長野県の一部	
◇札幌営業所	〒 060-0001 北海道札幌市中央区北一条西 10-1-15 キリン札幌ビル 1F	TEL: 011-218-7180 FAX: 011-218-7183
	保守サービス	TEL: 011-218-7190 FAX: 011-218-7193
	北海道	
◇仙台営業所	〒 980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 5 丁目 3-47 上杉オオウラビル 1F	TEL: 022-726-8730 FAX: 022-726-8081
	保守サービス	TEL: 022-726-8731 FAX: 022-726-8081
	青森県、秋田県、山形県、岩手県、宮城県、福島県の一部	

◇水戸営業所	〒 310-0026 茨城県水戸市泉町 1-2-1 アーバンスクエア水戸ビル 1 階	TEL: 029-228-1409 FAX: 029-228-1609
	保守サービス	TEL: 029-233-1069 FAX: 029-233-1098
	茨城県、栃木県の一部、福島県の一部	
◇大宮営業所	〒 330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町 2-96-1 三井生命大宮宮町ビル 1F	TEL: 048-644-5711 FAX: 048-644-6877
	サプライ	TEL: 048-644-6590 FAX: 048-644-6877
	保守サービス	TEL: 048-644-8141 FAX: 048-644-6877
	埼玉県、群馬県、長野県	
◇横浜営業所	〒 220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 2-10-27 東武横浜立野ビル 7F	TEL: 045-316-5780 FAX: 045-321-7540
	サプライ	TEL: 045-321-7511 FAX: 045-321-7540
	保守サービス	TEL: 045-321-7606 FAX: 045-321-7618
	神奈川県、静岡県の一部	
◇富山営業所	〒 930-0004 富山県富山市桜橋通り 1-18 住友生命ビル	TEL: 076-441-3113 FAX: 076-432-3571
	保守サービス	TEL: 076-442-5321 FAX: 076-432-3571
	富山県、石川県、福井県、長野県の一部、新潟県の一部、岐阜県の一部	
◇広島営業所	〒 732-0826 広島県広島市南区松川町 1-19 太陽生命広島松川町ビル 1F	TEL: 082-568-5390 FAX: 082-262-0252
	サプライ	TEL: 082-568-5393 FAX: 082-262-0393
	保守サービス	TEL: 082-262-0251 FAX: 082-262-0252
	広島県、島根県、愛媛県、岡山県、山口県の一部	
◇福岡営業所	〒 812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 1 丁目 17 番 25 号 KD ビル	TEL: 092-411-5311 FAX: 092-411-5313
	サプライ	TEL: 092-475-0431 FAX: 092-475-0432
	保守サービス	TEL: 092-473-8284 FAX: 092-481-1964
	九州すべて、沖縄県、山口県の一部	

◆廃棄物回収先

廃インクは､産業廃棄物（廃油）として処理してください。お客様にて処理不可能な場合は､弊社セイコーアイ･インフォテックの回収センターまで送付してください。（送料はお客様ご負担となります。）送付の際は、必ず廃インクボトルのまま、漏れのないように、しっかりとフタを締め、ビニール袋で包み、ダンボール箱詰めとして送付してください。

◇送付先　京葉アドバンス物流 (株) 内 SIIT 回収センター
〒 272-0004 千葉県市川市原木 2526-35　TEL: 047-318-8303

◆本機に関するお問い合わせ

本機に関するお問い合わせは、弊社営業までご連絡ください。

株式会社セイコーアイ・インフォテック

◇本　　社
〒 261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8　TEL: 043-211-1370（代）
サイン企画営業部　FAX: 043-211-8716

◇ホームページアドレス
http://www.seiko-i.co.jp/

索　引

あ

い

え

お

か

き

く

け

さ

し

す

せ

そ

た

つ

て